

Electone
EL-400
OWNER'S MANUAL
取扱説明書

安全上のご注意

ご使用前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。

注意事項は、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を「警告」と「注意」に区分しています。いずれもお客様の安全や機器の保全に関する重要な内容ですので、必ずお守りください。お子様がご使用になる場合は、保護者の方が以下の内容をお子様にご徹底くださいますようお願い致します。

記号表示について

この機器に表示されている記号や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。

	注意 感電の恐れあり キャビネットをあけるな		注意：感電防止のため、パネルやカバーを外さないでください。 この機器の内部には、お客様が修理/交換できる部品はありません。 点検や修理は、必ずお買い上げの楽器店または 巻末のヤマハ電気音響製品サービス拠点にご依頼ください。
---	-------------------------------------	---	--

△ 記号は、危険、警告または注意を示します。上記の場合、△は機器の内部に絶縁されていない「危険な電圧」が存在し、感電の危険があることを警告しています。また、△は注意が必要なことを示しています。

⊘ 記号は、禁止行為を示します。記号の中に具体的な内容が描かれているものもあります。

● 記号は、行為を強制したり指示したりすることを示します。記号の中に具体的な内容が描かれているものもあります。

* お読みになった後は、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

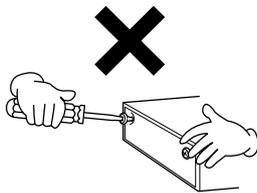
警告

この表示内容を無視した取り扱いをすると、死亡や重傷を負う可能性が想定されます。



この機器の内部を開けたり、内部の部品を分解したり改造したりしない。

感電や火災、または故障などの原因になります。異常を感じた場合など、機器の点検修理は必ずお買い上げの楽器店または巻末のヤマハ電気音響製品サービス拠点にご依頼ください。



浴室や雨天時の屋外など湿気の多いところで使用しない。また、本体の上に花瓶や薬品など液体の入ったものを置かない。

感電や火災、または故障の原因になります。



電源コード/プラグがいたんだ場合、または、使用中に音が出なくなったり異常なおいや煙が出た場合は、すぐに電源スイッチを切り電源プラグをコンセントから抜く。

感電や火災、または故障のおそれがあります。至急、お買い上げの楽器店または巻末のヤマハ電気音響製品サービス拠点に点検をご依頼ください。



電源は必ず交流100Vを使用する。

エアコンの電源など交流200Vのものがあります。誤って接続すると、感電や火災のおそれがあります。



手入れをするときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く。

また、濡れた手で電源プラグを抜き差ししない。感電のおそれがあります。



電源プラグにほこりが付着している場合は、ほこりをきれいに拭き取る。

感電やショートのおそれがあります。

注意

この表示内容を無視した取り扱いをすると、傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定されます。



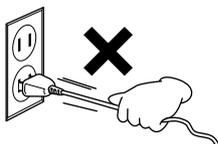
電源コードをストーブなどの熱器具に近づけたり、無理に曲げたり、傷つけたりしない。また、電源コードに重いものをのせない。

電源コードが破損し、感電や火災の原因になります。



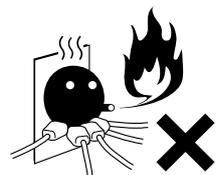
電源プラグを抜くときは、電源コードを持たずに、必ず電源プラグを持って引き抜く。

電源コードが破損して、感電や火災が発生するおそれがあります。



タコ足配線をしない。

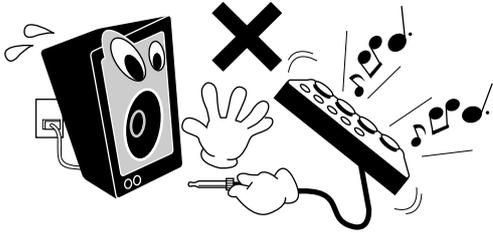
音質が悪化したり、コンセント部が異常発熱して発火したりすることがあります。



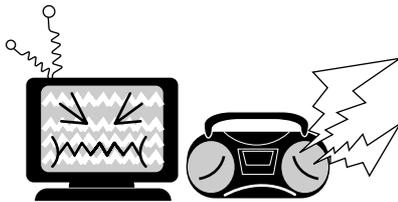
長期間使用しないときや落雷のおそれがあるときは、必ずコンセントから電源プラグを抜く。

感電、ショート、発火などの原因になります。

- ❗ 他の機器と接続する場合は、すべての機器の電源を切った上で行なう。また、電源を入れたり切ったりする前に、必ず機器のボリュームを最小(0)にする。さらに、演奏を始める場合も必ず両機器のボリュームを最小(0)にし、演奏しながら徐々にボリュームを上げていき適切な音量にする。感電または機器の損傷のおそれがあります。



- ⊘ 直射日光のあたる場所(日中の車内など)やストーブの近くなど極端に温度が高くなるところ、逆に温度が極端に低いところ、またほこりや振動の多いところで使用しない。本体のパネルが変形したり内部の部品が故障したりする原因になります。
- ⊘ テレビやラジオ、スピーカーなど他の電気製品の近くで使用しない。デジタル回路を多用しているため、テレビやラジオなどに雑音が生じる場合があります。



- ⊘ 不安定な場所に置かない。機器が転倒して故障したり、お客様がけがをしたりする原因になります。
- ❗ 本体を移動するときは、必ず電源コードなどの接続ケーブルをすべて外した上で行なう。コードをいためたり、お客様が転倒したりするおそれがあります。
- ⊘ 本体を手入れするときは、ベンジンやシンナー、洗剤、化学ぞうきんなどは絶対に使用しない。また、本体上にビニール製品やプラスチック/ゴム製品などを置かない。本体のパネルや鍵盤が変色/変質する原因になります。お手入れは、柔らかい布で乾拭きしてください。
- ⊘ 本体の上に乗ったり重いものをのせたりしない。また、ボタンやスイッチ、入出力端子などに無理な力を加えない。本体が破損したり、お客様がけがをしたりする原因になります。
- ⊘ 鍵盤のすき間から金属や紙片などを落とさない。感電、ショート、発火や故障などの原因になります。すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いた上で、お買い上げの楽器店または巻末のヤマハ電気音響製品サービス拠点に点検をご依頼ください。

- ⊘ 本体を壁につけない。換気が十分でないと、本体内部に熱がこもり、火災が発生するおそれがあります。壁から3cm以上離してください。
- ❗ 組み立てる前に、必ず本書または別紙の組み立て方の説明をよくお読みください。手順通りに正しく組み立てないと、楽器が破損したりお客様がけがをしたりする原因になります。
- ⊘ 大きな音量で長時間ヘッドフォンを使用しない。聴覚障害の原因になります。

イスについて

- ⊘ イスで遊んだり、イスを踏み台にしたりしない。このイスは楽器演奏用です。イスを遊び道具や踏み台にすると、イスが転倒したりこわれたりして、お客様がけがをする原因になります。
- ⊘ イスには二人以上ですわらない。イスが転倒したりこわれたりして、お客様がけがをする原因になります。
- ❗ イスを長期間使用すると、イスのボルトがゆるむことがあります。ネジがゆるんだ場合は、付属のスパナで締め直してください。

作成したデータの保存について

- ❗ 作成したデータはこまめにフロッピーディスクに保存する。作成したデータは、故障や誤操作などのために失われることがあります。大切なデータは、必ずフロッピーディスクに保存することをおすすめします。

不適切な使用や改造により故障した場合の保証はいたしかねます。また、データが破損したり失われたりした場合の保証はいたしかねますので、ご了承ください。

使用後は、必ず電源を切りましょう。

*この製品は、電気用品取締法に定める技術基準に適合しています。

*この製品は、家電・汎用品高調波抑制対策ガイドラインに適合しています。

音楽を楽しむエチケット



これは日本電子機械工業会「音のエチケット」キャンペーンのマークです。

楽しい音楽も時と場所によっては、大変気になるものです。隣近所への配慮を充分にいたしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところで迷惑をかけてしまうことがあります。夜間の演奏には特に気を配りましょう。窓を開めたり、ヘッドフォンをご使用になるのも一つの方法です。お互いに心を配り、快適な生活環境を守りましょう。

はじめに

このたびは、ヤマハエレクトーンEL-400をお買い上げいただきまして、ありがとうございます。
EL-400は、長年にわたって培ってきたノウハウと最新の電子テクノロジーの粋を集めて完成されたエレクトーンです。ほとんどの機能は、体系的でわかりやすいLCDディスプレイを通して操作/設定できます。
EL-400のバラエティあふれる機能のすべてを使って演奏をお楽しみいただくために、是非この取扱説明書をご活用いただきますようお願い申し上げます。
また、ご一読いただいた後も、不明な点が生じた場合に備えて、大切に保管いただきますようお願いいたします。

EL-400の同梱品

取扱説明書	椅子
ELはじめてガイド	保証書
ELはじめてビデオ	愛用者カード
ELはじめてディスク	和文シート
3.5インチ2HDフロッピーディスク	



エレクトーンの電源を切ると、パネル上やLCDディスプレイに設定されていたデータはすべて消去され、再び電源を入れると自動的に基本レジストレーションの1の設定になります。消去したくない設定は、電源を切る前に、レジストレーションメモリーに記憶させることをおすすめします。



「GMシステムレベル1」とは、メーカーや機種が異なった音源でも、ほぼ同じ系統の音色で演奏が再現されることを目的に設けられた、音源の音色配列やMIDI機能に関する一定の基準のことです。

「GMシステムレベル1」に準拠した音源やソングデータには、このGMマークがついています。



「XG」とは、音色の配列に関する「GMシステムレベル1」をより拡張し、時代と共に複雑化、高度化していくコンピューター周辺環境にも対応させ、豊かな表現力とデータの継続性を可能とした音源フォーマットです。「XG」では、音色の拡張方式やエディット方式、エフェクト構成やタイプなどを規定して、「GMシステムレベル1」を大幅に拡張しました。

XGマークのついた市販ソングデータを、XGマークのついた音源で再生することによって、無数の拡張ボイスやエフェクト機能までも含めた壮大な演奏を手軽に楽しむことができます。

*この取扱説明書に掲載されているイラストや画面は、すべて操作説明のためのものです。したがって、実際の仕様と異なる場合があります。

*市販の音楽/サウンドデータは、私的使用のための複製など著作権上問題にならない場合を除いて、権利者に無断で複製または転用することを禁じられています。ご使用時には、著作権の専門家にご相談されるなどのご配慮をお願いします。

*「MIDI」は社団法人音楽電子事業協会(AMEI)の登録商標です。

目次

EL-400 各部の名称	6
EL-400 操作パネル	6
LCDディスプレイ/ディスプレイセレクト	8
EL-400の主な特長	9
1 EL-400の基本操作	10
1 演奏までの準備	10
2 基本レジストレーションを使う	11
3 操作の流れ	12
4 LCDディスプレイ	13
2 ボイスセクション	17
1 ボイスディスプレイ	17
2 パネルで音色を選ぶ	18
3 ドットボタンで音色を選ぶ	21
4 ボイスメニュー	23
3 コントロールとエフェクト	28
1 ボイス コンディション画面で設定するもの	29
【ページ1】	29
1 タッチトーン	29
2 T.V(タッチビブラート)	30
3 フィート	30
【ページ2】	30
1 ボリューム	30
2 プリリアンス	30
3 パン	30
4 リバープ	30
【ページ3】	31
1 エフェクト	31
【ページ4】	32
1 ビブラート	32
【ページ5】(リードボイスのみ)	33
1 チューン	33
2 スライド	33
2 エフェクトセット画面で設定するもの	33
1 トレモロ/コーラス	34
2 シンフォニック/セレステ	34
3 デイレイ	35
4 フランジャー	37
5 ディストーション	38
3 パネルボタンで設定するもの	39
(1) リバープ	39
(2) サステイン	40
(3) トレモロ/コーラス	41
4 リズムとアカンパニメント	44
1 パネルでリズムを選ぶ	44
2 リズムコンディションを設定する	47
3 ドットボタンでリズムを選ぶ	48
4 リズムメニュー	50
5 オートベースコード(A.B.C.)	51
6 アカンパニメント	53
7 プリセット/ユーザーキーボードパーカッション	55
8 メロディオンコード(M.O.C.)	63

5 レジストレーションメモリー	66
1 レジストレーションを記録する	66
2 レジストレーションを呼び出す	67
3 記録したレジストレーションを フロッピーディスクに保存する	67
4 レジストレーションシフト	68
6 ミュージックディスクレコーダー(MDR)	73
1 MDRのご使用の前に	73
2 ディスクをフォーマットする	75
3 録音する	76
4 レジストレーションなどのデータだけを記録する	82
5 レジストレーションなどのデータを読み込む	83
6 レジストレーションだけを入れ替える	83
7 再生する	84
8 その他の機能	88
7 フットスイッチ/ニーレバー/ エクスプレッションペダル	98
1 フットスイッチ	98
2 ニーレバー	101
3 エクスプレッションペダル	103
8 トランスポーズ/ピッチ	104
9 MIDIコントロール	105
10 付属端子	107
11 資料	108
MIDIについて	108
MIDIデータフォーマット	114
MIDIインプリメンテーションチャート	124
故障かな?と思ったら	126
EL-400仕様	129

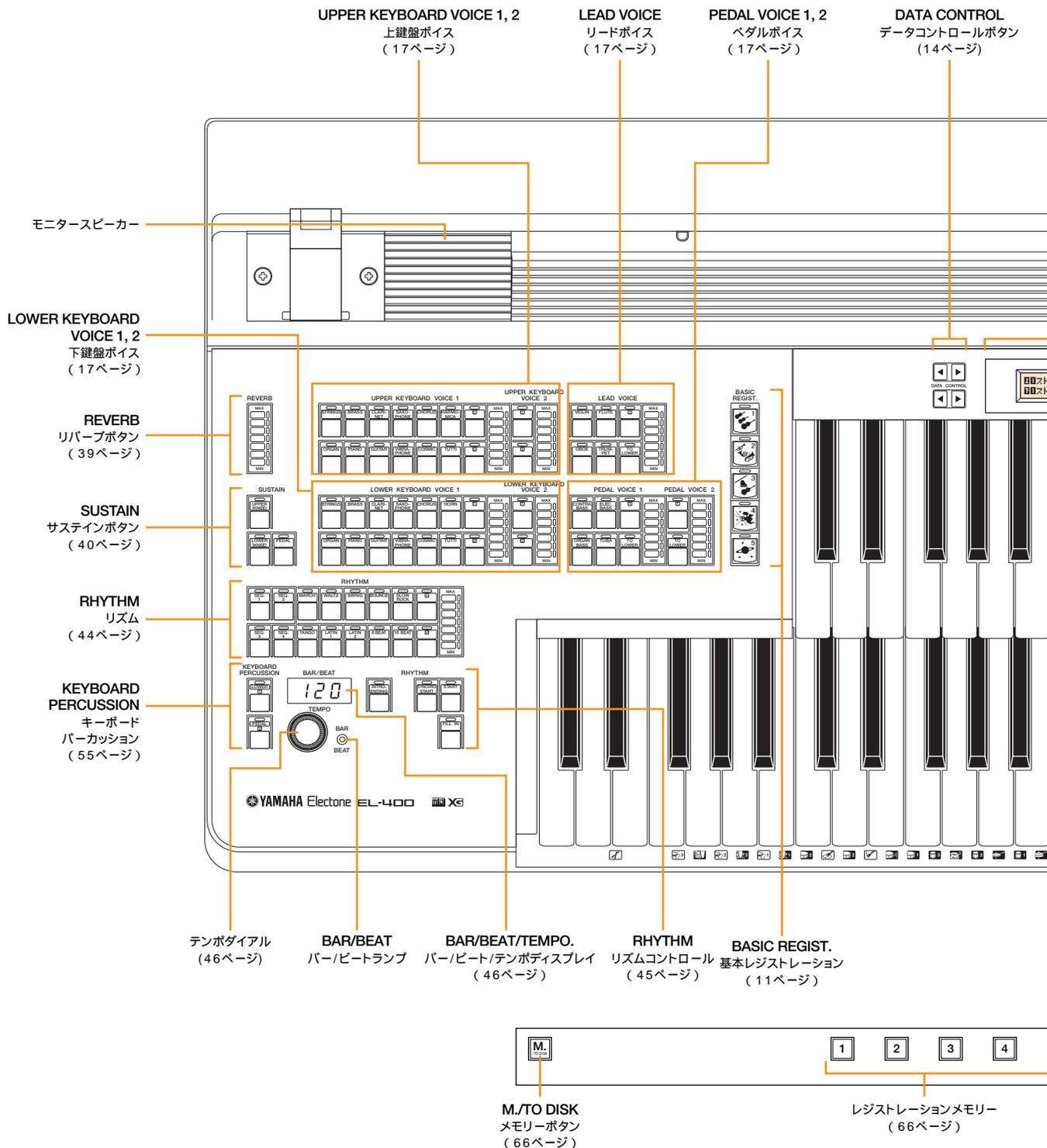
1	EL-400の基本操作
2	ボイスセクション
3	コントロールと エフェクト
4	リズムと アカンパニメント
5	レジストレーション メモリー
6	ミュージックディスク レコーダー(MDR)
7	フットスイッチ/ ニーレバー/ エクスプレッションペダル
8	トランスポーズ/ ピッチ
9	MIDIコントロール
10	付属端子
11	資料

LCDディスプレイ表示や機能用語については、131ページの索引をご利用いただくと便利です。

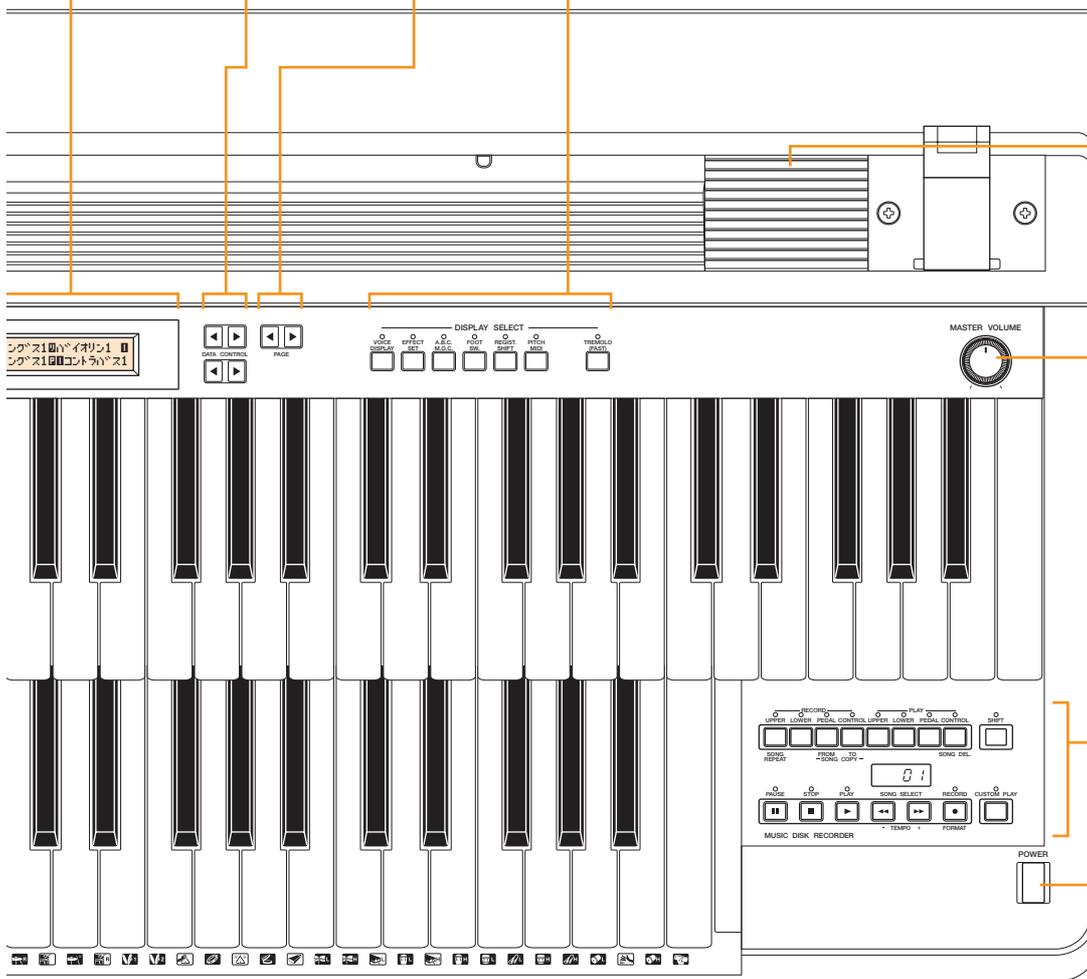
EL-400各部の名称

EL-400 操作パネル

同梱のパネル用和文シートをご利用ください。パネルの英語表記を日本語表記に変えて、ご使用いただけます。



LCD ディスプレイ (13ページ)
 DATA CONTROL データコントロールボタン (14ページ)
 PAGE ページボタン (14ページ)
 DISPLAY SELECT ディスプレイセレクト (8ページ)



モニタースピーカー

MASTER VOLUME
 マスターボリューム (11ページ)

MDR
 ミュージックディスク
 レコーダー (73ページ)

POWER
 パワースイッチ (10ページ)

フロッピーディスク挿入口

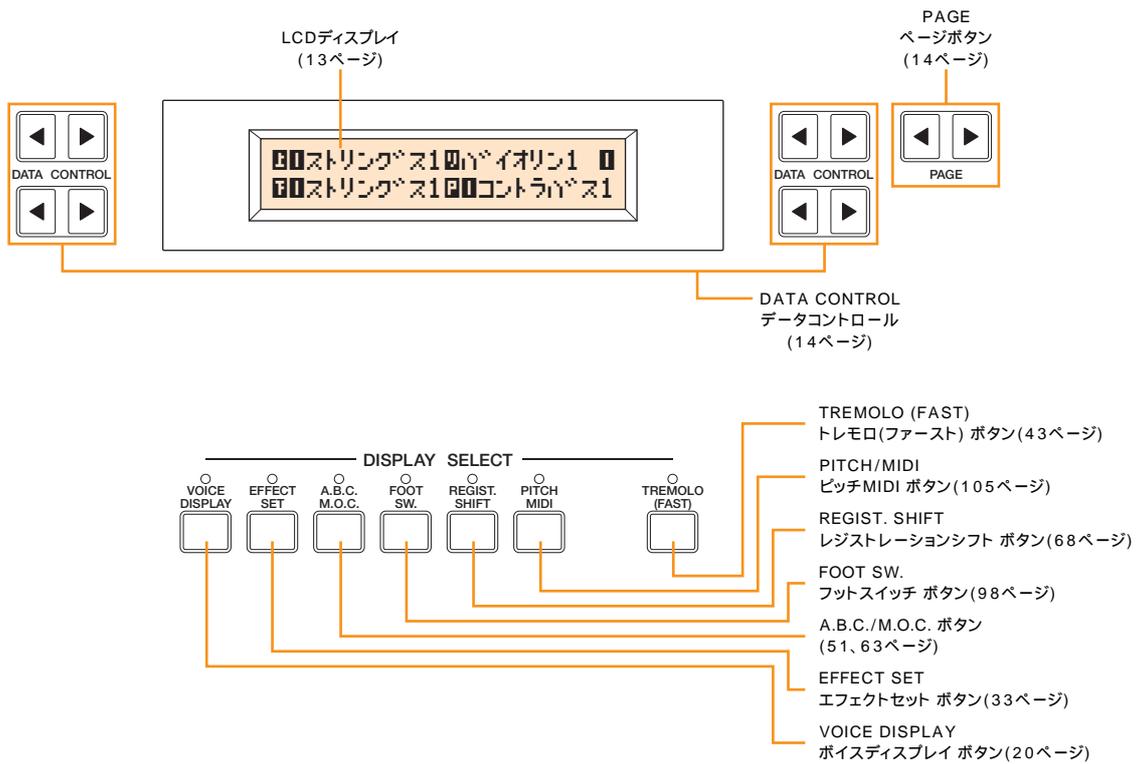


ユーズランプ イジェクトボタン

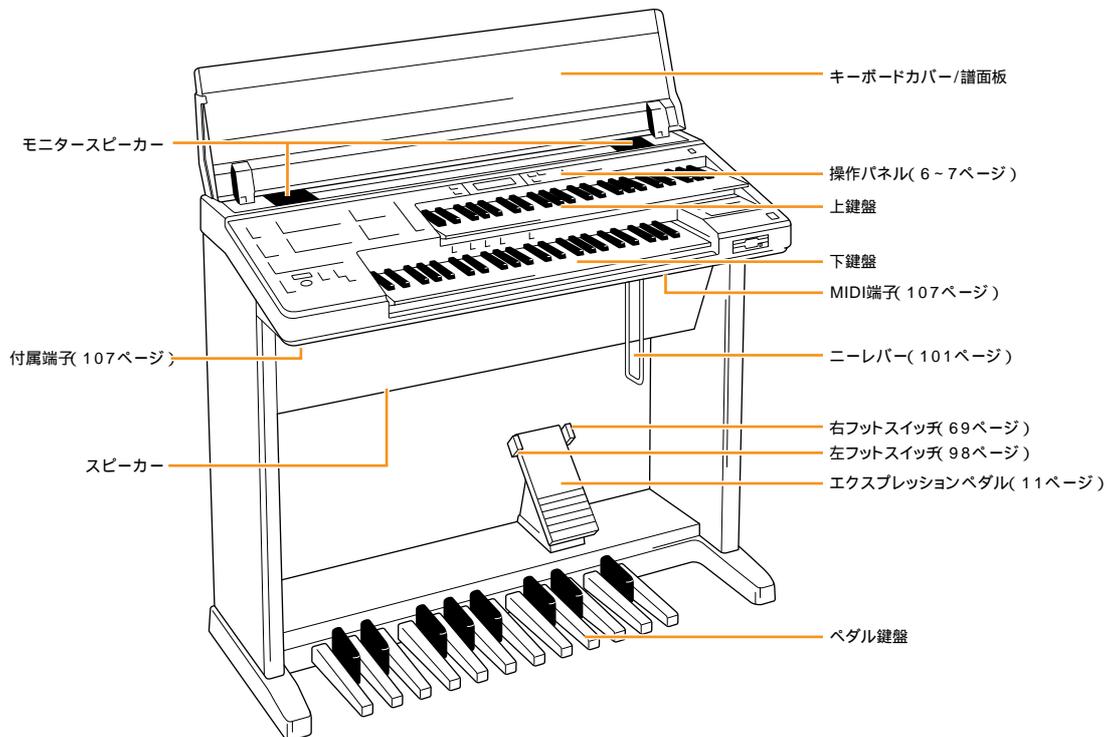


D.(ディスエーブル)ボタン (67ページ)

LCDディスプレイ/ディスプレイセレクト



その他



EL-400の主な特長

1 心の奥底まで表現できるナチュラルで多彩なサウンド

新AWMとFMの技術の粋を結集した最新の音源システムにより、ナチュラルで美しい本格的なサウンドが内蔵されています。全部で173種類(AWM/FM)の楽器音色を使って、多彩な演奏をお楽しみください。

2 豊かな表現力を生み出すタッチトーン

タッチトーン機能により、各楽器の持つ微妙なニュアンスや感情表現が可能です。(29ページ)

3 音楽の幅を更に広げるボイスコンディション

各音群に対して音量や音程、パンニング(発音される位置)など、さまざまな調節が可能です。曲想や好みに合わせて最も演奏にマッチしたコンディションをつくることができます。(29ページ)

4 ハイクオリティ デジタル エフェクト

リバーブはもちろん、ディレイやフランジャー、ディストーションに至るまで、すべて高品位なデジタルエフェクトが音群ごとに得られます。また、エフェクトのオン/オフに関係なくパン機能が働きます。(33ページ)

5 ダイナミックなリズムサウンド/プログラマブル パーカッション サウンド

クオリティの高いAWM音源による66種類もの多様なジャンルのリズムサウンドと、バラエティ豊かなアカンパニメントが、あなたの演奏をサポートします。(44ページ)

キーボードパーカッションは、ユニークな和楽器も加え120種類と豊富で、しかも、すべての打楽器音はどの鍵盤にもアサイン(設定)できます。(55ページ)

6 本格的な演奏に欠かせないレジストレーション機能

さまざまな音楽ジャンルに合ったエレクトーン演奏のための設定が、基本レジストレーションやレジストレーションメニューで簡単に選ぶことができます。(11ページ)

また、自分でパネルやLCDで設定したセッティングを記録しておき、演奏中にワンタッチで呼び出すことができます。(66ページ)

7 データの活用に便利なMDR機能

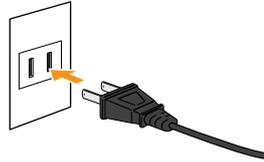
あなたの演奏を録音したり、レジストレーションデータを保存したり、ボイスディスクの音色を呼び出したりできる簡単で便利なMDR(ミュージックディスクレコーダー)機能が内蔵されています。さらに、ディスクコピーや異なったディスク間のソングコピー、市販のXGソングデータへの対応など、機能が充実しています。(73ページ)

8 機能的/体系的で二か国語表示対応のLCDディスプレイ

すべての操作は、機能的/体系的でわかりやすいLCDディスプレイを中心に行ないます。日本語と英語の二か国語表示に対応しており、EL-400が初めての方でも、操作の内容を目で確認することができるので安心です。(16ページ)

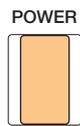
1 演奏までの準備

- 1 電源プラグは必ずAC100Vのコンセントに差し込みます。

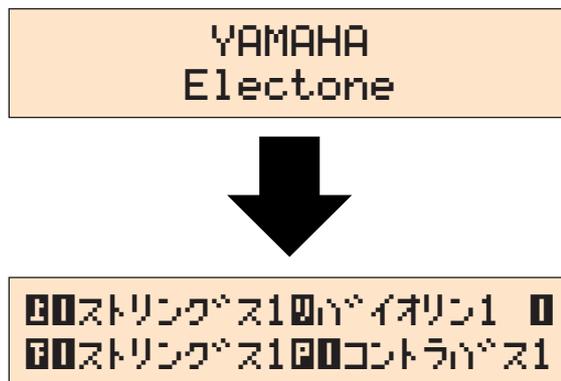


誤ってエアコン用などの200Vのコンセントに接続しないようご注意ください。

- 2 エレクトーンのPOWER(パワー)スイッチをオンにします。



エレクトーンの電源を入れると、LCDディスプレイに以下の表示が連続して現れます。

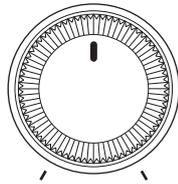


最後に表示された画面が、ボイスディスプレイ画面の1ページ目です。ボイスディスプレイ画面の1ページ目～2ページ目には、各音群に現在設定されている音色名や上鍵盤と下鍵盤の音量バランスが表示されます(18ページ)。また、ボイスディスプレイ画面の3ページ目では、LCDディスプレイの言語表示を日本語が英語に切り換えることができます(16ページ)。

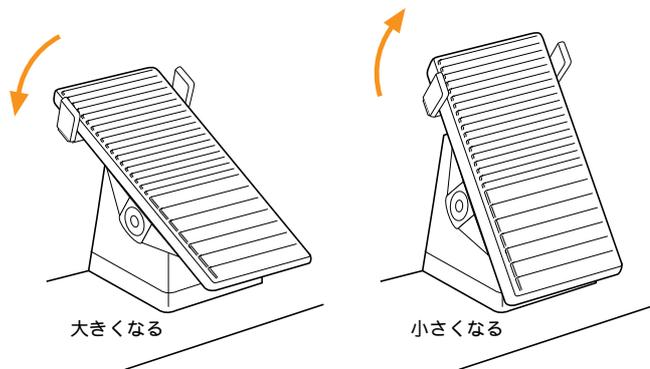
電源を入れると、基本レジストレーション1が自動的に設定されます。

- 3** MASTER VOLUME(マスターボリューム)を設定します。
マスターボリュームでは、エレクトーン全体の音量を調節します。

MASTER VOLUME



- 4** エクスプレッションペダルを右足で適度に踏み込みます。
エクスプレッションペダルでは、演奏中の音の強弱を調節します。このペダルが上がったままの状態では、音は出ません。



2 基本レジストレーションを使う

BASIC REGIST.(基本レジストレーション)セクションの1~5ボタンには、5種類の基本的なレジストレーションがプリセットされています。この5種類のレジストレーションは、それぞれ幅広い音楽ジャンルの中の代表的なセッティングになっています。

基本レジストレーションを選ぶには

BASIC REGIST.セクションの1~5ボタンのうち、いずれか一つを押すだけで、それぞれの上鍵盤と下鍵盤とペダル鍵盤のレジストレーションが自動的に設定されます。エレクトーンの電源を入ると、必ず基本レジストレーション1が選択されます。

	基本 レジストレーション1	基本 レジストレーション2	基本 レジストレーション3	基本 レジストレーション4	基本 レジストレーション5
Upper Keyboard Voice 1 上鍵盤	Strings 1 ストリングス1	Brass 1 ブラス1	Flute 1 フルート1	Cosmic 1 コスミック1	Synth. Brass 1 シンセブラス1
Lower Keyboard Voice 1 下鍵盤	Strings 1 ストリングス1	Horn1 ホルン1	Piano 1 ピアノ1	Cosmic 2 コスミック2	Cosmic 3 コスミック3
Pedal Voice 1 ペダル鍵盤	Contra Bass1 コントラバス1	Tuba チューバ	Contra Bass 1 コントラバス1	Cosmic 2 コスミック2	Synth. Bass 1 シンセベース1

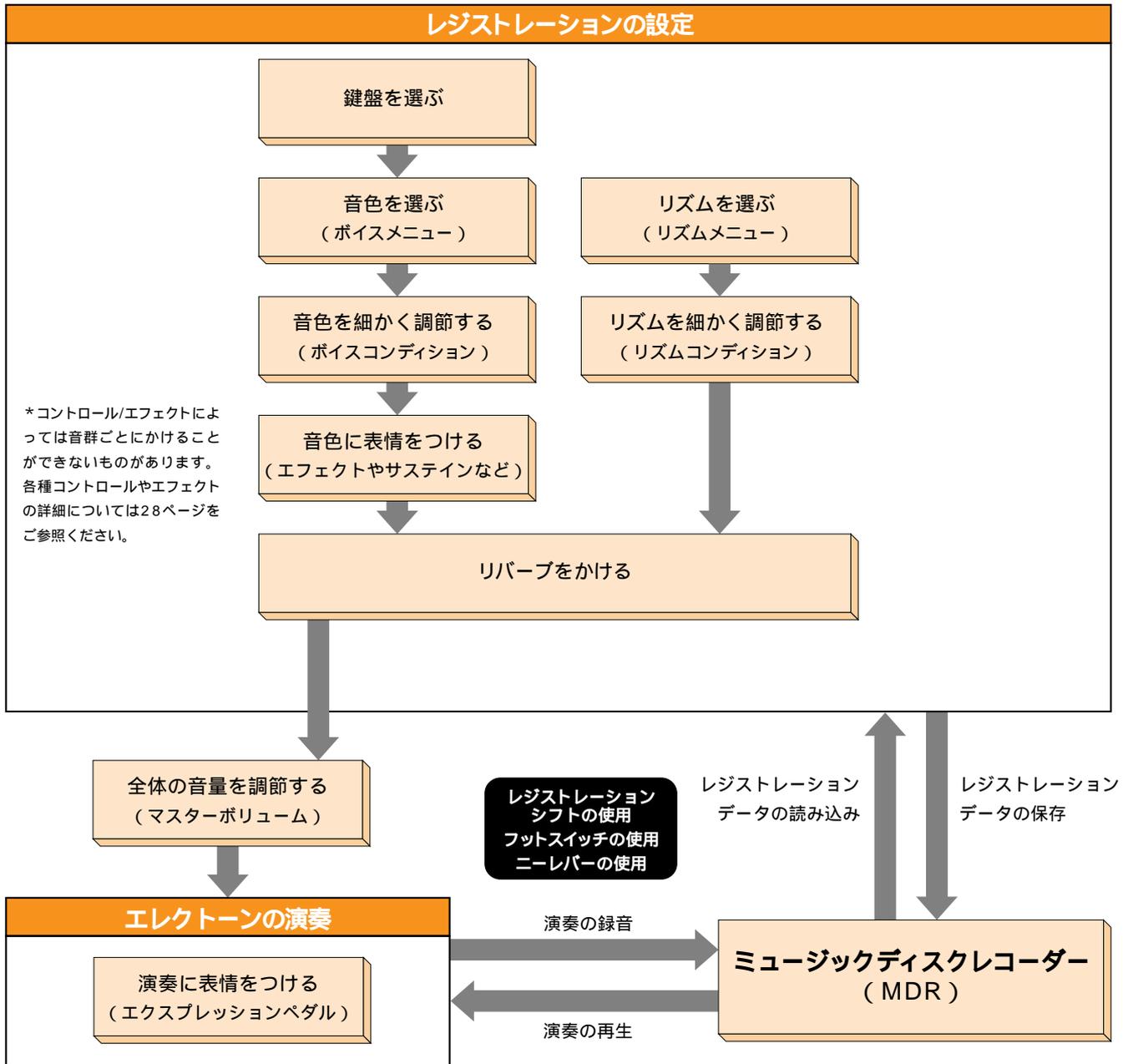


作成したデータを消去したくない場合は、電源を切る前に必ずレジストレーションメモリーボタンに記録してください。(66ページをご参照ください。)ただし、ある条件では、電源を切る前の状態に戻すことができます。(電源を切る前の状態に戻すには、72ページをご参照ください。)



エレクトーンの電源を切ると、パネル上やLCD上で設定していたデータはすべて消去され、再び電源を入ると、自動的に基本レジストレーション1の設定が現れます。

3 操作の流れ

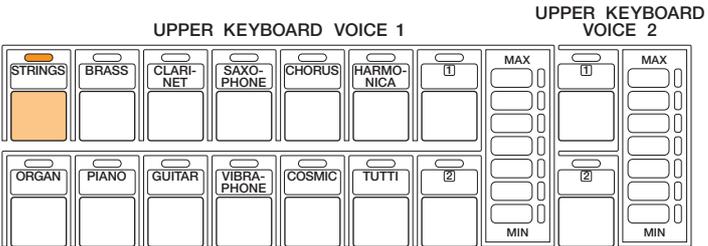


4 LCDディスプレイ

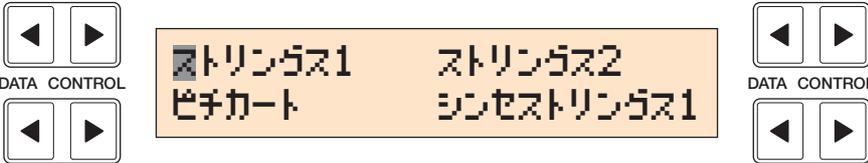
EL-400には、幅広いジャンルで種類も豊富な音色やリズム、高品位のさまざまなデジタルエフェクト類、そしてレジストレーションやMDRなどのバラエティあふれる機能が満載されています。これらの機能を使いこなすためには、EL-400の操作の中心になるLCDディスプレイの使用法をマスターすることが重要です。別冊の「ELはじめてガイド」を参考にしながら実際に操作して、LCDディスプレイの操作方法の理解を深めていきましょう。

音色やリズムを選択する

1 パネル上の音群やリズムセクションの使用したいボイスボタンまたはリズムボタンを押します。



LCDディスプレイ上にボイスまたはリズムメニューが表示されます。



2 自分の使用したいボイス(下の図ではストリングス2)と同じ位置にあるDATA CONTROLボタンを押します。



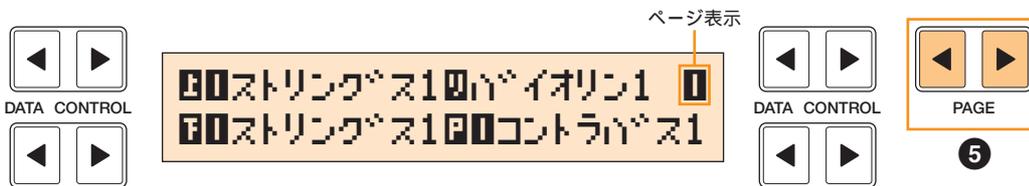
選択された音色の最初の文字が点滅表示になります。
ボイスメニューリストについては、23ページをご参照ください。

DATA CONTROL(データコントロール)ボタンの働き



DATA CONTROLボタンは、①音色や機能を選択したり、②ボリュームやレベルなどの数値を上げ下げしたり、③フィートやエフェクトのように表示されているものから何かを選択したり、④レジストレーションシフトの設定のようにカーソルを左右に動かすために使用します。

PAGE(ページ)ボタンの働き

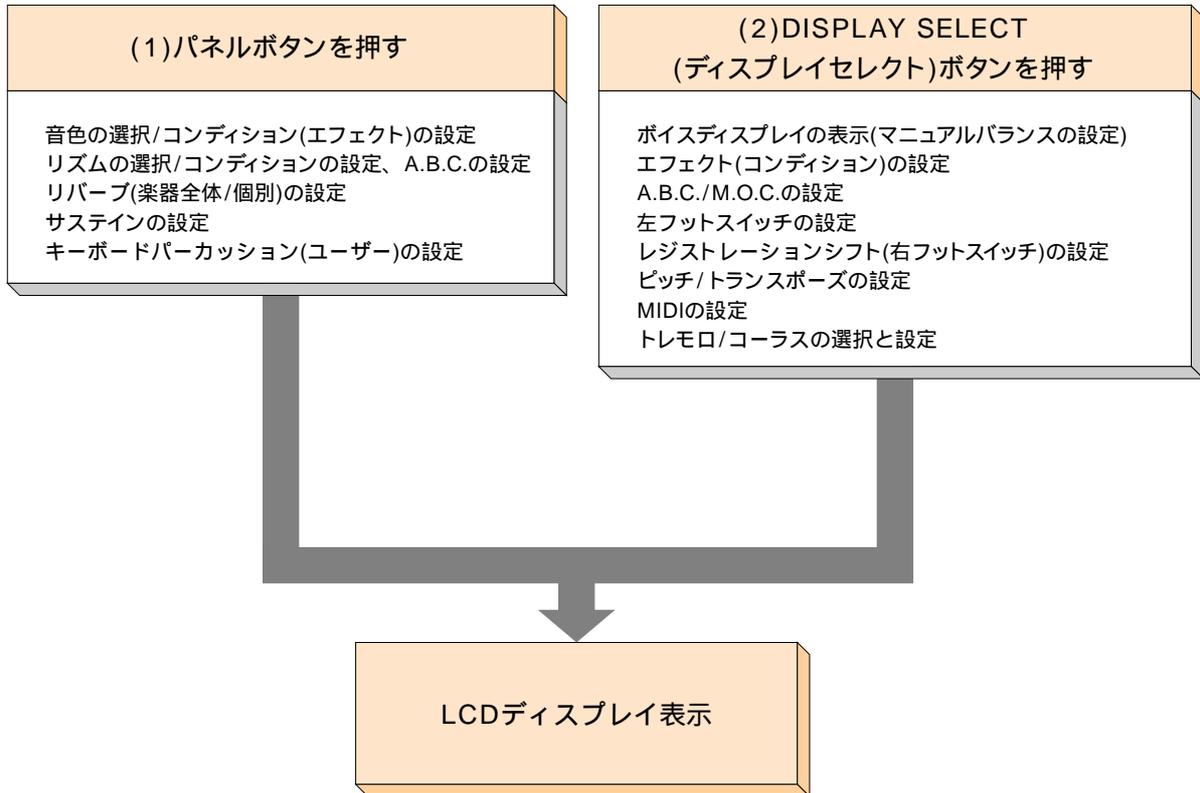


画面の右上にページ表示がある場合には、LCDディスプレイの右側の⑤PAGEボタンを使って、次ページを選択することができます。

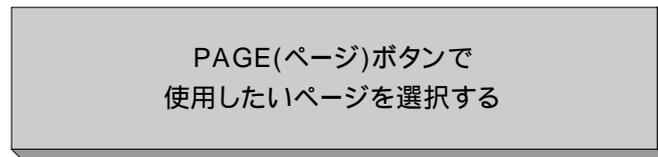
LCDディスプレイ操作のまとめ

以上の操作を、レジストレーションをセッティングする際の操作手順に沿ってまとめてみると、下図のようになります。

1. LCDディスプレイを呼び出す



2. ページを選択する



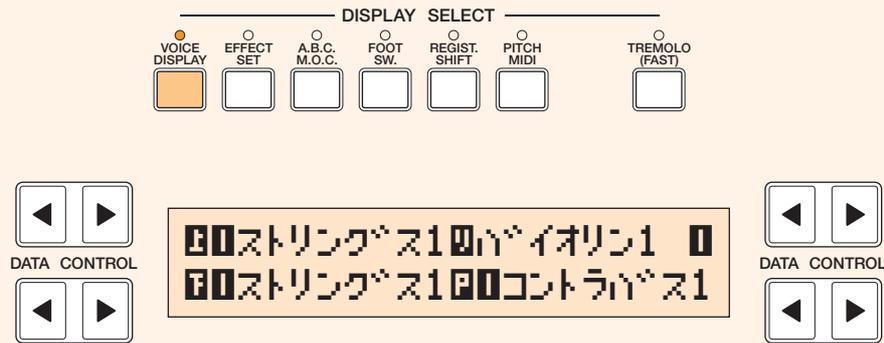
3. 設定したい内容进行操作する



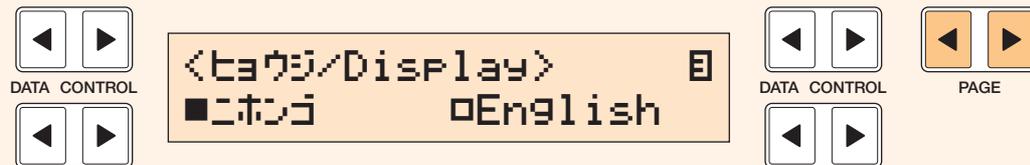
LCDディスプレイの表示言語の切り換えについて

EL-400のLCDディスプレイの表示言語は、工場出荷時には日本語に設定されています。必要に応じてLCDディスプレイの表示言語を英語に切り換えることができます。

1. パネルのVOICE DISPLAY(ボイスディスプレイ)ボタンを押します。
ボイスディスプレイ画面の1ページ目が表示されます。



2. PAGEボタンを数回押して、ボイスディスプレイ画面の3ページ目を表示させます。



3. 右下のDATA CONTROLボタンを押すと、LCDディスプレイのEnglish(英語)の左のボックスが から になり、表示言語が英語に設定されます。



これ以降、LCDディスプレイは英語で表示されます。

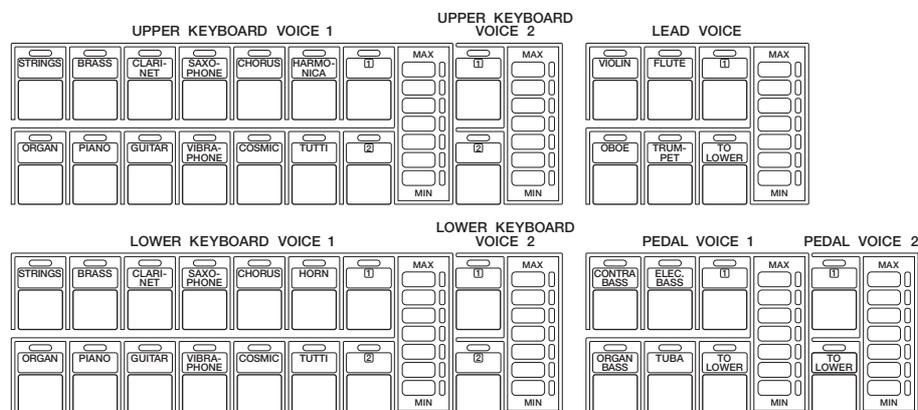
NOTE

なお、表示言語を日本語に戻したい場合、上記1.~2.の操作をくり返して、ニホンゴの左のボックスを選びます(にします)。

NOTE

この設定は、電源を切っても一定期間保存されます。

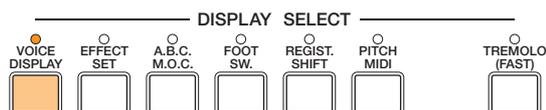
EL-400には、全部で173種類にも及び多彩でナチュラルな楽器音色が装備されています。全音色は、どの鍵盤でも使用することができますが、原則として、7つの音群に分かれています。上鍵盤にはUPPER KEYBOARD VOICE(アッパーキーボードボイス:上鍵盤ボイス)1と2、LEAD VOICE(リードボイス)の3つの音群、下鍵盤にはLOWER KEYBOARD VOICE(ローキーボードボイス:下鍵盤ボイス)1と2、ペダル鍵盤にはPEDAL VOICE(ペダルボイス)1と2の音群があります。それぞれの音群で、個々に音色の設定やボリューム/コンディションの調整をすることができます。



1 ボイスディスプレイ

ボイスディスプレイを使って、各鍵盤にどの音色が設定されているかを確認することができます。

ボイスディスプレイ画面を呼び出すには、パネルのDISPLAY SELECT(ディスプレイセレクト)セクションにあるVOICE DISPLAY(ボイスディスプレイ)ボタンを押します。(電源オン時には、必ずボイスディスプレイが表示されます。)



ボイスディスプレイ画面は3ページで構成されています。各ページはLCDディスプレイの右側にあるPAGE(ページ)ボタンを使って選択します。

ボイスディスプレイ画面の1ページ目と2ページ目には、各音群に現在設定されている音色名や上鍵盤と下鍵盤の音量バランスが表示されます。

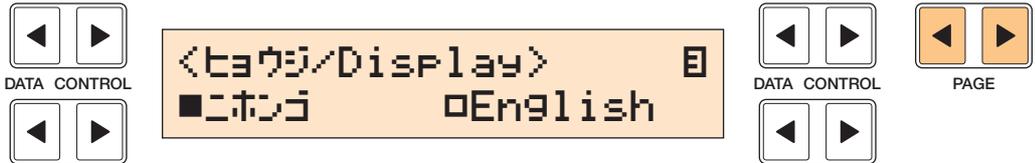
1ページ目



2ページ目



なお、ボイスディスプレイ画面の3ページ目では、LCDディスプレイの表示言語を切り換えることができます(16ページ)。

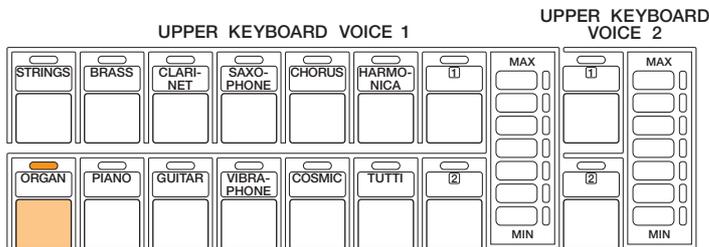


上鍵盤と下鍵盤の音量バランスについては、20ページをご参照ください。

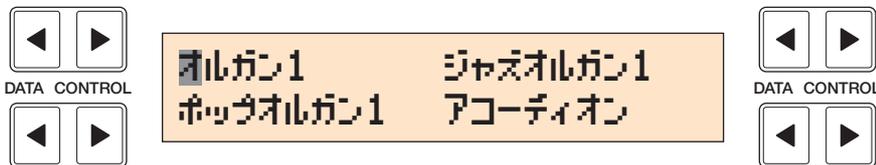
2 パネルで音色を選ぶ

音色の選び方は、どの鍵盤でもどの音群でも共通です。ここでは上鍵盤ボイス1の音色を選ぶ例を使って説明します。

- 1 パネル上のUPPER KEYBOARD VOICE(アッパーキーボードボイス：上鍵盤ボイス)1セクションの中のいずれかのボイスボタンを押します。

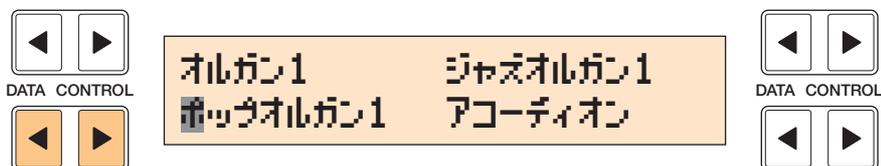


たとえば、ORGAN(オルガン)ボタンを押した場合、LCDディスプレイ上に以下の表示が現れます。



ディスプレイ上には、いくつかのオルガン音色のバリエーション(ボイスメニュー)が表示されます。

- 2 ボイスメニューの中から使用したい音色を選択します。
イラストのように、自分の使用したい音色と同じ位置にあるDATA CONTROL(データコントロール)ボタンを押します。(この場合ポップオルガン1)



選択された音色名の最初の文字が点滅します。これで上鍵盤ボイス1には、ポップオルガン1が設定されました。

- 3 同じ手順で、上鍵盤ボイス2、リードボイス、下鍵盤ボイス1と2、ペダルボイス1と2の音も選択します。



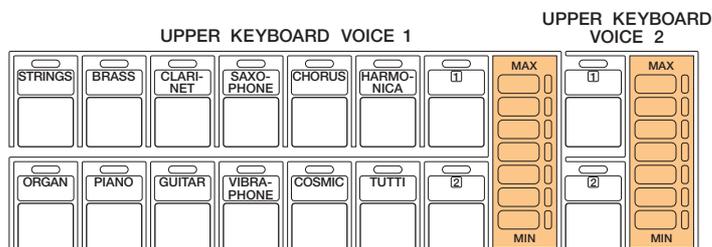
NOTE

上鍵盤ボイス2、下鍵盤ボイス2、ペダルボイス2の音色はドットボタンで選びます。ドットボタンについては21ページをご参照ください。

- 4 次に、それぞれの音群の音量を設定します。
音量を設定するには2通りの方法があります。

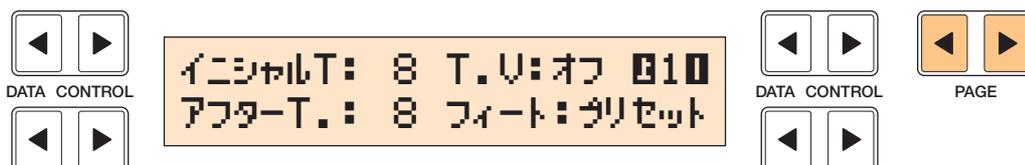
通常の設定(COARSE : コース)

それぞれの音群の右端にあるボリュームコントロールを使用します。0~6の7段階になっています。

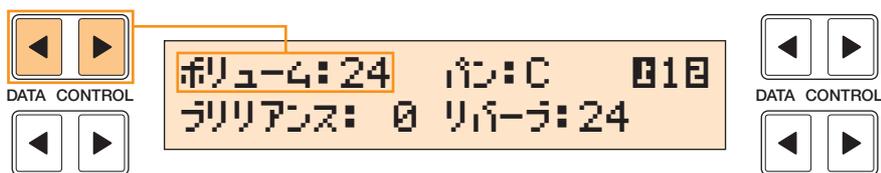


細かな設定(FINE : ファイン)

パネル上に現在表示されている音色ボタンをもう一度押すことで、(または、現在選ばれている音色と同じ位置にあるDATA CONTROLボタンをもう一度押すことで)イラストにあるようなボイス コンディション画面の1ページ目がLCDディスプレイ上に表示されます。PAGEボタンを押して、ボイス コンディション画面の2ページ目を表示させます。



LCDディスプレイの左上に、ボリューム値が表示されますので、その左側にある一組のDATA CONTROLボタンを使って、音量を調節します。0～24の細かな設定が可能です。



パネル上の音色ボタンを一度押すと、その音色のボイスメニュー(バリエーション)がLCD上に表示されます。もう一度押すと、ボイスコンディション画面が表示されます。ボタンを繰り返し押し続けると、ボイスメニューとコンディション画面が交互に繰り返し表示されます。



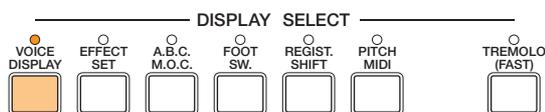
リードボイスの演奏やペダル鍵盤での演奏では、複数の鍵盤を同時に押しても、押された鍵盤の一番高い音が一つだけ発音されます(単音/高音優先)。

5 同じ手順で、下鍵盤ボイスやペダルボイス1と2の音も選択します。

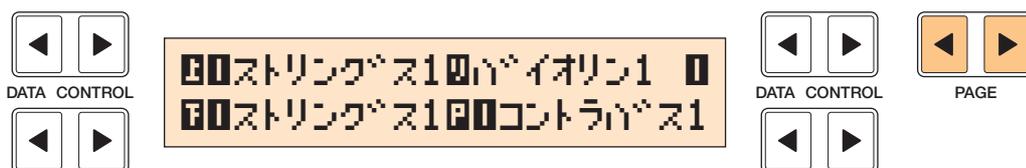
6 上鍵盤と下鍵盤の音量バランスを、ボイスディスプレイ画面上の音量バランスコントロールで調節します。

音量バランスを調整するには

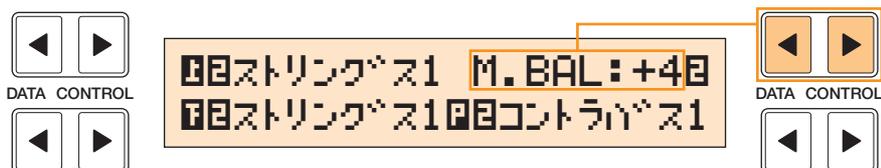
1. パネルのDISPLAY SELECTセクションにあるVOICE DISPLAYボタンを押します。(電源オン時には、必ずボイスディスプレイ画面が表示されます。)



2. LCDディスプレイの右側にあるPAGEボタンを使って、ボイスディスプレイ画面の2ページ目を選択します。



3. 音量バランスコントロール(マニュアルバランス)の右の一組のDATA CONTROLボタンを使って、音量バランスを調節します。値を + にするほど上鍵盤の音量バランスが大きくなり、値を - にするほど下鍵盤の音量バランスが大きくなります。設定できる範囲は - 6 ~ + 6 です。



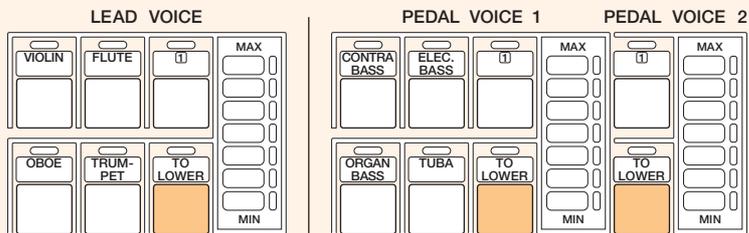
この一組のDATA CONTROLボタンを同時に押せば、バランスはまん中に戻ります。

TO LOWER(トゥーロワー)機能について

通常、上鍵盤で演奏するためのリードボイスやペダル鍵盤で演奏するためのペダルボイス1と2の音色は、それぞれの音群内のTO LOWERボタンを押すと、下鍵盤で演奏することができます。



TO LOWERボタンがオンになっている間は、上鍵盤/ペダル鍵盤を弾いても、リードボイス/ペダルボイスは発音されません。



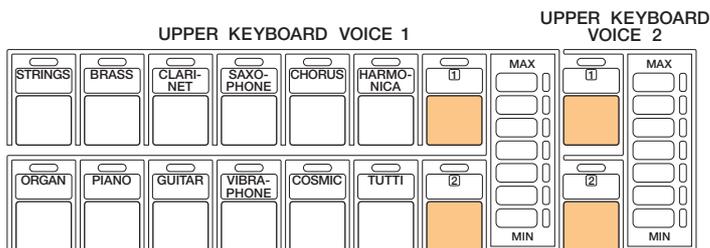
エレクトーンの電源を切ると、パネル上やLCD上で設定していたデータはすべて消去され、再び電源を入ると、自動的に基本レジストレーション1の設定が現れます。

データを消去したくない場合は、電源を切る前に必ずレジストレーションメモリーボタンに記録してください。(66ページをご参照ください。)ただし、ある条件では、電源を切る前の状態に戻すことができます。(電源を切る前の状態に戻すには、72ページをご参照ください。)

3 ドットボタンで音色を選ぶ

EL-400には、パネル上の音色ボタン数より遥かに多くの音色が内蔵されています。今までに、個々のボイスメニューの音色選択方法を説明しましたが、ここでは、それぞれの音群の全音色を自在に使いこなせる便利なドットボタンや、ユーザー音色について説明します。

個々の音群には、右端に2つ(または1つ)のドットボタンがあります。このドットボタンを使うことで、すべての音群の音色や、ボイスディスクから読み込んだユーザー音色を、どの音群にも呼び出すことが可能です。



ドットボタンには、以下のように3通りの便利な使い方があります。

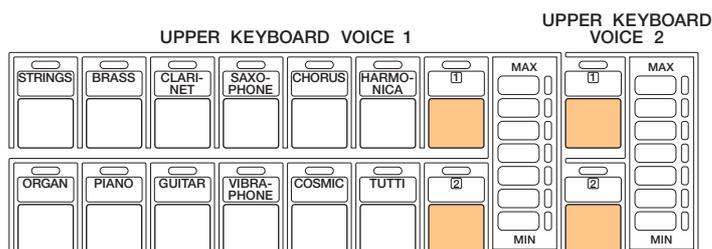
すべてのボイスメニューの音色を、上鍵盤でも、下鍵盤でも、ペダル鍵盤でも使用することができます。たとえば、UPPER KEYBOARD VOICE1セクションには12個のボイスボタン したがって12種類のボイスメニューがありますが、ドットボタンを使うことによって、他の音群を含む22種類のボイスメニューすべてから、音色を選択することが可能になります。(たとえば上鍵盤の音群で、単音のペダルボイスを選択すると、複音で演奏することが可能になります。)

同一グループのボイスメニューの中にある3つの異った音色を1つの曲で使いたい場合、1つの音群の2つのドットボタンを使うことで、あらかじめパネル上のボタンに3音色とも呼び出しておけます。

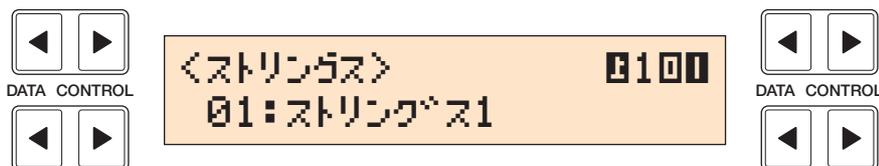
別売ボイスディスクの音色データを保存できるUSER(ユーザー)グループを選択することができます。(94ページをご参照ください。)

ドットボタンで音色を選ぶには

- 1 使用したい音群のドットボタンを押します。
ここでは、例としてUPPER KEYBOARD VOICE 1(上鍵盤ボイス1)のドットボタン1にホンキートンクを設定してみましょう。



LCDディスプレイに、ページ1(ストリングス)が表示されます。

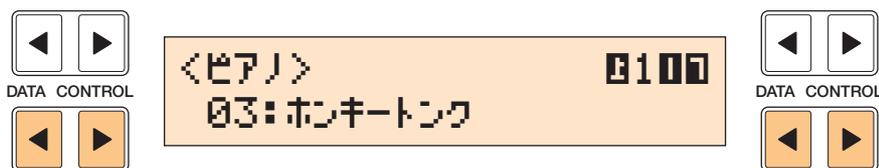


- 2 LCDディスプレイの右側にあるPAGE(ページ)ボタンを押して、22ページ(種類)のボイスメニューの中から、使用したい音色が属しているページを選択します。(この場合はページ17:ピアノ)



ドットボタンを押し続けたままで、自分の使用したい音色ボタンを押すと、他のページを経由しなくても、すぐにそのページが選択できます。

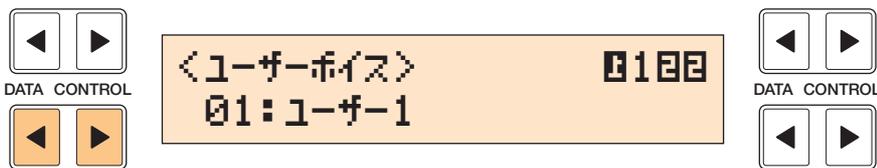
- 3 DATA CONTROLボタンを使って、03:ホンキートンクを選択します。



これで、上鍵盤ボイス1のドットボタン1にはホンキートンクが設定されました。

ユーザー音色を選ぶには

上記と同じ手順でユーザーページを選択し、ユーザー音色を選ぶことができます。



別売のボイスディスク(94ページをご参照ください)から読み込んだユーザー音色を使用する場合は、ユーザーページを選択し、該当するユーザーナンバーを選んでください。

4 ボイスメニュー

パネル上のボイスボタンを押すと表示される、ボイスメニューのリストです。ドットボタンを使って選べるその他の音色については、25ページをご参照ください。



NOTE

ディスプレイの音色名は、省略形のものがあります(例: エレピ エレクトリックピアノ)。

STRINGS (ストリングス アッパー/ロワー)

ストリングス1	ストリングス2
ピチカート	シンセストリングス1

VIOLIN (バイオリン リード)

バイオリン1	バイオリン2
チェロ	ピチカートバイオリン

CONTRABASS (コントラバス ベダル)

コントラバス1	コントラバス2
ピチカートベース	アウトライトベース

BRASS (ブラス アッパー/ロワー)

ブラス1	ブラス2
ブラス3	シンセブラス1

HORN (ホルン ロワー)

ホルン1	ホルン2
ホルン3	ミュートホルン

TRUMPET (トランペット リード)

トランペット1	トランペット2
トロンボーン1	ミュートトランペット

TUBA (チューバ ベダル)

チューバ	ティンパニ
ティンパニロール	

FLUTE (フルート リード)

フルート1	ピッコロ
リコーダー	ホイッスル

OBOE (オーボエ リード)

オーボエ1	オーボエ2
バスーン1	イングリッシュホルン

CLARINET (クラリネット アッパー/ロワー)

クラリネット1	クラリネット2
バスクラリネット	シンセクラリネット1

SAXOPHONE (サクソフォン アッパー/ロワー)

サクソフォン1	サクソフォン2
ソプラノサクソ	シンセリード1

TUTTI (トゥッティ アッパー/ロワー)

トゥッティ1	トゥッティ2
トゥッティ3	トゥッティ4

CHORUS (コーラス アッパー/ロワー)

コーラス1	コーラス2
コーラス3	ボーカル

HARMONICA (ハーモニカ アッパー)

ハーモニカ1	ハーモニカ2
--------	--------

ORGAN (オルガン アッパー/ロワー)

オルガン1	ジャズオルガン1
ホップオルガン1	アコーディオン

PIANO (ピアノ アッパー/ロワー)

ピアノ	エレピ1
エレピ2	ハーブシコード

VIBRAPHONE (ビブラフォン アッパー/ロワー)

ビブラフォン	グロックン
マリンバ	シンセチャイム

COSMIC (コズミック アッパー/ロワー)

コズミック1	コズミック2
コズミック3	コズミック4

ORGAN BASS (オルガンベース ペダル)

オルガンベース1	オルガンベース2
オルガンベース3	オルガンベース4

GUITAR (ギター アッパー/ロワー)

ギター1	ギター2
エレキギター1	ハーブ

ELECTRIC BASS (エレキベース ペダル)

エレキベース1	エレキベース2
シンセベース1	シンセベース2

USER VOICE (ユーザーボイス アッパー/ロワー)

<ユーザーボイス>
01:ユーザーボイス1

01:ユーザーボイス1
↓
16:ユーザーボイス16

*各音色のフィート(オクターブ)設定やエフェクトのオン/オフについては28ページをご参照ください。

ボイスリスト

パネルボタンで選べる音色には がついています。

ページ / 音群	ボイス名	プリセット		イメージ
		フィート	エフェクト	
1ページ Upper/Lower ストリングス	01:ストリングス1	8'	-	標準的な大編成のストリングスアンサンブル。
	02:ストリングス2	8'	-	軽めのストリングス。ポップスにも合う。
	03:ストリングス3	8'	-	小編成のストリングスアンサンブル。
	04:ストリングス4	8'	-	弦をこする音がナチュラル。他の音色とのマッチングも良い。
	05:ストリングス5	8'	-	コンソルディーノ(=弱音器つき)レガート奏向き。
	06:ストリングス6	8'	-	透明感のある響きのストリングス。速いパッセージにも合う。
	07:ストリングス7	8'	-	表情豊かなストリングス。ゆったりとした立ち上がり特徴。
	08:ピチカート	8'	-	ピチカート奏法のストリングス。
	09:トレモロストリングス	8'	-	トレモロ奏法のストリングス。
	10:シンセストリングス1	8'	Cele.	立ち上がりのやわらかいシンセストリングス。
	11:シンセストリングス2	8'	Sym.	明るいシンセストリングス。
	12:シンセストリングス3	8'	Cele.	やわらかい響きのシンセストリングス。
2ページ Lead バイオリン	01:バイオリン1	8'	-	いろいろなジャンルに使えるバイオリン。
	02:バイオリン2	8'	-	立ち上がりのハッキリしたソロ向き。
	03:バイオリン3	8'	-	明るめのフィドル。カントリーやジャズに合う。
	04:バイオリン4	8'	-	暗めのシンセバイオリン風。タッチの変化が大きい。
	05:バイオリン5	8'	-	深いビブラートが特徴のバイオリン。和音で弾くのも良い。
	06:ピチカートバイオリン	8'	-	ピチカート奏法のバイオリンソロ。
	07:チェロ	8'	-	立ち上がりの弦をこする音がナチュラルなチェロ。
	08:コキウ	8'	-	胡弓。
3ページ Pedal コントラバス	01:コントラバス1	8'	-	標準的なコントラバス。
	02:コントラバス2	8'	-	迫力ある固めのコントラバス。オクターブユニゾンで鳴っている。
	03:コントラバス3	16'	-	ナチュラルなコントラバスのソロ。
	04:ピチカートベース	8'	-	ピチカート奏法のコントラバス。クラシック向き。
	05:アップライトベース	8'	-	ウッドベース。ジャズ向き。
4ページ Upper/Lower ブラス	01:ブラス1	8'	-	標準的なトランペット+トロンボーンアンサンブル。どちらかといえばクラシック向き。
	02:ブラス2	8'	-	ビッグバンド風ブラス。アタック感が派手。
	03:ブラス3	8'	-	オクターブで鳴るインパクトの強いブラス。ヒット的に使用してもよい。
	04:ブラス4	U16'/L8'	-	トロンボーンのアサンブルブラス。
	05:ブラス5	8'	-	ポップスに合うタイトなオクターブブラス。
	06:シンセブラス1	8'	-	アタック感の強いシンセブラス。基本レジストレーション5で使用。
	07:シンセブラス2	8'	-	アナログ風のシンセブラス。メロディに使ってもよい。
	08:シンセブラス3	8'	-	ファットなシンセブラス。
5ページ Lower ホルン	01:ホルン1	8'	-	標準的なタイプ。遠近感の出やすいクラシック向きの音色。
	02:ホルン2	8'	-	ホルンユニゾン。やわらかい音色。アルペンホルン風。
	03:ホルン3	8'	-	ソロ用として使いやすいタイプ。
	04:ホルン4	8'	-	荘厳に鳴り響くホルンアンサンブル。
	05:ミュートホルン	8'	-	ミュートホルン。(弱音)
6ページ Lead トランペット	01:トランペット1	8'	-	標準的なタイプ。クラシック向き。
	02:トランペット2	8'	-	洪さと張りのあるジャズトランペット。
	03:トランペット3	8'	-	甘い音色が特徴のロマンティックなトランペット。
	04:トランペット4	8'	-	アタックにクセのある音色。ラテンなどに合う。
	05:トランペット5	8'	-	シンセトランペット。ややコミカルなサウンド。
	06:トランペット6	8'	-	華やかなソロトランペット。
	07:ミュートトランペット	8'	-	ミュートトランペット。(ハーモンミュート)
	08:トロンボーン1	U16'/L8'	-	甘めのトロンボーン。レガート奏向き。
	09:トロンボーン2	U16'/L8'	-	明るくて軽めのトロンボーンソロ。速いフレーズにも合う。
	10:ミュートトロンボーン	U16'/L8'	-	ミュートトロンボーン。(カップミュート)
	11:フリューゲルホルン	8'	-	フリューゲルホルン。
	12:ユーフォニウム	U16'/L8'	-	やわらかい音が特徴のユーフォニウム。
7ページ Pedal チューバ	01:チューバ	16'	-	チューバ。ソロとしても使える。
	02:ティンパニ	8'	-	ティンパニ。
	03:ティンパニロール	8'	-	ティンパニロール。
8ページ Lead フルート	01:フルート1	8'	-	標準的なフルートソロ。
	02:フルート2	8'	-	透明感あるフルートソロ。どちらかといえばレガート奏向き。
	03:ピッコロ	4'	-	ピッコロ。
	04:ヨコブエ	4'	-	明瞭な響きの篠笛。
	05:リコーダー	4'	-	たて笛。(スベリオ by YAMAHAともいう。)
	06:オカリナ	4'	-	素朴な響きのオカリナ。
	07:パンフルート	8'	-	パンフルート。
	08:シャクハチ	8'	-	息音がナチュラルな尺八。
	09:ホイッスル	4'	-	口笛。

2
ボイスセクション

ページ / 音群	ボイス名	プリセット		イメージ
		フィート	エフェクト	
9ページ Lead オーボエ	01:オーボエ1	8'	-	甘めのオーボエ。
	02:オーボエ2	8'	-	タンギングに特徴のある丸い感じの音色。速いフレーズにも合う。
	03:イングリッシュホルン	8'	-	イングリッシュホルン。(コーラングラー)
	04:バスーン1	U16'/L8'	-	レガート奏向き。(標準)
	05:バスーン2	U16'/L8'	-	スタッカート奏向き。
10ページ Upper/Lower クラリネット	01:クラリネット1	8'	-	標準的なクラリネット。
	02:クラリネット2	8'	-	ジャズやポップスに合うクラリネットソロ。
	03:バスクラリネット	8'	-	音が太く深みのあるバスクラリネット。
	04:シンセクラリネット1	8'	-	広がり感のあるシンセクラリネット。
	05:シンセクラリネット2	8'	-	立ち上がりに特長があるシンセリード。
11ページ Upper/Lower サクソフォン	01:サクソフォン1	U16'/L8'	-	標準的なタイプ。アルトサクソフォンのサウンド。
	02:サクソフォン2	U16'/L8'	-	タンギングの非常に強い個性的なテナーサクソ。
	03:ソプラノサクソ	8'	-	ソプラノサクソ。
	04:サクソEns. 1	U16'/L8'	-	やわらかいトーン。クラシック向き。
	05:サクソEns. 2	U16'/L8'	-	ビッグバンド風サクソセクション。
	06:シンセサクソ	8'	-	中低域の厚みが特長のウインドシンセ。
	07:シンセリード1	8'	-	ソフトなアナログ風シンセリード。
	08:シンセリード2	8'	-	アタック感のあるクリアなシンセリード。
	09:シンセリード3	4'	-	ハスキーなノイズリード。
	10:シンセリード4	8'	-	デジタル風シンセリード。
	11:シンセリード5	8'	-	4thで重ねた太いシンセリード。
12ページ Upper/Lower トウッティ	01:トウッティ1	8'	-	ストリングスユニゾン+木管アンサンブル。
	02:トウッティ2	8'	-	ストリングスユニゾン+ブラス。
	03:トウッティ3	8'	-	ブラス中心。クラシックや吹奏楽にもよい音色。
	04:トウッティ4	8'	-	ビッグバンド。弱く弾くとサクソのみ、強く弾くと1オクターブ上のブラスが加わる。
	05:トウッティ5	8'	-	吹奏楽などにより木管アンサンブル。音域によって楽器が異なる。
	06:トウッティ6	8'	-	木管五重奏風。
	07:トウッティ7	8'	-	金管アンサンブル。
13ページ Upper/Lower コーラス	01:コーラス1	8'	-	女性 Ah。
	02:コーラス2	8'	-	男性 Wh。シンセ的な音作りになっている。
	03:コーラス3	8'	-	混声合唱。
	04:コーラス4	8'	-	美しい響きの混声合唱。Wh。
	05:コーラス5	8'	-	スキャット風のボーカルアンサンブル。
	06:ボーカル	8'	-	クセの強いソロボーカル。Ah。
14ページ Upper ハーモニカ	01:ハーモニカ1	8'	-	標準的なタイプ。
	02:ハーモニカ2	8'	-	ソロハーモニカ。プレスなどに合う。
15ページ Upper/Lower オルガン	01:オルガン1	8'	-	小規模なパイプオルガン。8'。
	02:オルガン2	8'	-	大規模なパイプオルガン。フルカブラー。
	03:オルガン3	8'	-	パイプオルガンナザール音栓ミックス。8' + 2 2/3'。
	04:オルガン4	8'	-	足踏みオルガン風。懐かしいサウンド。
	05:ジャズオルガン1	16'	Chor.	(16' + 8' + 5 1/3') ソロ向き。
	06:ジャズオルガン2	16'	Trem.	(16' + 8' + 2') ブロックコート向き。
	07:ジャズオルガン3	16'	Trem.	(16' + 1 3/5' + 1 1/3' + 1') 高い倍音入り。クラスター奏法により。
	08:ジャズオルガン4	16'	Chor.	太くノイズなジャズオルガン。
	09:ポップオルガン1	8'	Chor.	(8' + 4' + 2 2/3') ジャズオルガンのLK向き。ブライト。
	10:ポップオルガン2	8'	Chor.	マルチユース。LK向き。落ちついた音色。
	11:シアターオルガン1	8'	Sym.	(8' + 4') 立ち上がりが遅いのがシアターオルガンの特徴。
	12:シアターオルガン2	8'	-	(16' + 8') 立ち上がりが遅いのがシアターオルガンの特徴。
	13:アコーディオン	8'	-	アコーディオン。立ち上がり遅め。
	14:バンドネオン	8'	-	バンドネオン。イニシャルタッチで音の立ち上がりの変化がつく。
16ページ Pedal オルガンベース	01:オルガンベース1	8'	-	8'系を中心としたコンビネーションオルガンベース。
	02:オルガンベース2	16'	-	パイプオルガンベースI。標準タイプ。ORGAN 1と合う。
	03:オルガンベース3	16'	-	16'中心。ジャズオルガンに合う。
	04:オルガンベース4	16'	-	パイプオルガンベースII。ORGAN 1と合う。フルカブラー。
17ページ Upper/Lower ピアノ	01:ピアノ1	8'	-	マルチユースのグランドピアノ。
	02:ピアノ2	8'	-	ポップスに合う明るい音色のピアノ。
	03:ホンキートンク	8'	-	ホンキートンクピアノ(調律を狂わせたピアノ)
	04:エレピ1	8'	Cele.	DX7風エレピ。
	05:エレピ2	8'	Cele.	ファットなオールドスタイルのエレピ。ハンマー音に特徴。
	06:エレピ3	8'	-	クリスタルな輝きを持ちつつ深みのあるエレピ。
	07:ハーブシコード	8'	-	チェンバロ。
	08:クラビ	16'	-	ファンキーなクラビ。
	09:クラビコード	8'	-	おちついた響きのクラビコード。

ページ / 音群	ボイス名	プリセット		イメージ
		フィート	エフェクト	
18ページ Upper/Lower ギター	01:ギター1	U16'/L8'	-	フォークギター。スチール弦。
	02:ギター2	U16'/L8'	-	フルアコースティックジャズギター。
	03:ギター3	U16'/L8'	-	クラシック。ガット弦。ボサノバのバックিংなどにもよい音色。
	04:12ゲンギター	U16'/L8'	-	少し派手な響きができる12弦クラシカルギター。
	05:バンジョー	8'	-	バンジョー。カントリーやディキシーランドに。
	06:マンドリン	8'	Cele.	マンドリン。自動的にリビートする。
	07:シタール	8'	-	シタール。低音の弦と中高音域の響きの違いが特長。
	08:シャミセン	8'	-	三味線。
	09:エレキギター1	U16'/L8'	-	バックিং向き。シングルコイルマイクのソリッド。
	10:エレキギター	U16'/L8'	-	ソロ向き。オーバードライブがかかったタイプ。
	11:ミュートギター	U16'/L8'	-	ミュート奏法によるギター。
	12:ディストーションGt	U16'/L8'	-	ディストーションギター。
	13:ハープ	8'	-	ハープ。グランドハープ。
	14:スチールギター	8'	-	ハワイアンギター。グライドを使うと効果的。
	15:コト	8'	-	お琴。
	16:タイショウゴト	4'	Cele.	大正琴。
19ページ Upper/Lower ピブラフォン	01:ピブラフォン	8'	-	ピブラフォン。
	02:グロックン	4'	-	グロックンシュピール。
	03:チェレスタ	4'	-	チェレスタ。
	04:オルゴール	4'	-	アンティークなオルゴールサウンド。
	05:マリンバ	8'	-	コンサートマリンバ。
	06:シロフォン	4'	-	イニシャルタッチによる変化が大きいシロホン。
	07:チャイム	4'	-	チャイム。
	08:シンセチャイム	8'	Cele.	かわいいキラキラした音。
	09:スチールドラム	8'	-	スチールドラム。
20ページ Pedal エレキベース	01:エレキベース1	8'	-	マルチユースのフィンガードベース。
	02:エレキベース2	16'	-	スラップベース。いわゆるチョッパーベース風。タッチ感強い。
	03:エレキベース3	16'	-	ピックを使って弾いたアタック感の強いベース。
	04:エレキベース4	16'	Cele.	フレットレスベース。ソロとしても使える。
	05:シンセベース1	16'	-	シンセベース。持続音。
	06:シンセベース2	16'	-	シンセベース。立ち上がりのハッキリした音。
	07:シンセベース3	16'	-	シンセベース。ポヨンポワン?(タッチによって変化)
21ページ Upper/Lower コズミック	01:コズミック1	4'	-	マルチユースなディケイタイプ。基本レジストレーション4のUK。
	02:コズミック2	8'	-	チェレスタの低音のイメージ。基本レジストレーション4のLK&PK。
	03:コズミック3	8'	-	ブラス系。基本レジストレーション5のLK。
	04:コズミック4	8'	-	ディケイタイプ。ファンタスティック。
	05:コズミック5	8'	-	フィードバックつき宇宙音のイメージ。
	06:コズミック6	8'	-	シンセブラス風。
	07:コズミック7	8'	-	フィードバックつきボーカル風。
	08:コズミック8	8'	-	フィードバックつきディストーション風。
	09:コズミック9	8'	-	独特のフィードバックつきディケイタイプ。
	10:コズミック10	8'	-	透感のあるシンセパッド。
	11:コズミック11	8'	-	デジタル風シンセパッド。
	12:コズミック12	8'	-	コーラス風シンセパッド。
	13:コズミック13	8'	-	立ち上がりの緩やかなSFXサウンド。音色変化が激しい。
	14:コズミック14	8'	-	幻想的なデジタルオルゴール風サウンド。
	15:コズミック15	8'	-	民族的な香りのするシンセパーカッション。
	16:コズミック16	16'	-	SFXサウンド。様々な音が複雑な線を織りなす。

EL-400では、ボイス コンディション画面やエフェクト セット画面を使用して、選択した音色に色々なコントロールやエフェクトを加えて、多彩に変化させることができます。

また、音色によっては、あらかじめエフェクトがプリセットされているものもありますが、すべてお好みに応じて設定を変えることが可能です。搭載したエフェクトは、すべてデジタルエフェクトです。

下図は個々の音群に設定可能なコントロールやエフェクトのリストです。コントロール/エフェクトは種類によってかかり方が異なり、各音群ごと、鍵盤ごと、そして楽器全体にかかるものがあります。

		タッチオン	タッチヒフラット	フイート	ボリューム	プリリアンス	パン	リバーブ量	トレモロ/コーラス*1	シンフォニック/セレステ	ディレイ	フランジャー	ディストーション	ピフラット	リードスライド	リードチューン	リバーブ*2	サステイン	
上鍵盤	上鍵盤ボイス1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○	○	
	上鍵盤ボイス2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○	○	
下鍵盤	下鍵盤ボイス1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	—	○	○	
	下鍵盤ボイス2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○	○	
リード	リードボイス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
ペダル	ペダルボイス1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	—	○	○	
	ペダルボイス2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○	○	
関連したLCDディスプレイ	ボイスコンディションページ1	○	○	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			—	—	
	ボイスコンディションページ2				○	○	○	○	—	—	—	—	—	—	—	—	○	—	
	ボイスコンディションページ3 *3								○	○	○	○	○				—	—	
	ボイスコンディションページ4													○			—	—	
	ボイスコンディションページ5<リードボイスのみ>														○	○	—	—	
	エフェクトセット画面 *3	—	—	—	—	—	—	—	○	○	○	○	○						
	リバーブ画面																○	—	
	サステイン画面																	○	—
	トレモロコントロール画面								○									—	—

*1 トレモロ/コーラスのオン/オフおよび、トレモロ/コーラスの切り替えは、楽器全体で1つです。

*2 リバーブの設定は音群ごとにできますが、リバーブ全体の深さ/長さ/タイプの設定は、リバーブ画面で行ないます。

*3 ボイスコンディションページ3とエフェクトセット画面は、共通の内容になっています。

またコントロールやエフェクトを加えるには

1. ボイス コンディション画面で設定するもの
2. エフェクト セット画面で設定するもの
3. パネルボタンで呼び出すもの

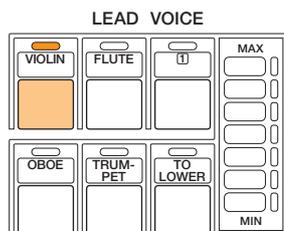
の3種類に大別されます。

ここでは、この順序に従って、各コントロール/エフェクトを説明していきます。

1 ボイス コンディション画面で設定するもの

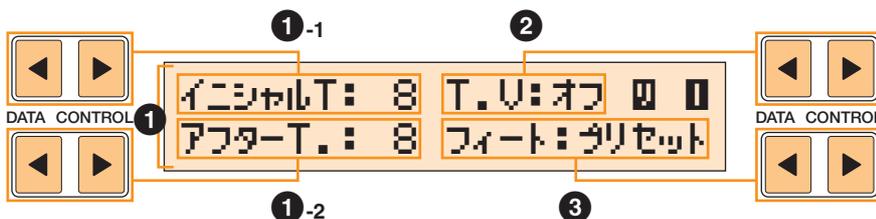
ボイス コンディション画面を呼び出すには

パネル上の音色ボタンを二度続けて押すと(LCDディスプレイ上に使用したい音色【音群】がすでに表示されている場合は一度だけ押すと)、LCDディスプレイ上にボイスコンディション画面の1ページ目が現れます。



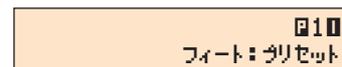
上鍵盤ボイス/下鍵盤ボイス/ペダルボイスの各音群にはそれぞれ4ページのボイスコンディション画面があります。またリードボイスの音群には、これらの4ページに1ページ加えた5ページのボイスコンディション画面があります。

【ページ1】ボイス コンディション画面



ペダル音群とそれ以外の音群によって内容が異なります(ペダル音群にはフィートの設定しかありません)。

ペダル



① タッチトーン

タッチトーンは、1つの楽器音の音量/音質全体にわたって、より豊かに、またはより繊細に表現する力を発揮するもので、楽器表現の命とも言える重要な機能の1つです。この機能を効果的に使うことによって、個々の楽器特有の微妙な表現が可能となります。

タッチトーンには、イニシャルタッチとアフタータッチの2種類があり、音群ごとに設定が可能です。

①-1 イニシャルT(イニシャルタッチ)

鍵盤をたたくスピードによって、音量と音質をコントロールします。

一般的に、鍵盤をより強く弾けばそれだけ音量は大きくなり、音質は明るくなります。

レベルを上げるとタッチによる変化が大きくなります。

設定範囲：0～14

①-2 アフターT.(アフタータッチ)

鍵盤を押えつける強さによって、立ち上がった後の音量と音質をコントロールします。一般的に、鍵盤をより強く押えることによって音量は大きくなり、音質は明るくなります。

レベルを上げるとタッチによる変化が大きくなります。

設定範囲：0～14



一般的に、減衰系の音(たとえばピアノやピブラフォン)やパーカッションサウンドには、アフタータッチは機能しません。



レベルを一番下にすると、イニシャルタッチ/アフタータッチはかからなくなります。

② T.V(タッチビブラート)

タッチビブラートのオン/オフスイッチです。タッチビブラートをオンにすると、演奏中に鍵盤を強く押さえることによって、ビブラートをかけることができます。鍵盤をさらに強く押さえると、ビブラートはより深くなります。

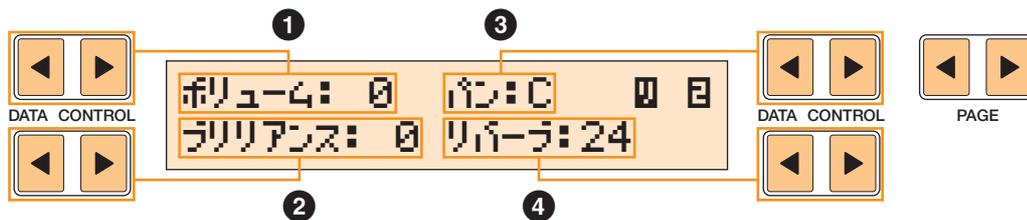
③ フィート

各音群ごとに異なったオクターブに設定できます。1つの音色を幅広い音域で使用することもできます。

プリセットが基本設定で、4'、8'、16'の3種類の設定が可能です。なお、ペダル音群の場合さらに2'の設定が追加されます。

【ページ2】ボイス コンディション画面

PAGEボタンで2ページ目を選びます。



① ボリューム

音量の細かな設定を行ないます。20ページをご参照ください。

設定範囲：0～24

② ブリリアンス

音群ごとに音質を変化させ、音色を明るくしたり暗くしたりします。

設定範囲：-3～+3

③ パン

ステレオ出力によるそれぞれの音群ごとの楽器音の位置を決定します。

パンは、左右に7ヶ所の位置--左端(L3)～L2～L1～まん中(C)～R1～R2～右端(R3)の範囲で設定することができます。

④ リバーブ

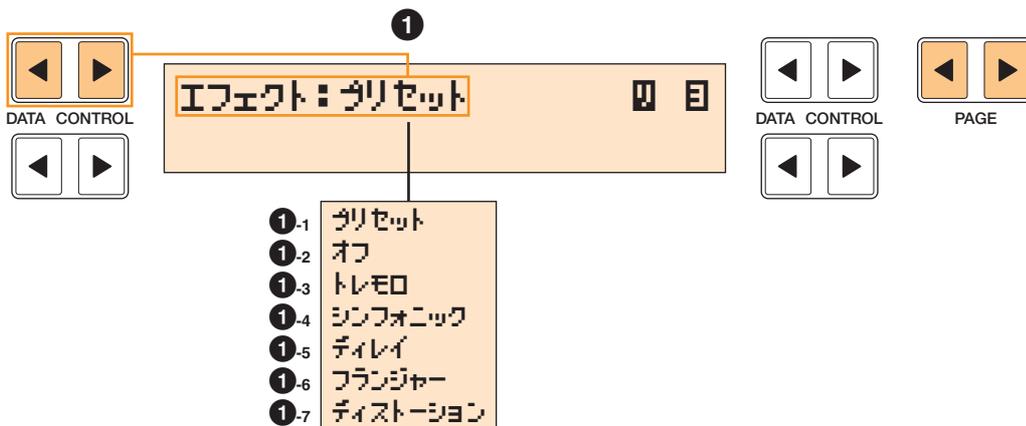
音群ごとにかかるリバーブの量を設定します。このリバーブを最大にしても、パネル上のリバーブ全体のボリュームを上げないと、リバーブ効果は得られません。

詳しくは39ページをご参照ください。

設定範囲：0～24

【ページ3】ボイスコンディション画面

PAGEボタンで3ページ目を選びます。



① エフェクト

ここで、音群ごとにかけるエフェクトの種類を選択します。

LCDディスプレイ左上のDATA CONTROLボタンの▶を押すたびに、プリセット オフ トレモロ シンフォニック ディレイ フランジャー ディストーション プリセットの順番でエフェクトを選ぶことができます。また、DATA CONTROLボタンの◀を押すたびに、逆の順番でエフェクトを選ぶことができます。

①-1 プリセット

プリセットが初期設定になっています。プリセットが選択されていると、音色によっては、あらかじめエフェクトが設定されているものがあります。

①-2 オフ

エフェクトはかかりません。

①-3 トレモロ

音群ごとにトレモロ/コーラス効果をかけるかかけないかを選択します。演奏中のオン/オフやトレモロスピードの設定については、41ページをご参照ください。

①-4 シンフォニック

シンフォニック/セレステをオンにします。シンフォニック/セレステの設定については、エフェクトセット(34ページ)をご参照ください。

①-5 ディレイ

ディレイをオンにします。ディレイの設定については、エフェクトセット(35ページ)をご参照ください。

①-6 フランジャー

フランジャーをオンにします。フランジャーの設定については、エフェクトセット(37ページ)をご参照ください。

①-7 ディストーション

ディストーションをオンにします。ディストーションの設定については、エフェクトセット(38ページ)をご参照ください。

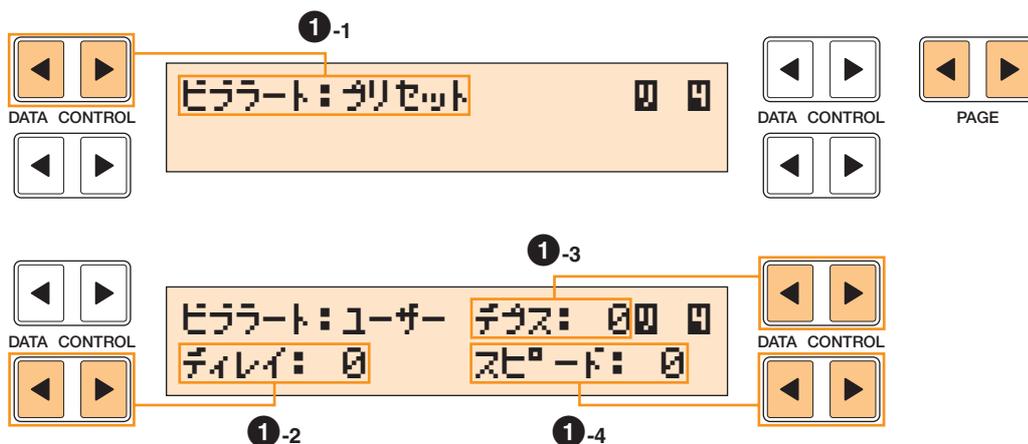


NOTE

エフェクトは、パネルのDISPLAY SELECTセクションの中のEFFECT SET(エフェクトセット)ボタンで設定することもできます(33ページ)。

【ページ4】ボイスコンディション画面

PAGEボタンで4ページ目を選びます。



① ビブラート

ビブラートは、音色をふるわせてマイルドなイメージにします。音群ごとの設定が可能です。

①-1 プリセット/ユーザー切り替え

プリセットが初期設定になっています。プリセットが選択されていると、音色によっては、あらかじめビブラートが設定されているものがあります。

ユーザーを選択すると、ディスプレイ上にビブラートのパラメーターが現れ、自分でビブラートの設定ができるようになります。

①-2 デイレイ

鍵盤を押してからビブラートがかかるまでの時間の長さを決定します。レベルを上げるとビブラートがかかるまでの時間が長くなります。

設定範囲：0～14

①-3 デプス

ビブラートの深さを設定します。レベルを上げるとより深い効果が得られます。

設定範囲：0～14

①-4 スピード

ビブラートの速さを設定します。

設定範囲：0～14



NOTE

音色によっては、ユーザー設定通りビブラートが得られないものがあります(ハーモニカ2、エレクトリックピアノ1、シンセチャイムなど)。



NOTE

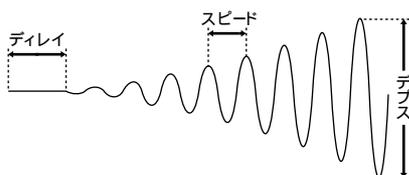
プリセットの場合、ディスプレイ上にデイレイ、デプス、スピードの各パラメーターは表示されません。



NOTE

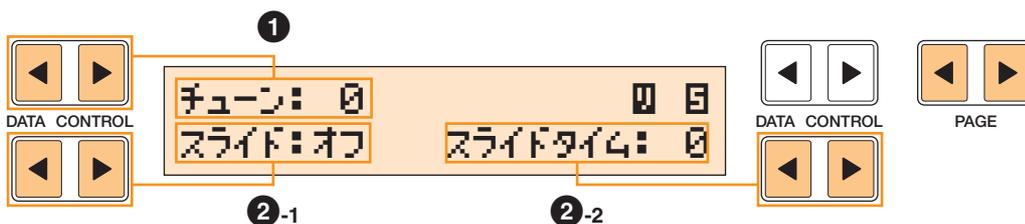
上記①-3 デプスを0にすると、ビブラートはかかりません。

ビブラートコントロール



【ページ5】ボイスコンディション画面(リードボイスのみ)

PAGEボタンで5ページ目を選びます。



① チューン

より豊かな楽器表現力を得るために、ほかの音色と比べてリードボイスのピッチを少し上げ、音の厚みを増します。レベルを上げるほど、ピッチは高くなります。
設定範囲：0～24(最大28.88セント；設定範囲の1ステップあたり約1.2セント)

② スライド

スライドは、レガート奏法の音色にポルタメント効果を加えます。リードボイス音群に、1オクターブの範囲内でかけることができます。

②-1 オン/ニー/オフ

スライドのオン/オフ、またはニーレバーでの設定を選択できます。オンに設定するとスライドし、オフに設定するとスライドしません。また、ニーに設定しておく、ニーレバーをオンにしたときにスライドします。

②-2 スライドタイム

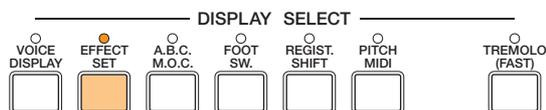
スライド(ポルタメント)の速さを設定します。レベルを上げることで、スライド効果のスピードを遅くします。

設定範囲：0～14

2 エフェクトセット画面で設定するもの

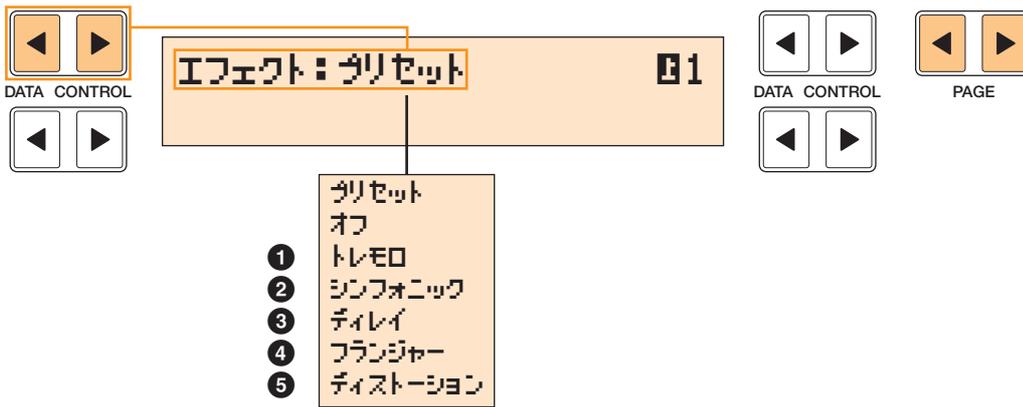
エフェクトセット画面を呼び出すには

DISPLAY SELECT(ディスプレイセレクト)セクションの中のEFFECT SET(エフェクトセット)ボタンを押すと、LCDディスプレイ上にエフェクトセット画面が現れます。



このディスプレイの構成は、エフェクトの設定をしたい音群をPAGEボタンで選ぶことを除いて、ボイスコンディション画面の3ページ目とまったく同じです。プリセットとオフについては31ページをご参照ください。

ここでは、各エフェクトについて説明します。



音群選択

PAGEボタンで、エフェクトを設定したい音群を選択します。各略称が示す音群は次の通りです。

- 01: 上鍵盤ボイス1
- 02: 上鍵盤ボイス2
- 11: 下鍵盤ボイス1
- 12: 下鍵盤ボイス2
- 0: リードボイス
- 01: ペダルボイス1
- 02: ペダルボイス2

① トレモロ/コーラス

トレモロ/コーラスについては、41ページをご参照ください。

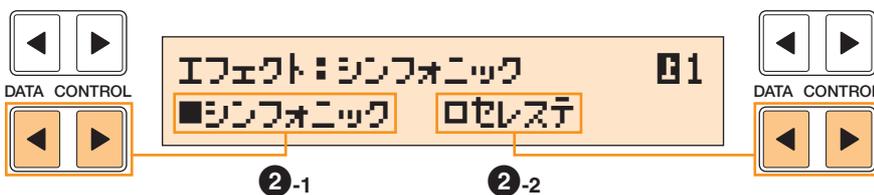
② シンフォニック/セレステ

シンフォニックまたはセレステを選択します。

シンフォニックは、音色に豊かで広がりのある効果を加えます。

セレステは、シンフォニックより、ゆったりとした効果になります。

DATA CONTROLボタンを押して、設定したい効果の名称の左のボックスをに設定すると、その効果が有効になります。



NOTE

この図では、現在シンフォニックの効果が有効になっています。

②-1 シンフォニック

選ばれている音群にシンフォニックをかけます。

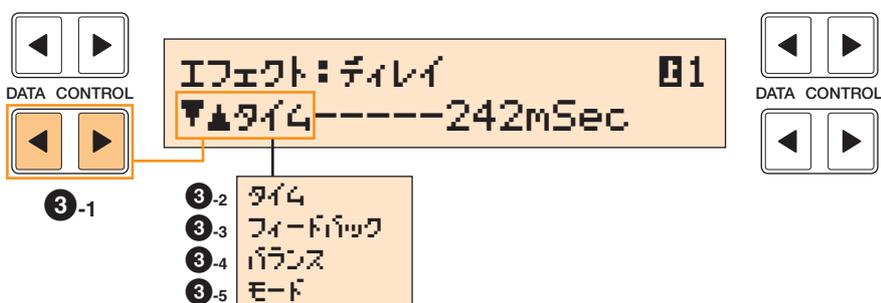
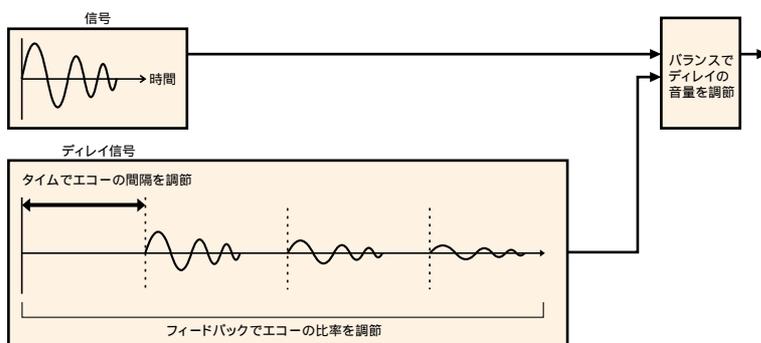
②-2 セレステ

選ばれている音群にセレステをかけます。

③ デイレイ

デイレイとは、音声信号をデイレイさせる(遅らせる)ことで、時間差をおいて繰り返し得られるエコー効果のことで、音群ごとに設定可能です。

デイレイの概念図

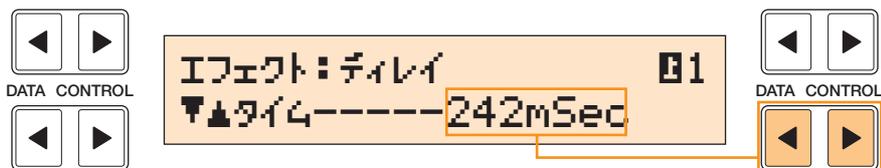


③-1 パラメーター選択

左下のDATA CONTROLボタンで、デイレイのパラメーターを選択します。設定できるパラメーターは次の通りです。

③-2 タイム

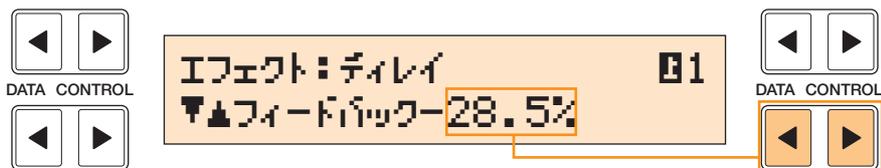
繰り返し得られるエコーの間隔を設定します。



設定範囲：5ms～956ms

③-3 フィードバック

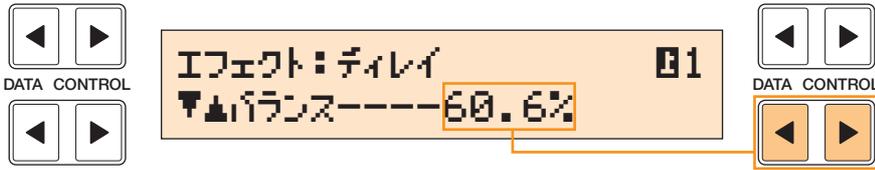
フィードバックの比率を決定します。



設定範囲：0.2%～46.9%

③-4 バランス

演奏した音に対してのディレイ効果の音量を設定します。高い設定にすればする程、ディレイの音量は大きくなります。

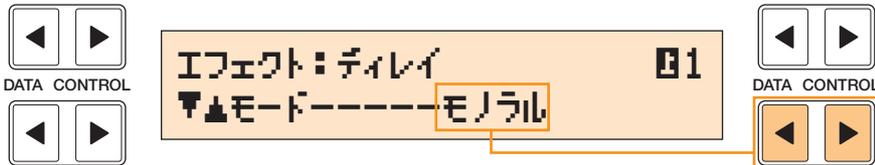


設定範囲：0%～100%

③-5 モード

ディレイ効果のかけ方(モノ/ステレオなど)を設定します。モノラルを選ぶと、モノラルのディレイ効果が得られます。

ステレオ1～ステレオ3を選ぶと、音が左右に飛ぶように繰り返されたり、より広がりのあるステレオディレイ効果が得られます。



設定範囲：モノラル、ステレオ1、ステレオ2、ステレオ3

エフェクトイメージ

モノラル

ノーマルなモノラルディレイです。

ステレオ1

シンプルなステレオディレイです。フィードバックが0(初期反射のみ)で特殊な演奏効果にも使用できます。

ステレオ2

複雑な反射を持つマルチディレイです。最も広がり感があるタイプです。

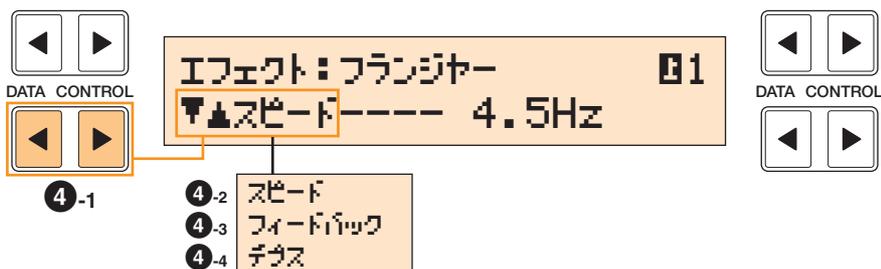
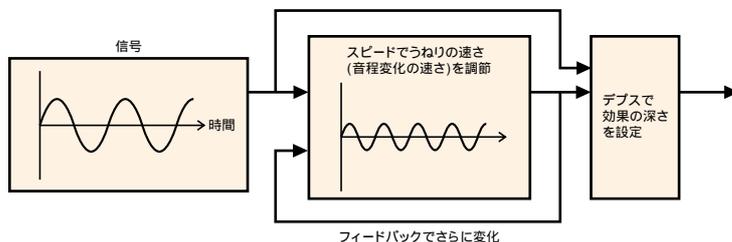
ステレオ3

モノラルディレイ風ですが、音色にツヤと厚みが加わります。

4 フランジャー

フランジャーは、音にうねりを与え、回転しているような効果を演出します。音群ごとに設定可能です。

フランジャーの概念図

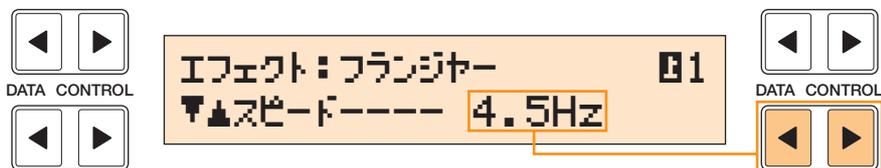


4-1 パラメーター選択

左下のDATA CONTROLボタンで、フランジャーのパラメーターを選択します。設定できるパラメーターは次の通りです。

4-2 スピード

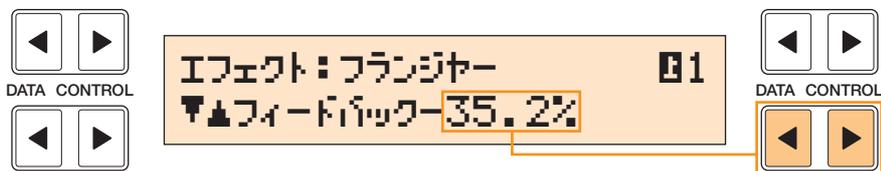
うねりの速さ(音程変化の速さ)を設定します。



設定範囲：0Hz～12.1Hz

4-3 フィードバック

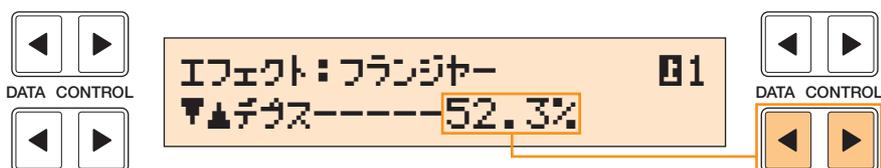
金属的な鋭さを加えたりして、効果を変化させます。



設定範囲：0.6%～94.0%

4-4 デプス

フランジャー効果の深さを設定します。

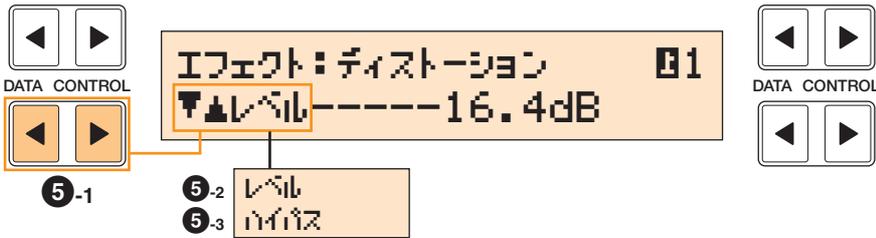
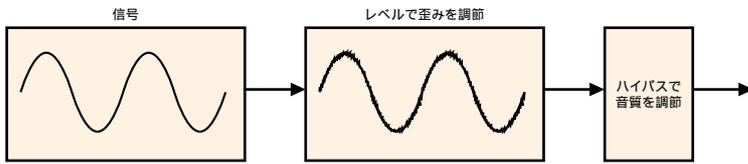


設定範囲：37.8%～87.8%

5 ディストーション

ディストーションは音に歪みを与える効果です。音群ごとに設定可能です。

ディストーションの概念図

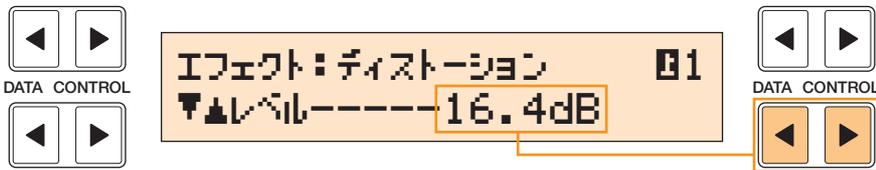


5-1 パラメーター選択

左下のDATA CONTROLボタンで、ディストーションのパラメーターを選択します。設定できるパラメーターは次の通りです。

5-2 レベル

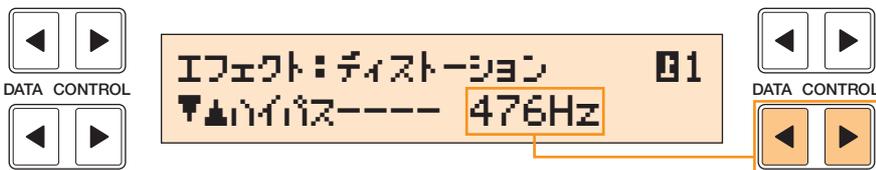
歪みのレベルを設定します。



設定範囲：0dB ~ 21.8dB

5-3 ハイパス

歪ませた音の音質を調節します。



設定範囲：20Hz ~ 1036Hz

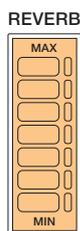
3 パネルボタンで設定するもの

リバーブやサステイン、そしてトレモロ/コーラスは、パネル上のボタンを使って、それぞれのページをLCDディスプレイ上に呼び出して、設定します。

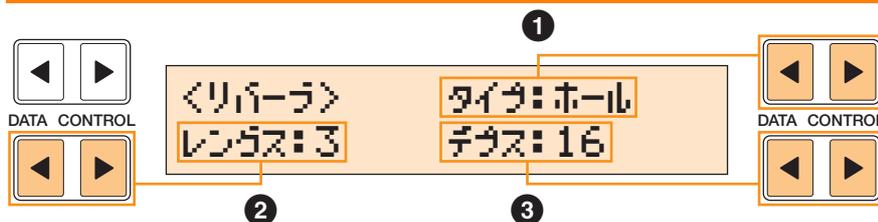
(1) リバーブ

リバーブによって、広い部屋やコンサートホールで演奏しているような、音が響きわたる効果を得ることができます。リバーブを楽器全体に同時にかけることや、それぞれの音群ごとにかかる量を設定することができます。さらに、リズムやアカンパニメントに別々にかけることも可能です。

リバーブを設定するには、パネル上の左端にあるREVERB(リバーブ)ボタンを押します。LCDディスプレイ上にリバーブ画面が現れます。



リバーブ画面



① タイプ

リバーブの種類を選択します。ルーム、ホール、チャーチの3種類があります。リバーブの深さはルームが、浅く、チャーチが一番深い設定になっています。

② レンゲス

リバーブの長さを設定します。レベルを上げるとより長い設定となります。
設定範囲：0～6

③ デプス

リバーブの深さを調節します。パネル面のリバーブボリュームは、このデプスの程度を表示しているものです。パネル面では7段階の調節ができますが、このデプスを使うことでさらにきめ細かな設定が可能です。

設定範囲：0～24



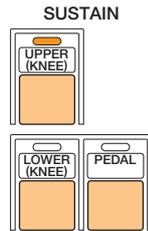
NOTE
デプスの設定が0もしくはそれに近い状態の場合は、音群ごとのボイスコンディション画面の2ページ目にあるリバーブ量を設定しても、リバーブ効果は得られません。

(2) サステイン

サステインは、鍵盤から指を離した後に音に余韻を与える効果です。上鍵盤/下鍵盤/ペダル鍵盤ごとにオン/オフしたり、サステインの長さを調節することができます。

サステインを設定するには、パネル上の左端にあるSUSTAIN(サステイン)ボタンを押します。LCDディスプレイにサステイン画面が現れます。

SUSTAINボタンを押すと、ボタンの真上のLEDが点灯しサステインがオンの状態であることを示します。もう一度押すことで、サステインはオフになります。



サステイン画面



アッパー(上鍵盤)/ロー(下鍵盤)/ペダル

各サステインの真横にあるDATA CONTROLボタンで長さを調節します。それぞれが個々の鍵盤にかかるサステインの長さを表します。

設定範囲：0～12



NOTE

サステインはリードボイスにはかかりません。



NOTE

上鍵盤/下鍵盤では、サステインボタンがオンの状態の場合は、ニーレバー機能を使ってサステインをかけることができます。(101ページをご参照ください。)



NOTE

サステインボタンはオン/オフスイッチです。演奏前に、オンの状態になっているか必ず確認しましょう。

(3) トレモロ/コーラス

トレモロは、スピーカーを回転させて得られるような豊かで広がりのある効果をつくり出します。従来のロータリースピーカーと同じように、回転のスピードを切り替えることができ、速さの微調整も可能です。パネル上のトレモロボタンや、左のフットスイッチを使ったりして、演奏中もリアルタイムで効果が得られます。

トレモロ設定の手順

ボイスメニューの音色

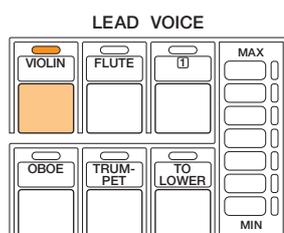


(1)トレモロを設定するには

パネル面のTREMOLLO(FAST)ボタンをオンにするだけでは、トレモロ効果は得られません。まず最初に個々の音群ごとにエフェクトの中からトレモロを選択します。音群ごとに設定することができます。

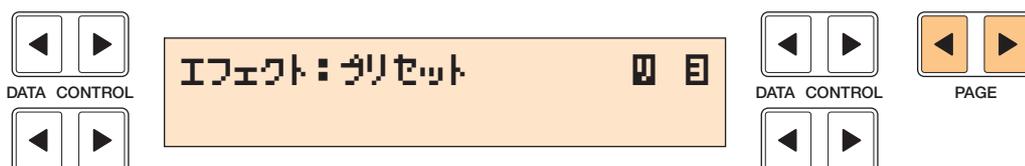
トレモロを選択する

1 パネル上のトレモロ効果を使いたい音色のボタンを2度押します。

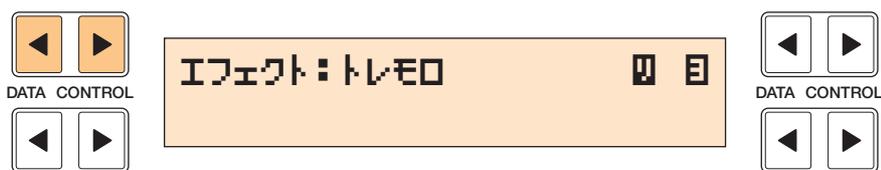


ボイス コンディション画面がLCDディスプレイ上に表示されます。

2 PAGEボタンを使って、ボイス コンディション画面の3ページ目を選択します。



3 LCDディスプレイのエフェクトの中から、トレモロを選択します。これで、その音色の属する音群に、トレモロが設定されます。



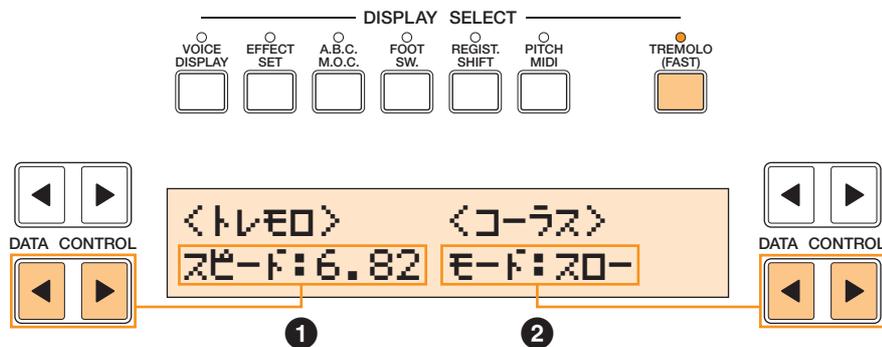
(2)トレモロを調節するには

トレモロコントロール画面でのトレモロの調節は、エレクトーン全体にかかります。

トレモロを調節し具体的な設定をする

パネル上のDISPLAY SELECTセクションのTREMOLO(FAST)ボタンを押します。

LCDディスプレイ上にトレモロコントロール画面が表示されます。



ボタンの上のランプが点灯し、トレモロが選択されたことを示します。このボタンを使って演奏中にトレモロとコーラスの切り替えをします。

① <トレモロ>スピード

トレモロの回転するスピードを調節します。

設定範囲：4.75Hz～7.77Hz

② <コーラス>モード

パネル上のTREMOLO(FAST)ボタンがオフの状態でのモードのスローを選択すると、コーラスがかかります。ストップを選択した上で、TREMOLO(FAST)ボタンをオフにすると、スピーカの回転が止まるような効果が得られます。

(3)演奏しながらトレモロを使う

これで、トレモロをあらかじめ設定し、演奏しながら簡単にトレモロ/コーラスの切り替えが可能になりました。DISPLAY SELECTセクションの中のTREMOLO(FAST)ボタンを使ったり、フットスイッチを使って、トレモロ効果をコントロールしてください。(トレモロは、あらかじめ設定しておけば、フットスイッチでもコントロールできます。詳しくは、98ページのフットスイッチセクションをご参照ください。)

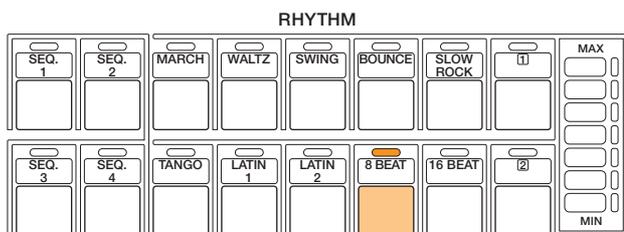
リズムセクションは個々の楽器音をサンプリングしたボイスメニューの音色と同じように、実際のドラムやパーカッションサウンドをサンプリングしたものを内蔵しており、迫真のリズムサウンドが得られます。また、洗練されたアカンパニメント機能で、演奏にナチュラルで多彩な彩りを添えることができます。さらに、下鍵盤やペダル鍵盤を使って、リアルタイムでのパーカッション演奏をお楽しみいただけます(キーボードパーカッション機能)。

1 パネルでリズムを選ぶ

リズムもボイスメニュー音色と同じように、パネル面のリズムボタンを押してLCDディスプレイのリズムメニューを呼び出すことにより、66種類のさまざまなリズムパターンを選択することができます。

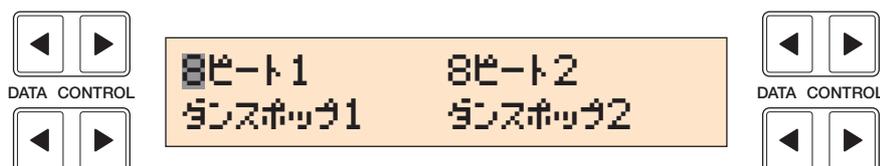
(1) リズムメニューのリズムを選びスタートさせるには

- 1 パネル面左のRHYTHM(リズム)セクションで、使用したいリズムの属するリズムボタンを押します。



初期設定(工場出荷時の状態)では、SEQ.1~4ボタンにそれぞれメトロノーム音(アクセントなし、2拍子、3拍子、4拍子)が割り当てられています。

LCDディスプレイ上には、押したリズムボタンのリズムメニューが表示されます。

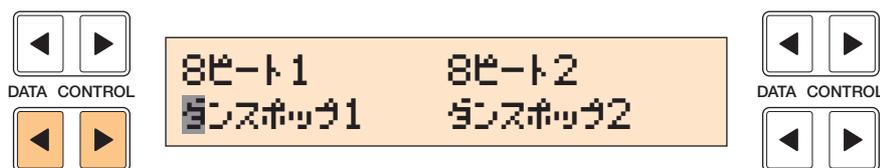


現在選ばれているリズム名の最初の文字が点滅します。

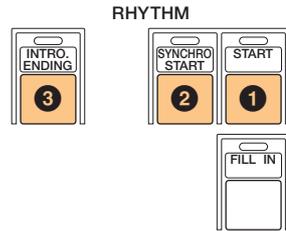
- 2 使用したいリズムの位置にあるデータコントロールボタンを押します。選択された音色名の最初の文字が点滅表示になります。これでダンスホップ1が設定されました。



オートベースコード(A.B.C.)がオンの場合、コードやベースのパターンは、選ばれたリズムに合ったパターンが自動的に選択されます。(A.B.C.については、51ページをご参照ください。)



- 3 RHYTHMセクションの下のスタートボタンを押します。
3通りのスタート方法があります。



① START(スタート)

通常のスタートボタンです。もう一度押すと、リズムはストップします。

② SYNCHRO START(シンクロスタート)

このボタンを押すと、リズムはスタンバイの状態になります。下鍵盤がペダル鍵盤で演奏を始めると同時に、リズムがスタートします。

③ INTRO. ENDING(イントロ、エンディング)

このボタンを使うことで、通常のリズムが始まる前に、自動的に最大8小節までのリズムのイントロを入れることができます。
最初にこのボタンを押して、上記①か②の方法でリズムをスタートさせます。

イントロが演奏されている間、リズムセクションのBAR/BEAT(バー/ビート)のLED画面表示はイラストにあるように選択したリズムの第1小節目まで、マイナス表示で逆にカウントします。

また、リズムパターンが演奏されている時にこのボタンを押すと、自動的に最大8小節までのエンディングパターンが入って、リズムは終了します。

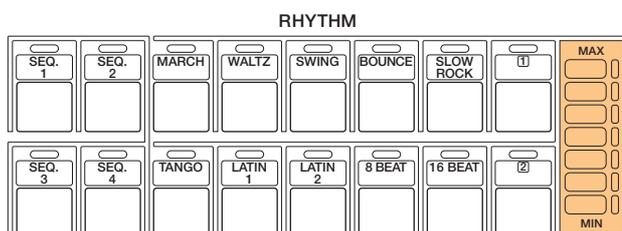
BAR/BEAT



タクト機能について

INTRO. ENDING(イントロ、エンディング)ボタンを押しながら、リズムのSTARTボタンを押すと、自動的に1小節の拍打ちをして(タクト機能)演奏を始めるためのキューを出します。

- 4 RHYTHMセクションの右のボリュームボタンで音量を調節します。
音量は0～6の7段階になっています。(ボイスメニュー音色と同じように、ボリュームファイン機能があり、音量の細かな設定が可能です。詳しくは、19ページをご参照ください。)



フットスイッチを使って、リズムをスタートさせたりストップさせたりすることができます。(詳しくは、99ページをご参照ください。)



オートベースコード(A.B.C.)を使って、リズムをシンクロスタートで始める場合は、A.B.C.の下鍵盤/ペダル鍵盤のメモリーをオンにしてください。メモリーをオンにしないで使用した場合は、演奏中に下鍵盤から手を離すと、リズムもストップします。(A.B.C.については、51ページをご参照ください。)



エレクトーンの電源を入れたときは、リズムボリュームは0の設定になっています。

- 5 RHYTHMセクションの下のTEMPO(テンポ)ダイヤルを回して、リズムの速さを設定します。



① TEMPO(テンポ)ダイヤル

リズムの速さを調節します。時計回りに回すと速くなり、逆に回すと遅くなります。

② TEMPO(テンポ)表示[BAR/BEAT(バー/ビート)表示]

設定されているリズムの速さ(テンポ)を表示します。表示されている数字は、メトロノームと同じように1分間の拍数を表します。

設定範囲：40～240

リズムがスタートすると、自動的にテンポ表示からバー/ビート表示に切り替わります。



NOTE

リズムの演奏中でもTEMPOダイヤルを回すと、瞬間的にテンポ表示に切り替わります。



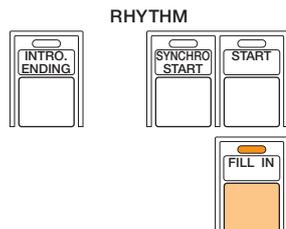
LED内の左の数字は現在の小節を表し、右の数字はそれぞれの小節の拍数を表します。

(2)フィルインを使うには

フィルインは、リズムパターンにブレイクを入れたり、リズムにアクセントを付けて変化に富んだ演奏にします。

- 1 リズムを選択しスタートさせます。

- 2 リズムを使用してエレクトーンを演奏しながら、フィルインを入れたいリズムの切れ目でスタートボタンの下のFILL IN(フィルイン)ボタンを押します。



NOTE

フィルインをイントロとして使うことができます。まずフィルインボタンを押します。そしてスタートボタンまたはシンクロスタートボタンを押します。これで、フィルインパターンが最初に入って通常のリズムが始まります。



NOTE

フィルインパターンを部分的に使用することもできます。リズムのバリエーションとして、フィルインパターンの1小節未満(最後の1～2拍だけ)を演奏させるわけです。フィルインを入れたい拍数のところで、フィルインボタンを押してください。

2 リズムコンディションを設定する

ボイスメニューのボイスコンディション画面と同じように、リズムにもリズムコンディション画面があり、その中にオートバリエーションやパーカッション/アカンパニメントコントロールがあります。

リズムコンディション画面を呼び出すには、リズムを選択しそのリズムのボタンを二度押します。(二度目は、そのリズムのデータコントロールボタンを押しても構いません。すでにリズムメニューがLCDディスプレイ上に表示されている場合は、一度押すだけでリズムコンディション画面が表示されます。)



リズムコンディション画面は2ページで構成されています。

【ページ1】リズムコンディション画面



① ボリューム

リズムやキーボードパーカッション音量のボリュームファインです。細かな音量の設定ができます。

設定範囲：0～24

② BAL.(バランス)

リズムのドラム系の音とシンバル系の音との音量のバランスをコントロールします。値を+にするほどシンバル系の音が大きくなり、-にするほどドラム系の音が大きくなります。

設定範囲：-6～0(中央)～+6

③ リバーブ

リズムや打楽器音にかかるリバーブの量を設定します。このリバーブを最大にしても、パネル上のリバーブボリュームを上げないと、リバーブ効果は得られません。

設定範囲：0～24

④ オートバリエーション

オートバリエーション機能のオン/オフスイッチです。オートバリエーション表示の左のボックスを から に設定すると、オートバリエーション機能がオンになります。機能がオンのときは、そのリズムのバリエーションが自動的に入り、リズムに変化をつけることができます。



NOTE
リズムによっては、オートバリエーションが入らない場合があります。



アカンパニメントに関する設定が用意されています。詳しくは53ページをご参照ください。

3 ドットボタンでリズムを選ぶ

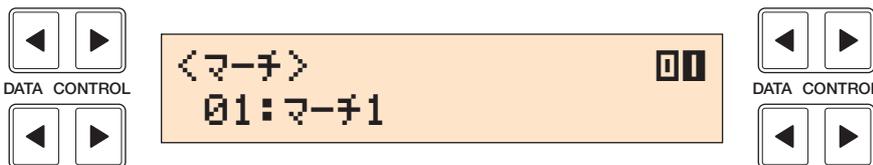
パネルボイスと同じように、リズムもRHYTHMセクションの右側にあるドットボタンで選択することができます。このドットボタンを使うことで、リズムメニューのすべてのリズムや、パターンディスクから読み込んだユーザーリズムを選択することができます。

(1) ドットボタンでリズムを選ぶには

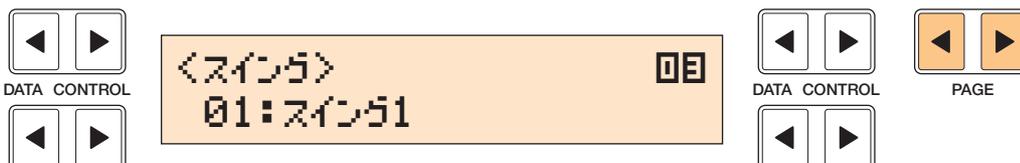
- 1 RHYTHMセクション右側のドットボタンを押します。



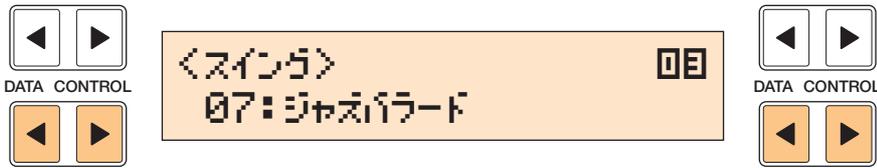
LCDディスプレイに、ページ1(マーチ)が表示されます。



- 2 LCDディスプレイの右側にあるPAGEボタンで、11ページ(種類)のリズムメニューの中から、使用したいリズムが属しているページを選択します。



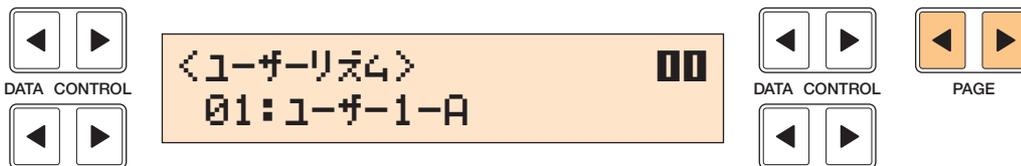
3 DATA CONTROLボタンを使ってリズムを選択します。



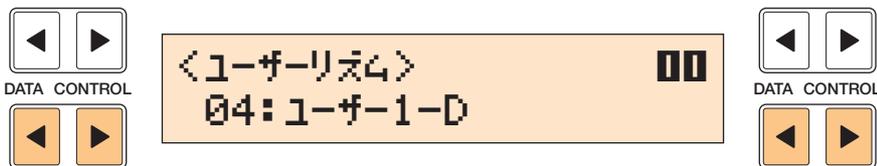
(2)ユーザーリズムを呼び出すには

ユーザーページを選ぶと、リズムパターンプログラム機能を持つエレクトーンでつくったリズム(ユーザーリズム)やパターンディスクのリズムを呼び出すことができます。演奏でユーザーリズムを使用したい場合にこのページを選びます。

1 PAGEボタンでユーザーページを選択します。



2 該当するリズムのユーザーナンバー/タイプ(ユーザー1~8/A~D)をDATA CONTROLボタンで選択します。



4 リズムメニュー

下表の通り、リズムは全部で66パターンあります。



マーチグループ(1ページ)のパロックは打楽器音の無いアカンパニメントだけのパターンになっています。

マーチ

マーチ1	ボルカ1
カントリー-1	ブロードウェイ

ワルツ

ワルツ1	ワルツ2
ジャズワルツ1	ポレロ

スウィング

スウィング1	スウィング2
ジャズバラード	ディキシーランド1

バウンス

バウンス1	バウンス2
レガエ1	レガエ2

スローロック

スローロック1	スローロック2
スローロック3	

タンゴ

タンゴ1	タンゴ2
タンゴ3	

ラテン1

チャチャ	ルンバ
ビギン	マンボ

ラテン2

サンバ1	サンバ2
ボサノバ1	ボサノバ2

8ビート

8ビート1	8ビート2
ダンスポップ1	ダンスポップ2

16ビート

16ビート1	16ビート2
ファンク1	ファンク2

ユーザーリズム

〈ユーザーリズム〉	
01:	ユーザー-1-A

パネルボタンで選べるリズムには がついています。

ページ	カテゴリー	LCD表記
01	マーチ	01:マーチ1
		02:マーチ2
		03:マーチ3
		04:ボルカ1
		05:ボルカ2
		06:カントリー-1
		07:カントリー-2
		08:ブロードウェイ
		09:パロック
02	ワルツ	01:ワルツ1
		02:ワルツ2
		03:ワルツ3
		04:ワルツ4
		05:ワルツ5
		06:ジャズワルツ1
		07:ジャズワルツ2
		08:ジャズワルツ3
		09:ポレロ
03	スウィング	01:スウィング1
		02:スウィング2
		03:スウィング3
		04:スウィング4
		05:スウィング5
		06:スウィング6
		07:ジャズバラード
		08:ディキシーランド1
		09:ディキシーランド2
04	バウンス	01:バウンス1
		02:バウンス2
		03:バウンス3
		04:レガエ1
		05:レガエ2

ページ	カテゴリー	LCD表記
05	スローロック	01:スローロック1
		02:スローロック2
		03:スローロック3
06	タンゴ	01:タンゴ1
		02:タンゴ2
		03:タンゴ3
07	ラテン1	01:チャチャ
		02:ルンバ
		03:ビギン
		04:マンボ
		05:サルサ
08	ラテン2	01:サンバ1
		02:サンバ2
		03:サンバ3
		04:ボサノバ1
		05:ボサノバ2
		06:ボサノバ3
09	8ビート	01:8ビート1
		02:8ビート2
		03:8ビート3
		04:8ビート4
		05:8ビート5
		06:ダンスポップ1
		07:ダンスポップ2
		08:ダンスポップ3
		09:ダンスポップ4
10	16ビート	01:16ビート1
		02:16ビート2
		03:16ビート3
		04:16ビート4
		05:16ビート5
		06:ファンク1
		07:ファンク2
		08:ファンク3

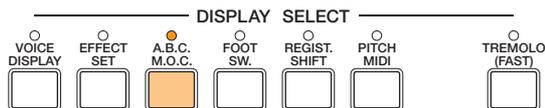
ページ	カテゴリー	LCD表記
11	ユーザーリズム	01:ユーザー-1-A
		02:ユーザー-1-B
		03:ユーザー-1-C
		04:ユーザー-1-D
		05:ユーザー-2-A
		06:ユーザー-2-B
		07:ユーザー-2-C
		08:ユーザー-2-D
		09:ユーザー-3-A
		10:ユーザー-3-B
		11:ユーザー-3-C
		12:ユーザー-3-D
		13:ユーザー-4-A
		14:ユーザー-4-B
		15:ユーザー-4-C
		16:ユーザー-4-D
		17:ユーザー-5-A
		18:ユーザー-5-B
		19:ユーザー-5-C
		20:ユーザー-5-D
		21:ユーザー-6-A
		22:ユーザー-6-B
		23:ユーザー-6-C
		24:ユーザー-6-D
		25:ユーザー-7-A
		26:ユーザー-7-B
		27:ユーザー-7-C
		28:ユーザー-7-D
		29:ユーザー-8-A
		30:ユーザー-8-B
		31:ユーザー-8-C
		32:ユーザー-8-D

5 オートベースコード(A.B.C.)

オートベースコード(A.B.C.)は、リズムと連動し、演奏にあわせて自動的にコードとベース伴奏を付ける機能です。A.B.C.には、3種類のモードがあります。A.B.C.に関する設定は、A.B.C.(オートベースコード)画面の1ページ目で行ないます。

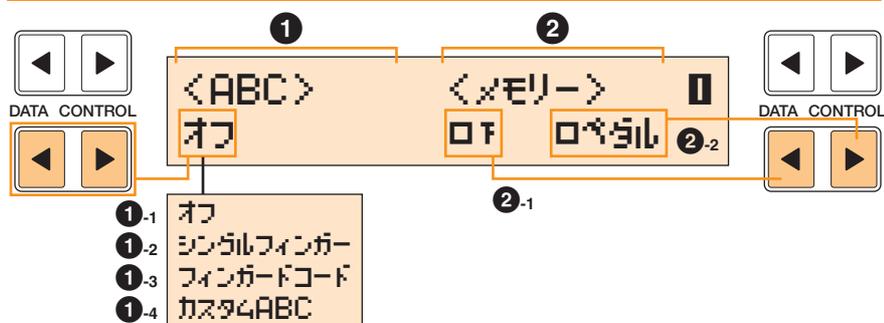
(1)A.B.C.画面を呼び出すには

パネルのDISPLAY SELECTセクションの中のA.B.C./M.O.C.ボタンを押します。



A.B.C.画面が表示されます。

【ページ1】A.B.C.画面



① <ABC>セクション

ここで、A.B.C.機能を使った演奏のしかたを選択します。

LCDディスプレイ左下のDATA CONTROLボタンの▶を押すたびに、オフ シングルフィンガー フィンガードコード カスタムA.B.C.の順番でモードを選ぶことができます。また、DATA CONTROLボタンの◀を押すたびに、逆の順番でモードを選ぶことができます。

①-1 オフ

A.B.C.機能をキャンセルします。

①-2 シングルフィンガー

下鍵盤を1音押えるだけで、自動的にコードとベースの伴奏が得られます。

①-3 フィンガードコード

下鍵盤でコードを押えるだけで、自動的にコードとベースの伴奏が得られます。フィンガードコードのベース伴奏では、メジャーやマイナーなどのコード以外にもさまざまなコードが検出できるので、下鍵盤で弾いたコードにふさわしいベース伴奏が得られます。

①-4 カスタムABC

下鍵盤で弾くコードとは別に、ペダル鍵盤を1音押えるだけでベース伴奏が得られます。この機能を使うことで、演奏に幅を持たせることができます。

② <メモリ ->セクション

メモリー機能は、A.B.C機能を使った演奏をスムーズに行なうための機能です。メモリー機能をオンにしてリズムをスタートすると、鍵盤から指を離した後も、A.B.C.は同じコードのまま自動伴奏を続けます。コードを変えたいところで、新しいコードを弾けば、再び手を離しても新しいコードで自動伴奏を続けます。メモリー機能は下鍵盤、ペダル鍵盤ごとにオン/オフすることができます。

②-1 下(下鍵盤)

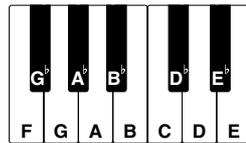
下(下鍵盤)表示の左のボックスを から にすると、下鍵盤のメモリー機能がオンになります。下鍵盤のメモリー機能をオンにしてリズムをスタートすると、下鍵盤から指を離した後も下鍵盤の音が鳴り続けます。

②-2 ペダル

ペダル表示の左のボックスを から にすると、ペダル鍵盤のメモリー機能がオンになります。(シングルフィンガーやフィンガードコードの場合)ペダル鍵盤のメモリー機能をオンにしてリズムをスタートすると、下鍵盤から指を離した後もペダル鍵盤の音が鳴り続けます。

(2)シングルフィンガーで識別されるコード

シングルフィンガーでは、メジャー、マイナー、セブンス、マイナーセブンスのすべてが演奏できます。



NOTE
シングルフィンガーの場合は、どの音域を押しても、一定のオクターブでのみ音がでます。

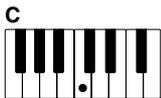


NOTE
A.B.C.はリズムと連動してコードとベースの伴奏を得る機能ですが、リズムを止めた状態でも使えます。この場合、和音の持続音が得られません。A.B.C.をキャンセルし忘れた場合に下鍵盤で演奏すると、和音の持続音だけがでます。ご注意ください。



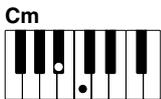
NOTE
根音が黒鍵の場合マイナー、セブンス、マイナーセブンスコードも、同じ方法で得られます。

コードCの場合



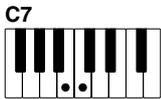
メジャーコード:

コードの根音(コード名と同じキー)を押して得られます。



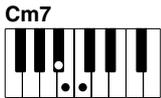
マイナーコード:

コードの根音と、それより左のいずれかの黒鍵を同時に押します。



セブンスコード:

コードの根音と、それより左のいずれかの白鍵を同時に押します。

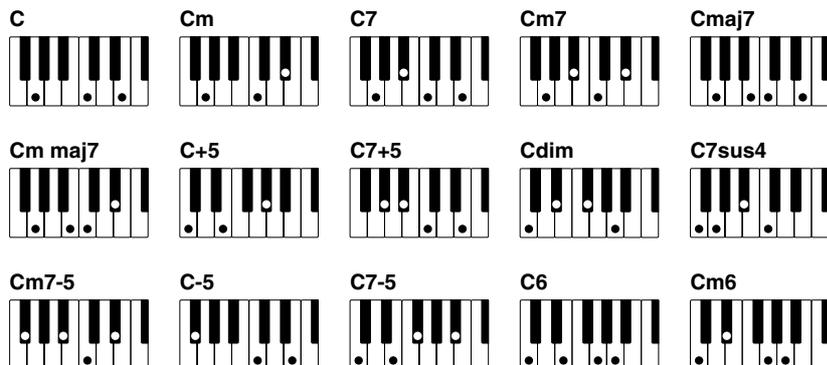


マイナーセブンスコード:

コードの根音と、それより左の白鍵と黒鍵を同時に押します。

(3)フィンガードコードで識別されるコード

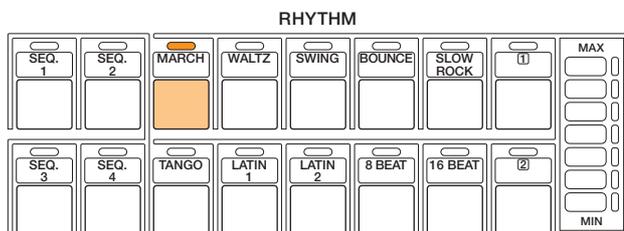
コードCの場合



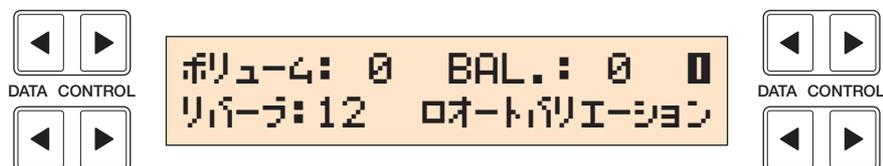
6 アカンパニメント

このアカンパニメントは、リズムと連動して、多彩な装飾音を施した伴奏パターンが得られる機能です。A.B.C.機能を使って、自動的にコードやベース伴奏をプラスしたり、A.B.C.機能をオフにしてアカンパニメントだけを演奏することもできます。アカンパニメントは、リズムボタンとリズム コンディション画面の2ページ目を使って設定します。

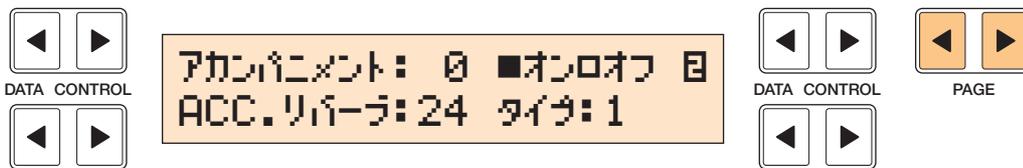
1 パネル上の使用したいリズムのボタンを二度続けて押します。



LCDディスプレイに、リズム コンディション画面の1ページ目が表示されます。



2 PAGEボタンを押して2ページ目を選択します。



【ページ2】リズム コンディション画面



1 アカンパニメント

アカンパニメントの音量を設定します。

設定範囲：0～24

2 オン/オフ

アカンパニメントのオン/オフスイッチです。オンの左のボックスをにすると、アカンパニメント機能がオンになります。逆にオフの左のボックスをにすると、アカンパニメント機能がオフになります。

3 ACC.(アカンパニメント)リバーブ

アカンパニメントのリバーブの量を設定します。このリバーブを最大にしても、パネル上のリバーブボリュームを上げないと、リバーブ効果は得られません。

設定範囲：0～24

4 タイプ

4つのアカンパニメントタイプが用意されています。タイプによってリズムミックなものや、メロディックなものがあります。基本的に、タイプ1が最もシンプルで、タイプ4が最も華やかになっています。

3 STARTボタンを押してリズムをスタートさせ、下鍵盤を演奏します。 これで、リズムパターンや下鍵盤のコードに合った伴奏パターンが自動演奏されます。



アカンパニメントのタイプを変えても、イントロ、エンディング、フィルインパターンは変わりません。



エレクトーンの電源を入れた時、アカンパニメントの音量は0になっています(初期設定)。アカンパニメント機能を使用する場合は、必ず、アカンパニメントボリュームを上げてください。

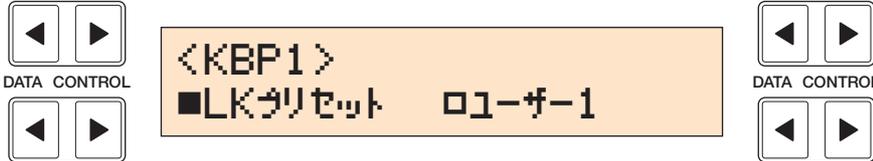
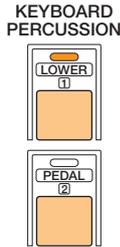
7 プリセット/ユーザーキーボードパーカッション

全部で120種類のドラム系やラテンパーカッション系、そして和太鼓などのバラエティあふれる打楽器音がリアルタイムで楽しめます。

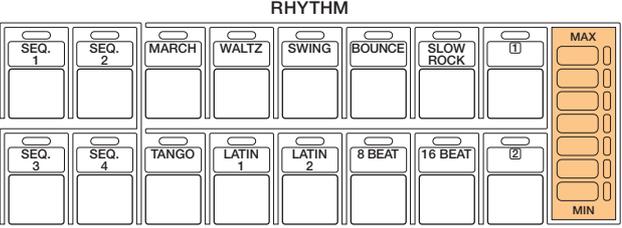
このキーボードパーカッションには、43種類の打楽器音による下鍵盤とペダル鍵盤のプリセットキーボードパーカッションと、すべての打楽器音をどの鍵盤にでもアサインする(割り当てる)ことができるユーザーキーボードパーカッションの2通りがあります。

(1)プリセットキーボードパーカッションを使うには

- 1 まず、下鍵盤/ペダル鍵盤のボイスメニュー音色の音量を0にします。
- 2 パネル左端のKEYBOARD PERCUSSION(キーボードパーカッション)セクションのLOWER(ロワー)/1かPEDAL(ペダル)/2のボタンを押します。



- 3 次に音量を設定します。
キーボードパーカッションの音量はリズムと共通になっています。



- 4 下鍵盤/ペダル鍵盤の鍵盤をたたいて、キーボードパーカッションを試してみましょう。プリセットキーボードパーカッションのアサインについては、次の表をご参照ください。

NOTE
このとき、LCDにはキーボードパーカッションのメニューが表示されます。ここで現在のプリセット、またはユーザー1～8のどのキーボードパーカッションが選ばれているかを確認/変更することができます。通常はプリセットのLK(ロワー)/PK(ペダル)が選ばれた状態になっています。もしユーザー1～8が選ばれている場合は、プリセットを選択してください。

(2)ユーザーキーボードパーカッションを設定するには

この機能によって、上鍵盤、下鍵盤、ペダル鍵盤のどのキー(鍵)にでも、120種類の打楽器を設定することができます。ユーザー1~ユーザー8までの8つのオリジナルセッティングが可能です。(ここでは、ユーザー1を例として使用します。)

- 1 パネル左端のKEYBOARD PERCUSSION(キーボードパーカッション)セクションのLOWER/1のボタンを押します。LCDディスプレイ上にキーボードパーカッションのメニューが表示されます。



LCDディスプレイ上では、LKプリセットが選ばれており、現在、下鍵盤のプリセットキーボードパーカッションが選択されていることを示しています。

LKプリセットとユーザー1~8の切り替えになっています。

KEYBOARD PERCUSSIONのPEDAL/2のボタンの場合は、以下の通りです。



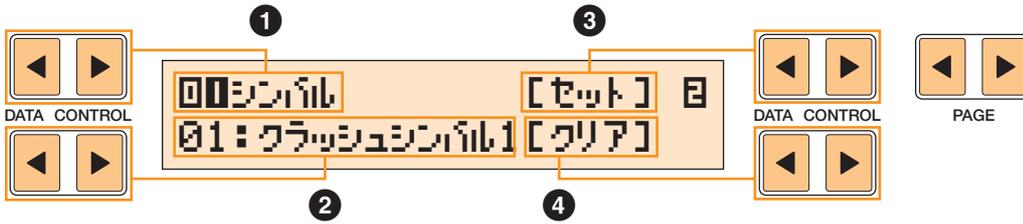
この場合は、PK(ペダル鍵盤)プリセットとユーザー1~8の切り替えになっています。

- 2 LCDディスプレイ右下のDATA CONTROLボタンを使って、ユーザー1を選択します。つまり、パネル上のキーボードパーカッションボタンを(プリセットとユーザーで兼用しているので)ここでユーザー1に切り替えるわけです。これでLOWER/1のボタンにユーザー1が設定されました。ユーザーキーボードパーカッションを選択すると、LCDディスプレイの右上にページ番号が表示されます。



NOTE
ユーザー1にはLKプリセットが、ユーザー2にはPKプリセットがあらかじめアサインされています。

- 3** PAGEボタンで、キーボードパーカッションの2ページ目を選択します。このLCDディスプレイを使って、それぞれの打楽器を各鍵盤にアサインすることができます。



1 カテゴリー

割り当てたい打楽器が属するカテゴリーを選択します。打楽器のカテゴリーは、1から12まで12カテゴリーあります。(詳しくは、次ページのカテゴリーをご参照ください。)

2 打楽器名

選んだカテゴリーに属する打楽器名を選択します。(詳しくは、次ページのカテゴリーをご参照ください。)

3 セット

選んだ打楽器を指定した鍵盤にアサインします(この後の説明をご参照ください)。

4 クリア

現在選ばれているユーザー(この場合はユーザー1)にアサインされている打楽器音を消去します。

クリアには、1音だけ消去と、全音消去の2通りがあります(このあとの説明をご参照ください)。



NOTE
EL-900/700/500で設定した各打楽器のコンディションは、MDRの再生でEL-400でも設定されます。

ユーザーキーボードパーカッションカテゴリー

カテゴリー	LCD表記	楽器名
01シンバル	01:クラッシュシンバル1	クラッシュシンバル1
	02:クラッシュシンバル2	クラッシュシンバル2
	03:クラッシュシンバルM	クラッシュシンバルミュート
	04:ライドシンバル1	ライドシンバル1
	05:ライドシンバル2	ライドシンバル2
	06:ライドシンバルカップ	ライドシンバルカップ
	07:オーケストラCym1	オーケストラシンバル1
	08:オーケストラCym2	オーケストラシンバル2
	09:オーケストラCymM	オーケストラシンバルミュート
	10:シンバル マーチ	シンバルマーチ
	11:シンバルブラッシュ	シンバルブラッシュショット
	12:タムタム	タムタム
02ハイハット	01:ハイハット オープン	ハイハットオープン
	02:ハイハット クローズ	ハイハットクローズ
	03:ハイハット ベダル1	ハイハットクローズ(ベダル)1
	04:ハイハット ベダル2	ハイハットクローズ(ベダル)2
	05:アナログHHオープン	アナログハイハットオープン
	06:アナログHHクローズ	アナログハイハットクローズ
03スネアドラム	01:スネアドラム ライト	スネアドラムライト
	02:スネアドラム ヘビー	スネアドラムヘビー
	03:スネアドラム リム1	スネアドラムリム1
	04:スネアドラム リム2	スネアドラムリム2
	05:スネア アクセント1	スネアドラムアクセント1
	06:スネア アクセント2	スネアドラムアクセント2
	07:スネア リバープ1	スネアドラムリバープ1
	08:スネア リバープ2	スネアドラムリバープ2
	09:シンセ スネアドラム	シンセスネアドラム
	10:オーケストラスネア	オーケストラスネアドラム
	11:スネアドラム ロール	スネアドラムロール
	12:アナログスネアドラム	アナログスネアドラム
04スネアブラッシュ	01:スネアブラッシュ1	スネアブラッシュショット1
	02:スネアブラッシュ2	スネアブラッシュショット2
	03:SDブラッシュロール	スネアブラッシュロール
05タム	01:タム1	タム1
	02:タム2	タム2
	03:タム3	タム3
	04:タム4	タム4
	05:タムブラッシュ1	タムブラッシュショット1
	06:タムブラッシュ2	タムブラッシュショット2
	07:タムブラッシュ3	タムブラッシュショット3
	08:タムブラッシュ4	タムブラッシュショット4
	09:シンセ タム1	シンセタム1
	10:シンセ タム2	シンセタム2
	11:シンセ タム3	シンセタム3
06バスドラム	01:バスドラム ライト	バスドラムライト
	02:バスドラム ヘビー	バスドラムヘビー
	03:バスドラム アタック	バスドラムアタック
	04:シンセバス ドラム	シンセバスドラム
	05:バスドラム マーチ	バスドラムフォアマーチ
	06:コンサートバスドラム	コンサートバスドラム
	07:アナログバスドラム1	アナログバスドラム1
	08:アナログバスドラム2	アナログバスドラム2
07コンガ/ボンゴ	01:コンガ ハイ	コンガハイ
	02:コンガ ロー	コンガロー
	03:コンガ スラップ	コンガスラップ
	04:コンガ マフルド	コンガマフルド
	05:コンガ スライド	コンガスライド
	06:ボンゴ ハイ	ボンゴハイ
	07:ボンゴ ロー	ボンゴロー
	08:ボンゴ スラップ	ボンゴスラップ
	09:ボンゴ ミュート	ボンゴミュート

カテゴリー	LCD表記	楽器名	
08クイーカ/スルド	01:クイーカ ハイ	クイーカハイ	
	02:クイーカ ミディアム	クイーカミディアム	
	03:クイーカ ロー	クイーカロー	
	04:タンボリン オープン	タンボリンオープン	
	05:タンボリン ミュート	タンボリンミュート	
	06:スルド オープン	スルドオープン	
	07:スルド ミュート	スルドミュート	
	08:スルド リム	スルドリム	
	09:スルド マフルド	スルドマフルド	
	09ティンバレス/カウベル	01:ティンバレス1 ハイ	ティンバレス1ハイ
		02:ティンバレス1 ロー	ティンバレス1ロー
		03:ティンバレス2 ハイ	ティンバレス2ハイ
04:ティンバレス2 ロー		ティンバレス2ロー	
05:ティンバレス3 ハイ		ティンバレス3ハイ	
06:ティンバレス3 ロー		ティンバレス3ロー	
07:ティンバレス4 ハイ		ティンバレス4ハイ	
08:ティンバレス4 ロー		ティンバレス4ロー	
09:カウベル1		カウベル1	
10:カウベル2		カウベル2	
11:カウベル3		カウベル3	
12:カウベル4		カウベル4	
10パーカッション1	01:カバサ	カバサ	
	02:シェーカー	シェーカー	
	03:マラカス ハイ	マラカスハイ	
	04:マラカス ロー	マラカスロー	
	05:ギロ ショート	ギロショート	
	06:ギロ ロング	ギロロング	
	07:ウッドブロック ハイ	ウッドブロックハイ	
	08:ウッドブロックMed	ウッドブロックミディアム	
	09:ウッドブロック ロー	ウッドブロックロー	
	10:クラベス	クラベス	
	11:カスタネット	カスタネット	
	12:ビブラスラップ	ビブラスラップ	
11パーカッション2	01:アゴゴ ハイ	アゴゴハイ	
	02:アゴゴ ロー	アゴゴロー	
	03:トライアングル O	トライアングルオープン	
	04:トライアングル C	トライアングルクローズ	
	05:ウインドベル1	ウインドベル1	
	06:ウインドベル2	ウインドベル2	
	07:タンバリン	タンバリン	
	08:パンデイロ	パンデイロ	
	09:ベル	ベル	
	10:ハンドクラップ	ハンドクラップ	
	11:フィンガースナップ	フィンガースナップ	
	12:スクラッチ	スクラッチ	
	13:ノイズパーカッション	ノイズパーカッション	
12パーカッション3	01:コッツミ1	小鼓1	
	02:コッツミ2	小鼓2	
	03:コッツミ3	小鼓3	
	04:コッツミ4	小鼓4	
	05:オオツツミ1	大鼓1	
	06:オオツツミ2	大鼓2	
	07:タイコ1	太鼓1	
	08:タイコ2	太鼓2	
	09:オオダイコ1	大太鼓1	
	10:オオダイコ2	大太鼓2	
	11:カケゴエ1	かけ声1	
	12:カケゴエ2	かけ声2	
	13:カケゴエ3	かけ声3	

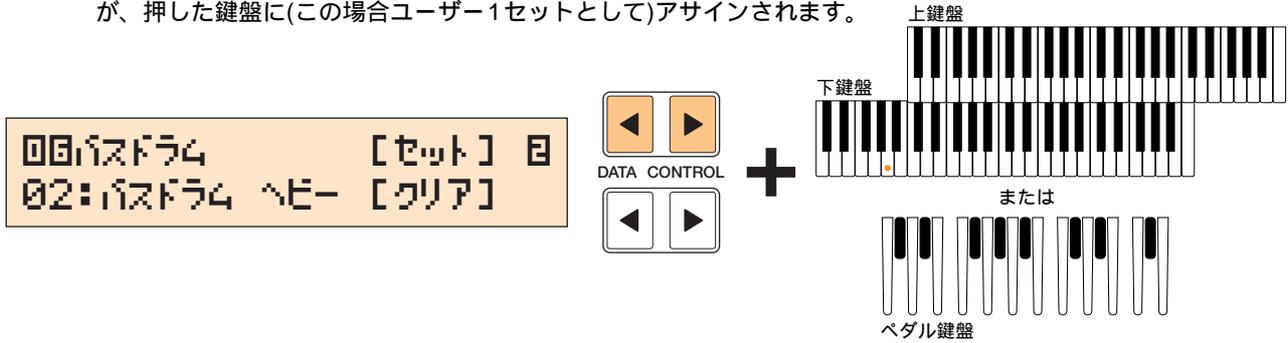
4

リズムとアカンパニメント

4

打楽器を任意の鍵盤にアサインします。

[セット]と同じ位置にあるデータコントロールボタンを押しながら、アサインしたい鍵盤を押します。LCDディスプレイ上で選ばれている打楽器音が、押した鍵盤に(この場合ユーザー1セットとして)アサインされます。



この操作を繰り返して、必要な打楽器を任意の鍵盤にアサインします。

5

間違ったときは、次の要領で打楽器音を消去することができます。

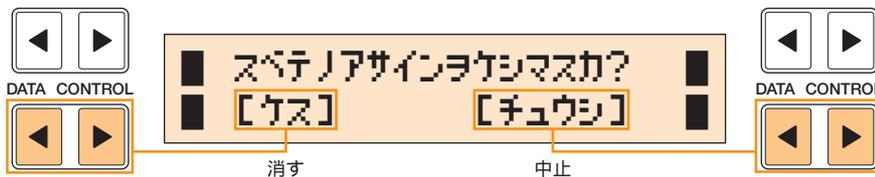
1音だけ消去するには

[クリア]と同じ位置にあるデータコントロールボタンを押しながら、消去したい打楽器が割り当てられている鍵盤を押します。

"ピッ"という短い音がして、その打楽器音が消去されたことを知らせます。

全音消去するには

1. [クリア]と同じ位置のデータコントロールボタンを押して、すぐにそのボタンから手を離します。LCDディスプレイ上に以下の画面が表示され、すべての打楽器のアサインを消去するかどうか確認を求めてきます。



2. [ケス]を選択すると、すべてのアサインを消去を実行し、LCDディスプレイ上に"スベテノアサインヲケシマシタ!"という操作完了のメッセージが一時的に表示されます。
[チュウシ]を選択すると、操作をキャンセルし、前の画面に戻ります。

NOTE

ユーザーキーボードパーカッションは、ユーザー[1]~[8]に(合計で8セット)設定できます。ただし、レジストレーションごとには設定できません。レジストレーションに設定できるのは、キーボードパーカッションのオン/オフとメニュー(プリセット/ユーザー)情報のみです。

NOTE

ユーザーキーボードパーカッションボタンの[1]と[2]が両方ともオンの場合、[1]と[2]両方を同時に使用することができます。

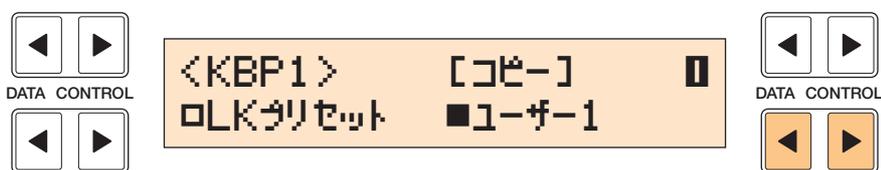
(3) ユーザーキーボードパーカッションのその他の機能

ユーザーキーボードパーカッションには、プリセットの設定に戻したり、1つのユーザーの設定を別のユーザーにコピーすることができます。

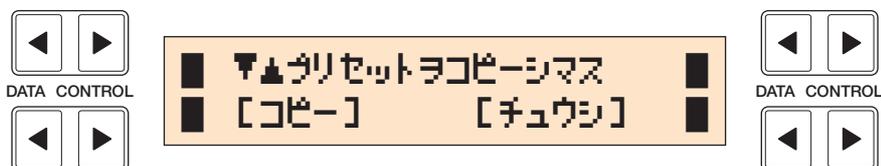
下鍵盤プリセットをコピーするには

以下の手順で、下鍵盤のプリセットキーボードパーカッションをユーザーにコピーすることができます。プリセットを少しだけ変更して使いたい場合に便利です。

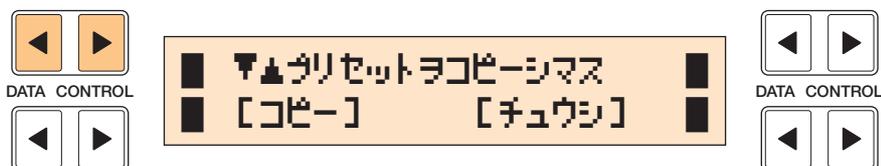
1. KEYBOARD PERCUSSIONセクションのLOWER/1のボタンを押して、キーボードパーカッションのメニューを表示させます。
2. 右下のDATA CONTROLボタンを使い、コピー先のユーザー1~8を選びます。



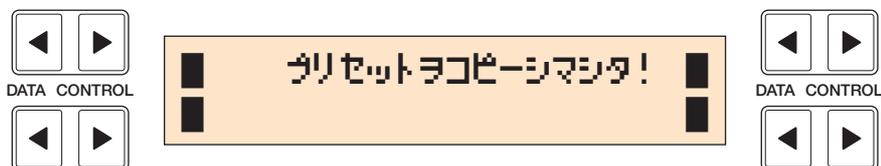
3. [コピー]と同じ位置のDATA CONTROLボタンを押すと、LCDディスプレイにコピーダイアログが表示されます。



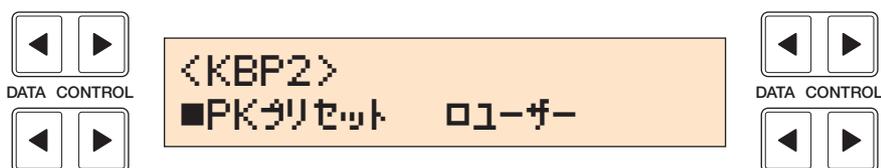
4. 左上のDATA CONTROLボタンを使って、コピー元となるプリセット（この場合、下鍵盤プリセットキーボードパーカッション）を選びます。



5. [コピー]と同じ位置のDATA CONTROLボタンを押すと、下鍵盤プリセットのコピーを実行し、LCDディスプレイ上に"プリセットヲコピーシマシタ!"という操作完了のメッセージが一時的に表示されます。
[チュウシ]を選択すると、操作をキャンセルし、前の画面に戻ります。

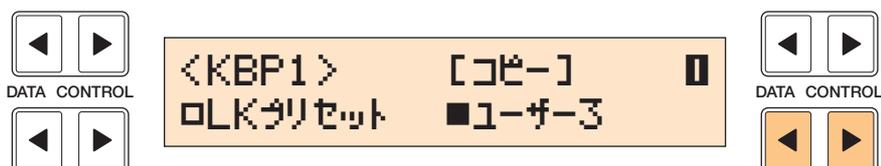


KEYBOARD PERCUSSIONのPEDAL/2ボタンから、同様の操作を行った場合は、ペダル鍵盤プリセットをコピーすることができます。

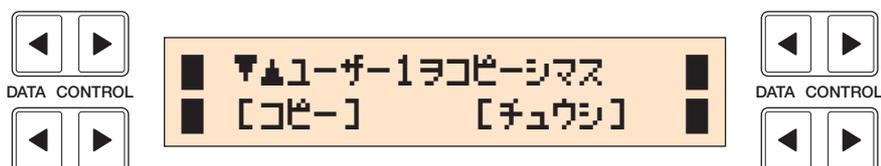


ユーザーを別のユーザーにコピーするには

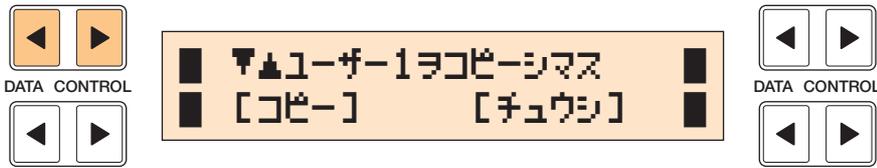
1. KEYBOARD PERCUSSIONセクションのLOWER/1またはPEDAL/2のボタンを押して、キーボードパーカッションのメニューを表示させます。
2. 右下のDATA CONTROLボタンを使い、コピー先のユーザー1~8を選びます。



3. [コピー]と同じ位置のDATA CONTROLボタンを押すと、LCDディスプレイにコピーダイアログが表示されます。

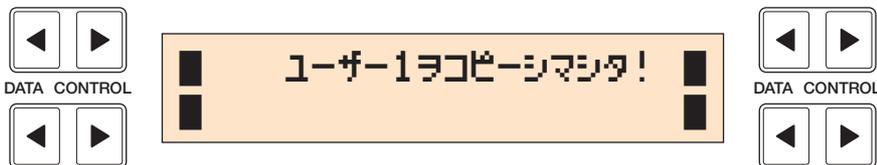


4. 左上のDATA CONTROLボタンを使って、コピー元となるユーザー1～8を選びます。



この場合、コピー先として選ばれているユーザーキーボードパーカッションナンバーは、コピー元として表示されません。

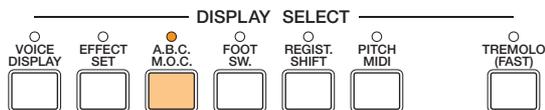
5. [コピー]と同じ位置のDATA CONTROLボタンを押すと、ユーザーのコピーを実行し、LCDディスプレイ上に「ユーザー1ヲコピーシマシタ!」という操作完了のメッセージが一時的に表示されます。
[チュウシ]を選択すると、操作をキャンセルし、前の画面に戻ります。

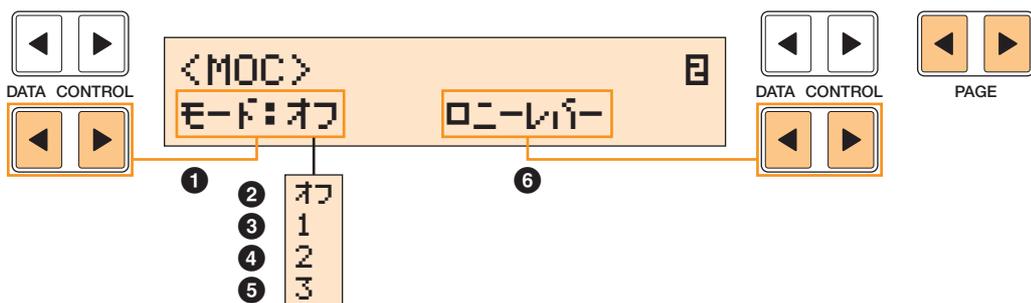


8 メロディオンコード(M.O.C.)

下鍵盤で弾いたコードによって、上鍵盤で弾くメロディラインに自動的にハーモニーを付ける機能です。メロディオンコードには、3つのモードがあり、それぞれのモードはA.B.C./M.O.C.のページで選択することができます。

M.O.C.画面を呼び出すには、パネルのDISPLAY SELECTセクションの中のA.B.C./M.O.C.ボタンを押し、A.B.C.画面が表示されたら、続けてPAGEボタンで2ページ目を表示させます。





① モード

ここで、M.O.C.機能を使った演奏のしかたを選択します。

LCDディスプレイ左下のDATA CONTROLボタンの▶を押すたびに、オフ 1 2 3の順番でモードを選ぶことができます。また、DATA CONTROLボタンの◀を押すたびに、逆の順番でモードを選ぶことができます。

② オフ

M.O.C.機能をキャンセルします。

③ 1

メロディに近い音域で最高2音までの付加音がハーモニーとなって得られます。

④ 2

メロディに近い音域で最高3音までの付加音がハーモニーとなって得られます。

⑤ 3

メロディから比較的離れた音域で最高4音までの付加音がハーモニーとなって得られます。

⑥ ニーレバー

M.O.C.をニーレバーでコントロールするためのオン/オフスイッチです。ニーレバー表示の左のボックスを にすると、機能がオンになります。モードを選択した後、機能をオンにすると、ニーレバーでM.O.C.のオン/オフの切り替えができるようになります。



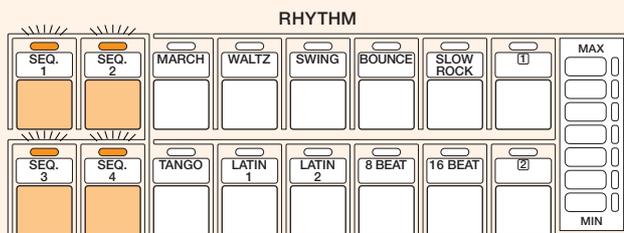
NOTE
M.O.C.のモードが選択されていても、上鍵盤ボイスの音量が0の場合はM.O.C.の効果は得られません。

リズムシーケンスについて

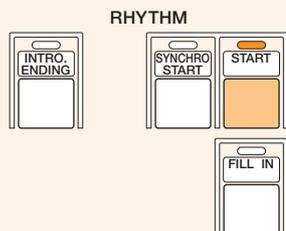
EL-700/500などのリズム シーケンス プログラム機能を持つエレクトーンを使って、ユーザーパターンやプリセットパターンの再生順序(シーケンス)を1小節単位でプログラムしたものを、リズムシーケンスと呼びます。

EL-400にはリズムシーケンスのプログラム機能はありませんが、フロッピーディスクに記録されたリズムシーケンスを、次の手順でRHYTHMセクション左端のSEQ.(シーケンス)1～4ボタンに読み込み、再生することができます。

1. EL-400のMDRに、リズムシーケンスのデータが記録されたフロッピーディスクを挿入します。リズムシーケンスのデータはレジストレーションデータ(78ページ)の一部として記録されています。
2. 任意のソングナンバーを指定して、MDRのPLAYボタンを押し、目的のレジストレーションデータを読み込みます。これで、リズムシーケンスのデータがRHYTHMセクションのSEQ.1～4ボタンにセットされました。
3. SEQ.1～4ボタンを押します。押したSEQ.ボタンのランプが点灯します。



4. RHYTHMセクションのSTART(スタート)ボタンを押して、リズムを再生します。



リズムシーケンス再生中は、LCDディスプレイ上に再生しているリズム名が表示されます。



NOTE
SEQ.1～4ボタンは同時に複数押しておくことができ、押されたSEQ.ボタンのシーケンスは自動的に連続再生されます。



NOTE
初期設定(工場出荷時の状態)では、SEQ.1～4ボタンにはメトロノーム音が割り当てられています。(72ページ)



NOTE
MDRを使ってリズムシーケンスを読み込むと、初期設定で割り当てられていたリズムシーケンスの設定は書き換えられます。元の設定に戻したい場合は、パワーオンリセット(72ページ)を行ない、EL-400を工場出荷時の状態に戻してください。

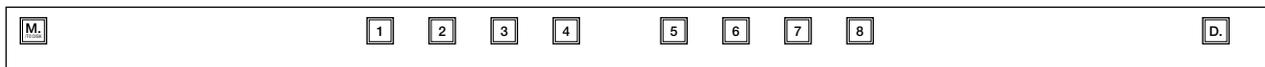


NOTE
基本レジストレーションの1～5のいずれかのボタンを押すと“ピッ”という音が鳴り、メトロノームに戻ります。

レジストレーションメモリー

REGISTRATION MEMORY

レジストレーションメモリーは、パネルやLCDディスプレイで設定したセッティングを記録しておき、演奏中にボタンを押すだけでセッティングを呼び出すことができる機能です。
ほとんどの機能の設定をメモリーすることが可能です。



メモリーできない機能

リバーブのタイプ

打楽器のパン、リバーブ、ボリューム、チューン設定
ユーザーキーボードパーカッションの設定(ロワー/ペダルボタンにアサインされているユーザーのナンバーを除く)

レジストレーションシフトの設定
ピッチ/トランスポーズの設定

ボイスディスクの音色(ドットボタンにアサインされているユーザーボイスのナンバーを除く)

パターンディスクのユーザーリズムパターン(ドットボタンにアサインされているユーザーリズムのナンバーを除く)

リズムシーケンス
MIDIの設定

1 レジストレーションを記録する

新しくつくったレジストレーションを、レジストレーションメモリーのボタンに記録します。レジストレーションメモリーに記録されたレジストレーションは、フロッピーディスクに保存することもできます。

- 1 まず、記録したいレジストレーションをつくります。
- 2 レジストレーションメモリーセクションの左端にあるM./TO DISK(メモリー)ボタンを押しながら、記録したいナンバーのボタンを押します。

1. M./TO DISKボタンを押しながら

2. ナンバーのボタンを押します



レジストレーションが記録されると、押したナンバーのボタンが一時的に点滅します。



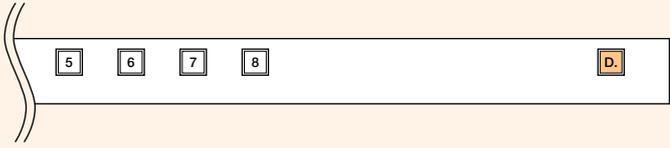
NOTE
1～8のナンバーのボタンに記録と呼び出しが可能です。ただし、MDRの再生やレジストレーションシフトによる呼び出しは、1～16まで可能です。

2 レジストレーションを呼び出す

呼び出したいナンバーのボタンを押すだけで、記録したレジストレーションをパネル上に呼び出せます。

ディスエーブルボタンについて

レジストレーションのナンバーボタンを押すと、リズムやアカンパニメントのパターンも同時に変わります。しかし、レジストレーションメモリー右端のD. (ディスエーブル)ボタンをオンにすることで、テンポ等をはじめとするリズムの設定(リズムの種類やアカンパニメント)は変えずに、レジストレーションメモリー機能を使って演奏することができます。



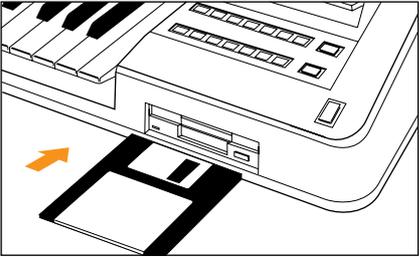
NOTE

ディスエーブルボタンで変化しないようにできる設定は、以下の通りです。

- リズムパターン
- リズムコンディション
- テンポ
- A.B.C./M.O.C.の設定

3 記録したレジストレーションをフロッピーディスクに保存する

1 MDR(ミュージックディスクレコーダー)セクションのディスク挿入口に、フォーマット済みのフロッピーディスクを差し込みます。(ディスクのフォーマットについては、75ページをご参照ください。)



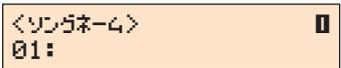
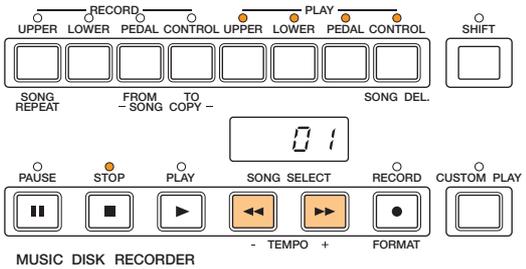
NOTE

フロッピーディスクへの保存/呼び出しの詳細については、第6章ミュージックディスクレコーダーの82、83ページをご参照ください。

NOTE

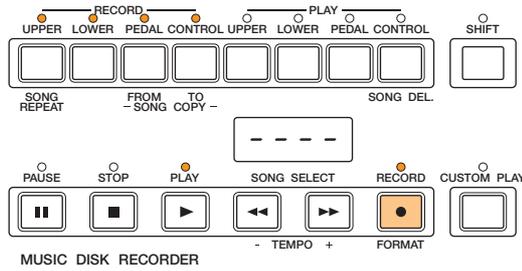
他のELシリーズで録音したソングの場合、ソングネームが表示されないものもあります。

2 SONG SELECT(ソングセレクト)ボタンを押して、記録するソングナンバーを選択します。また、LCDディスプレイ上にソングナンバー/ネームが表示されますので、DATA CONTROLボタンとPAGEボタンを使って、記録するソングナンバーを選択することもできます。すでに何らかのデータが記録されているソングナンバーには、何らかのソングネームが表示されます。



1枚のディスクで、40ソング(2DDタイプのディスクでも2HDタイプのディスクでも同様)まで使用することができます。

3 MDRのRECORD(レコード)ボタンを押しながら、レジストレーションメモリーのM./TO DISK(メモリー)ボタンを押します。

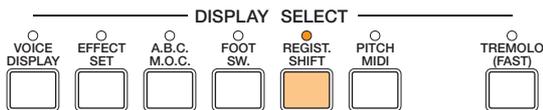


この操作で、フロッピーディスクの1つのソングナンバーに、レジストレーションメモリーでつくった8レジストレーションが保存されます。

4 レジストレーションシフト

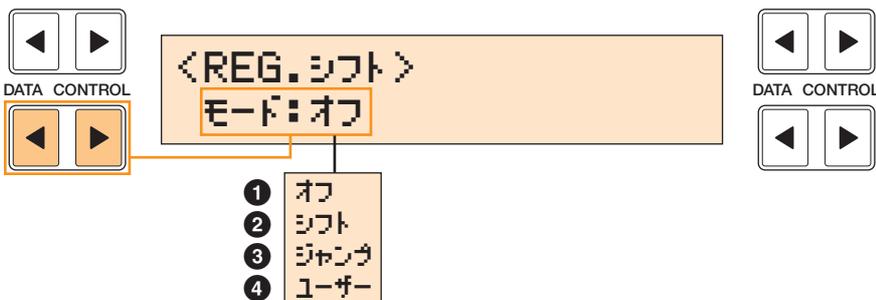
レジストレーションシフト機能を使うことによって、演奏中に手を使わずにレジストレーションの変更ができ、パネル操作をせずに演奏に専念することができます。エクスペッションペダルの右側についているフットスイッチで、ある特定のレジストレーションを選択したり、ナンバー順に、または自分で設定した順序でレジストレーションを選択することができます。

DISPLAY SELECTセクションの中のREGIST. SHIFT(レジストレーションシフト)ボタンを押します。LCDディスプレイ上には、レジストレーション シフト画面が表示されます。



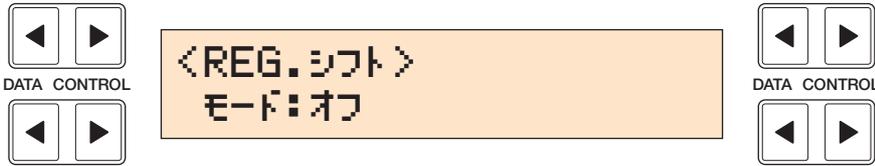
レジストレーション シフト画面

LCDディスプレイの左下にあるDATA CONTROLボタンを使って、モードを選びます。モードをオフにする機能とシフト、ジャンプ、ユーザーの3つのモードがあります。それぞれのモードの内容は以下の通りです。



① オフ

レジストレーションシフトの機能をキャンセルします。



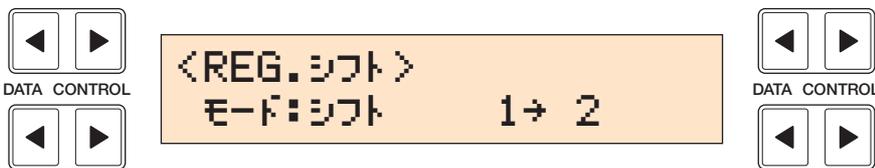
② シフト

シフトモードを使うと、右のフットスイッチを押すたびにレジストレーションナンバーがひとつずつ右に移動し、1から16までのナンバー順にレジストレーションが選択されていきます。選択されたナンバーボタンは点灯します。



NOTE

- ・ ボタンは1～8までしかありませんが、上位機種でつくった9～16のレジストレーションまでシフトするようになっています。
- ・ 16の次は1にシフトします。
- ・ 現在のレジストレーションナンバーと次のナンバーが表示されます。



③ ジャンプ

ジャンプモードを使うと、指定したナンバーのレジストレーションにジャンプします(直接選ぶことができます)。

ジャンプモードの使い方：

1. ジャンプモードを選ぶと、LCDディスプレイの右側にジャンプ先のナンバーが表示されます。



2. 右下の一組のDATA CONTROLボタンを使って、ジャンプしたいナンバーを選択します。押すたびに、ジャンプ先のレジストレーションのナンバー表示が変わります。
3. 右のフットスイッチを押すと、指定したレジストレーションにジャンプします。



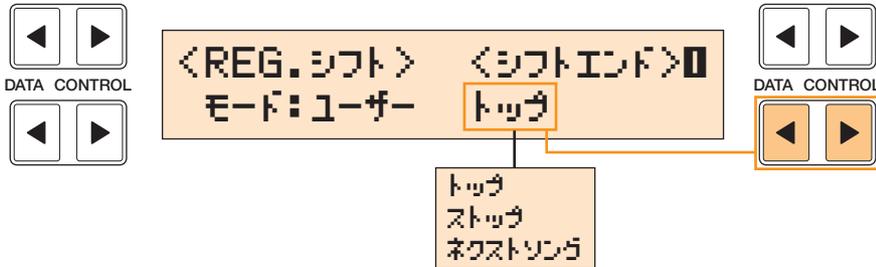
NOTE

EL-400では、ボタンは1～8までしかありませんが、上位機種でつくった9～16のレジストレーションへジャンプすることもできます。

4 ユーザー

ユーザーモードを使って自分でシフトする順序を設定すると、オリジナルのレジストレーションシフトが作れます。右のフットスイッチでコントロールします。

1. ユーザーモードを選ぶと、LCDディスプレイの右側にシフトエンドのモード(レジストレーションシフトの最後の動作)が表示されます。また、右上にページ番号が表示されます。



2. 右下の一組のDATA CONTROLボタンを使って、シフトエンドを設定します。次のように3つのモードがあります。

ストップ：最後のレジストレーションを選択して、レジストレーションシフトは終了します(次にシフトしません)。

トップ：最後のレジストレーションを選択したあと、トップに戻って繰り返しシフトします。

ネクストソング：最後のレジストレーションを選択したあと、次のソングナンバーのレジストレーションデータを自動的に読み込みます。1曲で16種類以上のレジストレーションを使用する場合などに便利です。

この機能を使って演奏をMDRで録音すると、複数のソングを連続して自動的に再生することができます。

3. PAGEボタンで2ページ目に切り換えます。エディット画面が表示されます。ここで、レジストレーションシフトを設定します。



1 ポジション(カーソルコントロール)

LCDディスプレイ上のカーソルは、挿入/編集するレジストレーションのポジションを選ぶために使用します。

- 1-1 カーソルを最初の位置に戻します。
- 1-2 ボタンを押すごとに1つだけカーソルを左に移動します。
- 1-3 ボタンを押すごとに1つだけカーソルを右に移動します。
- 1-4 カーソルを、現在設定されているレジストレーションシフトの最後の位置に移動させます。



NOTE
この機能を使用してMDRを再生するためには、必ずPLAY(プレイ)ボタンを押してMDRをスタートさせてください。CUSTOM PLAY(カスタムプレイ)ボタンでは機能しません。



NOTE
ネクストソングではユーザー音色は読み込みません。また、リズムの再生中は、ユーザーリズムパターンやシーケンスも読み込みません。



NOTE
カーソルは、設定されたレジストレーションの範囲内でのみ移動します。



NOTE
カーソルを移動すると、カーソルが置かれたポジションにあるレジストレーションがセットされます。ただし、カーソル移動で、シフトエンドを動作させることはできません。



NOTE
ユーザーレジストレーションは、最高80まで設定できます。1ページに表示されるレジストレーション数を越えて入力していくと、画面は右にスクロールしていきます。



NOTE
レジストレーションを入力していくと、自動的に最後のレジストレーションの後にシフトエンドを示すマークが置かれます。

E	エンド
N	ネクストソング
←	トップ

② データエディット

これらのボタンを使って、ユーザーレジストレーションシフトの設定、編集作業をします。

②-1 [INS] (INSERT : インサート)

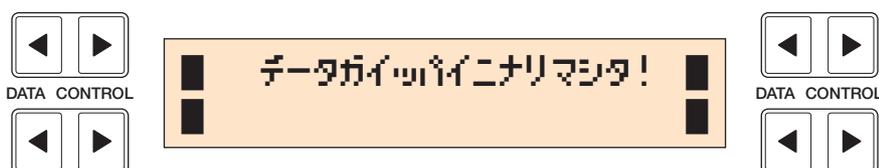
初めてレジストレーションシフトを設定する場合や、レジストレーションシフトを組んだ後や途中で、別のレジストレーションを挿入する場合に使います。

カーソルを、挿入したいポジションに合わせます。挿入したいレジストレーションをナンバーボタンで選択した後、[INS]に対応したDATA CONTROLボタンを押します。カーソルの位置以降のレジストレーションが右に1つずつずれ、カーソルの位置に、選んだレジストレーションが挿入されます。

②-2 [DEL] (DELETE : デリート)

カーソルの位置のレジストレーションを削除(デリート)する場合に使います。削除したいレジストレーションにカーソルをあわせて、[DEL]に対応したDATA CONTROLボタンを押します。

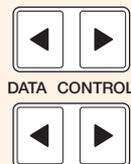
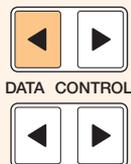
ユーザーレジストレーションシフトの限度である80レジストレーションを越えて入力することはできません。最後にE(エンド)マークが表示されます。挿入操作(INS)で80以上設定しようとする、以下の画面が一時的にLCDディスプレイに表示されます。



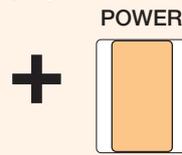
初期設定に戻す - パワーオンリセットについて

レジストレーションを含めたデータのすべてを消去し、エレクトーンを初期設定(工場出荷時)と同じ状態に戻すことができます。

1. いったん、エレクトーンの電源を切ります。
2. 一番左上のDATA CONTROLボタンを押しながら電源を入れます。



この場合、すべてのデータが消去されてしまいますのでご注意ください。大切なデータは、あらかじめMDRを使用してフロッピーディスクに保存されることをおすすめします。



5 前回電源を切る直前と同じ状態に戻す

通常、エレクトーンの電源を切ると、パネル上やLCD上で設定していたデータはすべて消去され、再び電源を入れると自動的に基本レジストレーション1の設定に戻ります。

データを消去したくない場合は、電源を切る前に必ずレジストレーションメモリーボタンに記録してください。

ただし以下の条件では、電源をオフにする前の状態に戻すことができます。

1. エレクトーンの電源を入れます。
2. パネル上のボタンに触らないようにして、M./TO DISK(メモリー)ボタンを押しながら、D.(ディスエーブル)ボタンを押します。



これで、前回電源を切ったときと同じ状態に戻ります。

(この時、基本レジストレーションボタン以外のパネル上のボタンを触ると、エレクトーンは新たなデータ設定となり、戻せなくなりますので、ご注意ください。)

ミュージックディスクレコーダーMDRは、演奏データを録音/再生するだけでなく、ボイスデータなどを含めたレジストレーションデータを保存したり読み込んだりすることができます。ディスクコピー機能を使ってデータのバックアップを取ったり、その他、市販のXG曲集を再生したりすることもできます。

1 MDRのご使用の前に

MDRをご愛用いただくために、ご使用時には以下のことをお守りください。

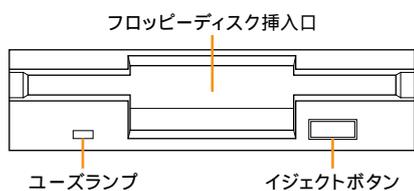
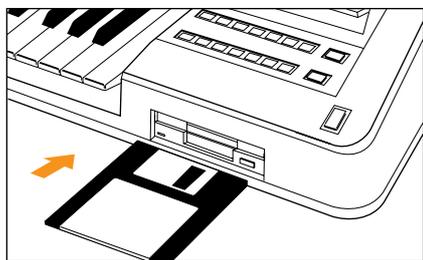
フロッピーディスクの種類

3.5インチの2DDまたは2HDフロッピーディスクがご使用になれます。(このエレクトーンには、2HDのブランクディスクが1枚付いています。)

フロッピーディスクの挿入/取り出し

フロッピーディスクの入れかた

フロッピーディスクのシャッターに文字が書かれている方(表面)を上にして、MDRセクション下部のディスク挿入口にカチッと音がするまでいねいに差し込みます。



NOTE

EL-400の電源を入れると、ディスク挿入口左下のユーズランプは常に点灯して、MDRが使用可能であることを示します。

フロッピーディスクをディスク挿入口から取り出すときのご注意

❗ フロッピーディスクを取り出すときは、あらかじめ、MDRのSTOPボタンのランプが点灯していることを確認してください。(録音を行っていた場合は、STOPボタンを押して、デジタルディスプレイのストップ処理中を示す点線表示が止まったことやSTOPボタンのランプが点灯したことを確認した上で、ディスクを取り出すよう心がけてください。)

STOPボタンのランプ点灯を確認後、ディスク挿入口の右下にあるイジェクトボタンをしっかりと正確に押し、フロッピーディスクが完全に出たことを確認してから、ディスクを取り出してください。

⊘ 録音中や再生中などは絶対にフロッピーディスクを取り出さないでください。ディスク内容がこわれるだけでなく、MDRの故障の原因になります。

❗ イジェクトボタンを中途半端に押ししたり、あわてて押しすと、取り出し機構が正常に作動せず、フロッピーディスクが途中で引っかかり取り出せなくなる場合があります。この場合、無理にフロッピーディスクを取り出そうとすると、ディスクがこわれたり、MDRが故障したりする原因になります。

このような場合は、もう一度イジェクトボタンを押しなおすか、またはフロッピーディスクをディスク挿入口に完全に押し込んで、もう一度イジェクトボタンをしっかりと正確に押しなおして取り出してください。

❗ 電源を切るときは、フロッピーディスクはあらかじめMDRから取り出してください。電源を切ったあと、フロッピーディスクを入れたまま長時間放置すると、ディスクが汚れ、データの読み書きにエラーが生じる原因になります。

磁気ヘッドの定期的なクリーニング

MDRは高精度の磁気ヘッドを使用しています。MDRを長時間使用していくうちに、磁気ヘッドはフロッピーディスクの磁性粉で汚れてきます。磁気ヘッドが汚れると、録音や再生にエラーが生じることがあります。

MDRを良好な状態でご使用いただくために、磁気ヘッドを定期的に(1ヵ月に1回程度)クリーニングしていただくことをおすすめします。



NOTE

磁気ヘッドのクリーニングには、市販の「乾式ヘッドクリーニングディスク」をご使用ください。なお、取扱説明書巻末のヤマハ電気音響製品サービス拠点で、弊社推奨の「乾式ヘッドクリーニングディスク」をお求めいただくこともできます。

フロッピーディスクについてのご注意

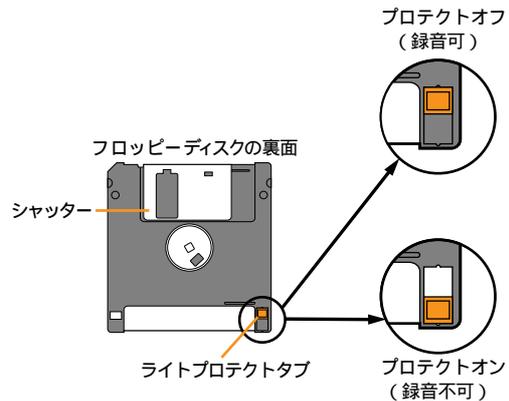
フロッピーディスクの取り扱いと保管

- ❗ (持ち運ぶ場合も含めて)必ず市販のケースに入れて保管し、落としたり、物をのせたり、折り曲げたりしないでください。また、ディスク内部に水やほこりなどが入らないようにしてください。
- ⊘ 直射日光のあたる場所(日中の車内など)やストーブの近くなど極端に温度が高くなる場所、逆に温度が極端に低いところに置かないでください。また、ディスク内部に水やほこりなどが入らないようにご注意ください。
- ⊘ ディスクのシャッターを開けて、内部の磁性体に触れないでください。
- ⊘ 磁気を帯びたもの(テレビやスピーカーなど)には近づけないでください。
- ⊘ シャッターやディスク自体が変形しているようなディスクは、使用しないでください。
- ⊘ フロッピーディスクにはラベル以外のもの(メモなど)を貼らないでください。ラベルは所定の位置にはがれないようにしっかりと貼ってください。

誤消去防止

フロッピーディスクには、誤ってデータを消してしまわないようにライトプロテクトタブ(書き込み禁止タブ)が付いています。大切なデータが入っているディスクは、ライトプロテクトタブをオン(タブの窓が開いた状態)にして、書き込みができないようにしてください。

逆に、録音する場合などは、ご使用前にディスクのライトプロテクトタブがオフになっていることをご確認ください。



データのバックアップ

フロッピーディスクの万一の事故に備えて、大切なデータはバックアップとして予備のディスクに保存しておかれることをおすすめします。バックアップディスク作成のためのディスクコピーについては、92ページをご参照ください。



NOTE

市販フロッピーディスクの中には粗悪品もございます。メーカー名をご確認の上、お求めください。

新しいタイプのMDR

EL-400のMDRは、フロッピーディスクをディスク挿入口に挿入すると、ディスクの内容をすぐに自動的に読み込んでいく仕様になっています。したがって、ディスクを挿入すると、すぐにデータ読み込みのための動作音が始まります。この機能によって、再生をすぐにスタートさせることができます。また、データ再生中の動作音が無くなるということや複数のソングを使用した演奏(ネクストソング機能)の録音が可能になるというメリットが生まれました。



NOTE

ディスクを抜くと、現在再生しているソング以外のデータは(エレクトーンから)失われてしまいます。



NOTE

データ読み込みのための動作音が生じる時間は、フロッピーディスクに入っているデータの量に比例します。MDRを使用していないときにMDRの動作音が気になる場合は、そのままディスクを取り出しても問題ありません。

2 ディスクをフォーマットする

ディスクを使用するためには、最初にディスクをフォーマット(初期化)する必要があります。フォーマットとは、ディスクをMDRの書式に合わせる作業です。

1 ディスクの表側を上にして、MDRのディスク挿入口にしっかりと挿入します。
デジタルディスプレイに"Fort"が現れ、挿入したディスクがフォーマットする必要があることを示します。

2 MDRセクションのSHIFT(シフト)ボタンを押しながら、FORMAT(フォーマット)ボタンを押します。
MDR中央部のデジタルディスプレイ上に小さなバー表示が現れ点滅を始めます。同時にFORMATボタンの真上のランプも点滅し、フォーマットの準備ができたことを示します。

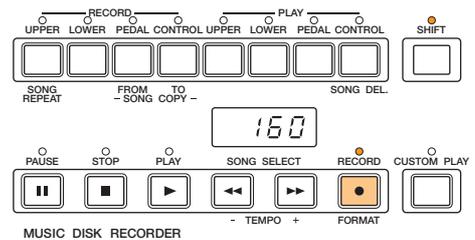
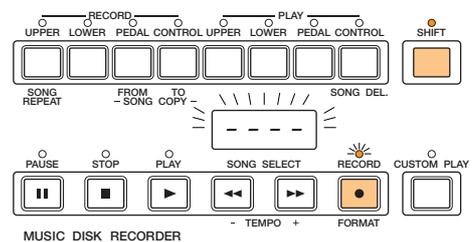
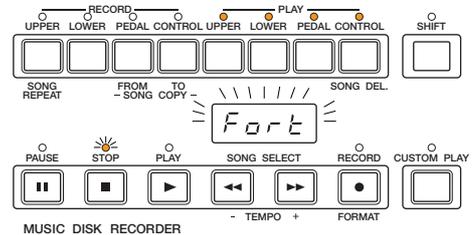
3 もう一度FORMATボタンを押します。
フォーマットが開始されます。
MDRのデジタルディスプレイには数字の160が表示され、160から001まで減少していきます。フォーマットが完了したら、MDRはストップの状態に戻ります。
フォーマットが完了すると以下のようなソングナンバー(ネーム)がLCDディスプレイに表示されます。

<ソングネーム> **II**
01:

SONG SELECT(ソングセレクト)ボタンやLCDディスプレイの右下/左下のDATA CONTROLボタンを使って、ソングナンバー(ネーム)を切り換えることができます。一つのページで10ソングまで切り換えて選ぶことができます。右上にはページ1、2、3、4が表示され、ソングナンバー(ネーム)のページが4ページあることを示します(計40ソング)。フォーマット直後は何も録音されていないので、ソングネームはブランクになっています。

SHIFT(シフト)ボタンについて

MDRパネルのそれぞれのボタンの真上に表示されている機能を選択する場合は、単に該当するボタンを押すだけですが、ボタンの真下に表示されている機能や表示の無い機能を選択する場合には、シフトボタンを押しながら、その該当するボタンを押します。

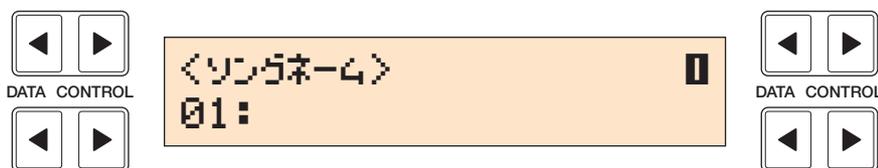


フォーマットを実行すると、ディスクの中のすべてのデータは消去され、新たにデータが記録できる状態になります。消去されたデータは永久に失われてしまいます。フォーマットを実行する前に、重要なデータが入っていないかどうかよくご確認ください。

3 録音する

(1) 録音するには

- 1 まずレジストレーションメモリーの設定など、録音したい曲の演奏の準備をします。
- 2 フォーマットされたディスクを、ディスク挿入口に挿入します。
- 3 録音したいソングナンバーを、SONG SELECTボタンを使って選択します。また LCDディスプレイ上にもソングナンバーが表示されますので、DATA CONTROLボタンを使って、ソングを選ぶことができます。

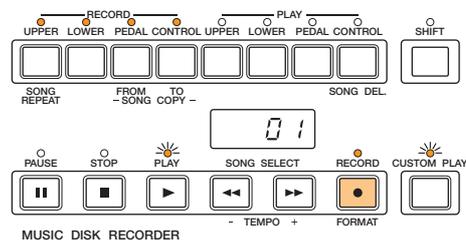
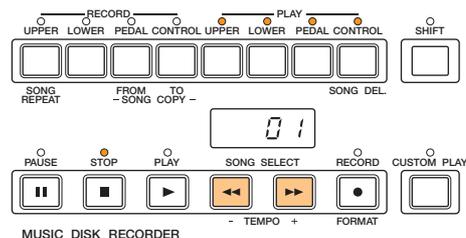


- 4 RECORD(レコード)ボタンを押します。RECORDのランプが点灯し、PLAY(プレイ)ランプと、CUSTOM PLAY(カスタムプレイ)ランプが点滅を始め、MDRが録音待機状態になったことを示します。

- 5 PLAY(プレイ)ボタンを押します。PLAYのランプが点灯し、MDRのデジタルディスプレイ上を小さなバーが左から右に走ります。これは、エレクトーンが設定されたレジストレーションなどのデータの読み込みをしていることを表します。

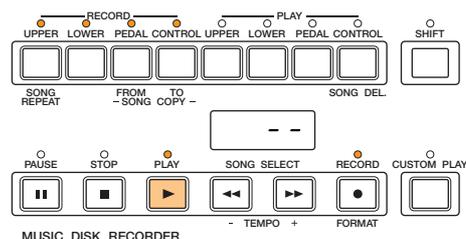
NOTE

最高で40ソングまで録音できますが、演奏データの場合は使用するメモリーの量が多いので、1枚のディスクに録音できる曲数は実際にはもっと少なくなります。(メモリーの残量については、94ページをご参照ください。)



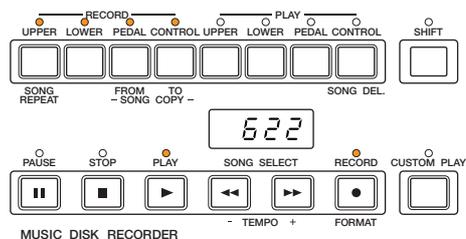
NOTE

すでに該当するソングナンバーにデータが録音されている場合は、中央のデジタルディスプレイのソングナンバーの左側に2本の小さなバー(-)が表示され、デジタルディスプレイとレコードランプが点滅を始め、該当するソングナンバーにデータが入っていることを知らせます。そのまま録音を実行したい場合は、もう一度レコードボタンを押すと4の録音待機状態になります。キャンセルしたい場合は、ストップボタンを押します。



6 デジタルディスプレイに数字が表示されたのを確認してから、演奏を開始します。

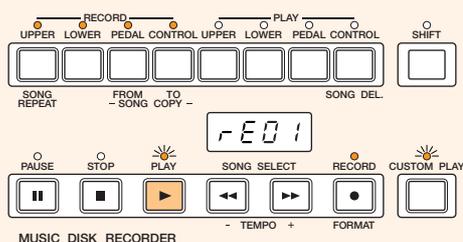
エレクトーンがデータの読み込みを終了し、演奏可能な状態になると、デジタルディスプレイは小さなバーの表示から数字表示に変わります。この数字は、ディスクのメモリーの残量を表しています。



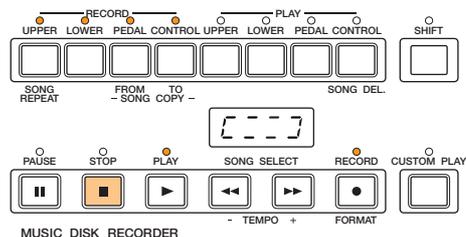
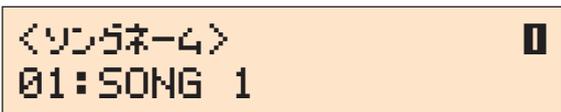
数字表示後の演奏前のわずかな時間の経過も記録され、再生時に反映されます。

レコーディング中にミスをした場合は

1. レコーディングの状態のままで、PLAYボタンを押します。これで録音が中止され、曲の頭に戻ることができます。デジタルディスプレイの左側に「rE」(RETRY：リトライ：再試行)の文字が表示され、PLAYとCUSTOM PLAY(カスタムプレイ)のランプが点滅を始め、再度録音が可能になったことを知らせます。
2. もう一度PLAYボタンを押すことで、再度録音を開始できます。前もって録音されたデータは、すべて新しいデータに置き換わります。



7 演奏が終わったら、STOP(ストップ)ボタンを押します。デジタルディスプレイにストップ処理中の表示が出たあと、STOPランプが点灯し、MDRはストップの状態に戻ります。LCDディスプレイには、「SONG(ナンバー)」が表示され、そのソングナンバーにデータが録音されたことを示します。



！ ストップ処理中であることを示します

フロッピーディスクを取り出す場合は、デジタルディスプレイのストップ処理中を示す点線表示が止まったことやSTOPボタンのランプが点灯したことを確認した上で取り出すよう心がけてください。



デジタルディスプレイのメモリー残量が*008*またはそれ以下になったら、数字は点滅を始め、残量が0に近くなったことを知らせます。

8 PLAYボタンを押して、録音した演奏を聞いてみます。再生を開始するまでには、レジストレーションなどの読み込みのため1~2秒かかります。(再生については、84ページをご参照ください。)

⊘ 録音/再生中は、絶対に電源を切ったり、イジェクトボタンを押したりしないでください。またエレクトーンの電源を切る際には、あらかじめフロッピーディスクを取り出しておいてください。故障の原因になります。

MDRの概要

MDRは通常のカセットテープレコーダーと同じように操作がシンプルで簡単ですが、内容的にはカセットテープレコーダーよりもはるかに優れています。MDRは、演奏データだけではなくパネル面のレジストレーションデータや音量の加減などのコントロールデータをデジタル信号として記録します。MDRが記録するデータは、大きく分けて以下の3種類に分類できます。

1. レジストレーションデータ

パネル上のレジストレーションだけでなく、前もってレジストレーションメモリーボタンに記録されているデータも、演奏を録音する前に記録します。またレジストレーションシフトの設定や前もって読み込んだリズムシーケンスデータ/ユーザー音色/パターンなどを含めたデータも記録します。

2. 演奏データ

演奏データを、フォルティシモからピアノシモまで、演奏の微妙な変化も逃さず録音します。アッパー、ロワー、ペダル、(リ・ド) (キーボードパーカッション)をそれぞれ別々に記録しますので、ほかのパートに影響を与えることなく変更できます。

3. コントロールデータ

LCDディスプレイ上での各種設定の変更操作やエクスプレッションペダル、フットスイッチやニーレバーの情報など、演奏中のエレクトーン上の設定変更をすべて記録します。

(2)パート録音するには

アップパー、ロワー、ペダル、リ - ド、それぞれのパートを個別に録音することができます。また、この機能で、キーボードパーカッションや、レジストレーションの変更、エクスプレッションペダル操作といったコントロールデータも個別に記録することができます。

1 まずMDRでの録音の準備をします。(この操作は、76ページの録音の手順1~4と同じです。)

1. 演奏に必要なすべてのレジストレーションを、レジストレーションメモリ - ボタンに設定します。
2. フォーマットされたディスクをMDRに挿入します。
3. MDRのソングナンバーを選択します。
4. RECORDボタンを押して、録音の待機状態にします。

2 録音したいパートを選択します。
この場合、1-4.でレコードボタンを押すと、レコード側の各パートが自動的に選択されて、各パートのランプが点灯します。
レコード側の録音しないパートのボタンを(この場合、アップパー)を押すと、そのパートのランプが消え、逆にプレイ側のそのパートのランプが点灯します。

RECORD/UPPER(アップパー)

点灯の状態、アップパーパートの録音を選択。オフで録音キャンセルとなります。

RECORD/LOWER(ロワー)

点灯の状態、ロワーパートの録音を選択。オフで録音キャンセルとなります。

RECORD/PEDAL(ペダル)

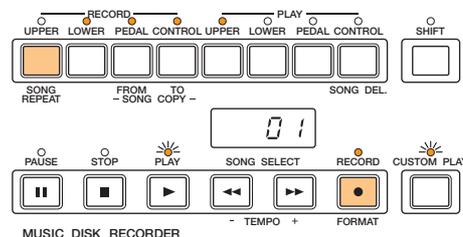
点灯の状態、ペダルパートの録音を選択。オフで録音キャンセルとなります。

RECORD/CONTROL(コントロール)

点灯の状態、コントロールデータの録音を選択。オフで録音キャンセルとなります。

(コントロールデータについては、"MDRの概要"をご参照ください。)

上記のイラストの場合、アップパーパートの録音だけをキャンセルしていることとなります。



リードボイスとキーボードパーカッションのパート録音

MDRのパネル上には表示されていませんが、リードボイスとキーボードパーカッションもパートごとの録音/再生ができます。

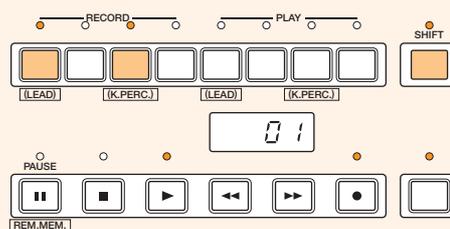
リードとキーボードパーカッションのパート録音をするには録音待機状態でSHIFT(シフト)ボタンを押しながら、イラストに示されたレコード側のリード/キーボードパーカッションのパートボタンを押します。

RECORD/LEAD(リード)

点灯の状態では、リードパートの録音を選択。オフで録音キャンセルとなります。

RECORD/K.PERC.(キーボードパーカッション)

点灯の状態では、キーボードパーカッションのパートの録音を選択。オフで録音キャンセルとなります。(キーボードパーカッションは、リズムと分離して録音/再生ができます。)



NOTE

このように、リードとキーボードパーカッションも、ほかのパートと別に独立して録音/再生ができます。またパート録音の指定をしない場合は、リードとキーボードパーカッションのパートは、それぞれリード アッパーやキーボードパーカッション ロー/ペダルの情報として録音/再生されます。

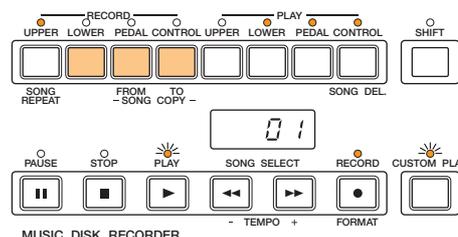
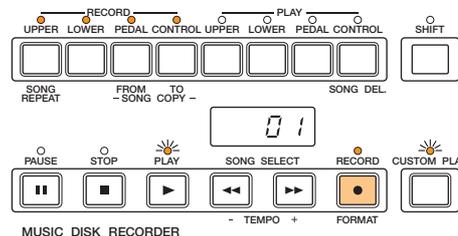
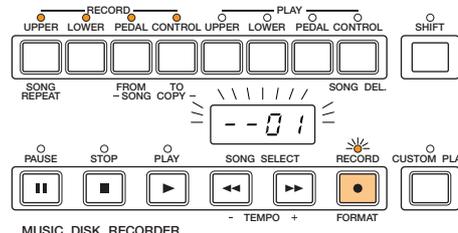
3 PLAYボタンを押し、数字表示(メモリー残量表示)がMDRのデジタルディスプレイ上に現れたら、演奏を始めます。

4 (下鍵盤とペダル鍵盤)の演奏が終了したら、STOPボタンを押します。これで(下鍵盤とペダル鍵盤)のパート録音ができました。次に、録音しなかった(上鍵盤)パートの録音を行ないます。

5 MDRのRECORDボタンを押します。この場合、すでにこのソングナンバーには(下鍵盤とペダル鍵盤)の演奏データが入っています。MDRのデジタルディスプレイには、イラストにあるようにソングナンバーとその左側の小さな2本のバーが表示され点滅を繰り返して、このソングナンバーにすでにデータが入っていることを示します。

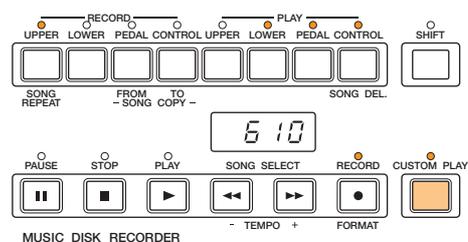
6 別のパートを重ねるために、もう一度RECORDボタンを押します。PLAYとCUSTOM PLAY(カスタムプレイ)のランプが点滅を始め、録音待機状態になったことを示します。

7 上記2で録音したレコード側のパートボタンを押して録音をキャンセルし、プレイのパートボタンのランプを点灯させます。ここでは、2で録音しなかったパート(上鍵盤: UPPER)だけレコード側のパートボタンのランプを点灯させます。



8

新しいパートを録音するために、CUSTOM PLAYボタンを押します。既に録音したパート(下鍵盤とペダル鍵盤)の再生が始まりますので、それに合わせて新規のパート(上鍵盤)の演奏を始めます。レジストレーションデータは上記3のステップで記録されていますので、すぐに録音できる状態になります。曲の最後まで行くと、MDRは自動的にストップします。



NOTE

CUSTOM PLAY(カスタムプレイ)は、レジストレーションデータ以外のデータを録音/再生する場合に使います。

NOTE

重ねて録音するパートの長さは、その前に録音したパートの長さ以上にはなりません。前に録音していた曲の上に別の曲を録音する場合も、前に録音していた曲の長さを超えることはできません。長さを変更したい場合は、あらかじめソングデリート(削除)を行なって、前の曲を削除してから録音してください。(ソングデリートについては、92ページをご参照ください。)

パンチイン録音

録音したソングの一部だけを録音し直すことができます。パートを選択することによって、特定のパートだけをパンチイン録音することもできます。

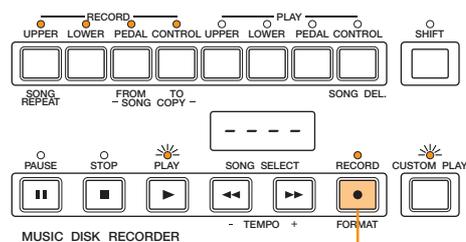
1. PLAYボタンを押してソングを再生します。
2. パンチイン録音したい位置で、PAUSE(ポーズ)ボタンを押します。ソングが一時停止状態になります。
3. RECORDボタンを押します。PLAYとCUSTOM PLAYのランプが点滅を始め、録音待機状態になったことを示します。
4. RECORD(レコード)側のパートボタンを押して、パンチイン録音しないパートのランプを消します(パンチイン録音したいパートのランプだけを点灯させます)。
5. PLAYボタンを押して録音を開始します。変更したい部分だけを演奏します。
6. 速やかにSTOPボタンを押して、録音を終了します。

4 レジストレーションなどのデータだけを記録する

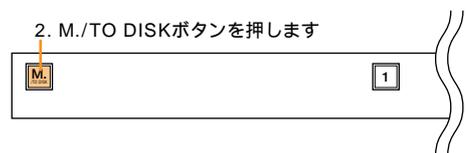
演奏データを録音せずに、レジストレーションなどのデータだけを記録することもできます。記録されるデータには、レジストレーションメモリーの設定や、レジストレーションシフト、リズムパターン(ユーザーリズム)、リズムシーケンスデータ、そしてユーザーボイスが含まれます。記録する方法としては、以下の2通りがあります。

[方法1]

- 1 記録したいレジストレーションデータを設定します。
- 2 SONG SELECTボタンやDATA CONTROLボタンを使って、MDRの(フロッピーディスクの)記録したいソングナンバーを選択します。
- 3 MDRのRECORDボタンを押しながら、レジストレーションメモリーセクションのM./TO DISK(メモリー)ボタンを押します。MDRのデジタルディスプレイ上を、小さなバーが左から右に走りレジストレーションを記録していることを示します。終了すると、自動的にストップの状態に戻ります。



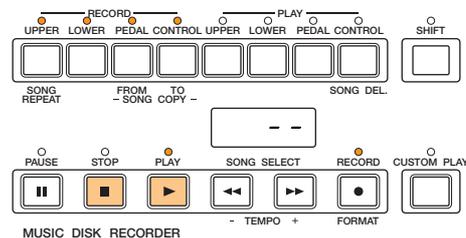
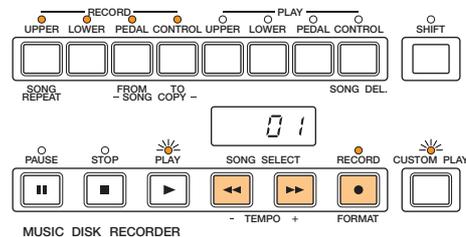
1. RECORDボタンを押しながら



2. M./TO DISKボタンを押します

[方法2]

- 1 上記1、2と同じ手順で、記録したいレジストレーション/データを設定し、記録させたいソングナンバーを選択します。
- 2 RECORDボタンを押して、録音を待機状態にします。
- 3 PLAYボタンを押して、小さなバーがデジタルディスプレイ上を左から右に走るのを確認したら、すぐにSTOPボタンを押します。この操作は演奏を録音するときと同じです。MDRが演奏データの録音を始める前に、レジストレーションなどのデータを読み込んだところで、録音を中断して、レジストレーションなどのデータだけを記録するものです。



5 レジストレーションなどのデータを読み込む

ソングナンバーに記録されたレジストレーションなどのデータは、簡単にエレクトーンを読み込むことができます。

- 1 ディスクを挿入し、読み込みたいデータの入っているソングナンバーを選択します。
- 2 MDRのPLAYボタンを押します。
これで、レジストレーションなどのデータを読み込むことができます。

レジストレーションだけの記録/読み込みについて

MDRとレジストレーションメモリーを併用することで、演奏中にパネル設定を変更することなく、1曲で16種類以上のレジストレーションを使用する曲にも充分対応することができます。(1枚のディスクで40ソングナンバーがあり、また、1ソングナンバーにはレジストレーションメモリーボタンの数だけ[8種類]記録できます。)

16種類以上のレジストレーションを使って1つの曲を演奏する場合は：

- 1 演奏する前に、レジストレーションを順序良くパネル上のレジストレーションメモリーボタンに記録して、それをいくつかのソングナンバーに記録します。この際、演奏する順序でソングナンバーを整理しておくとう便利です。
- 2 演奏中に、1つのソングナンバーの中の16レジストレーションを使用したら、次のソングナンバーをソングセレクトで選択し、プレイボタンを押します。これで、パネル上のレジストレーションメモリーボタンにアサインされているレジストレーションは、次のものと入れ替わります。
- 3 この操作を繰り返すことで、どんなに長い曲でも簡単にレジストレーションチェンジができます。



レジストレーションシフト(ユーザー)を設定しておくことにより、次のソングナンバーのレジストレーションを自動的に読み込むこともできます。詳しくは70ページのネクストソングをご参照ください。

6 レジストレーションだけを入れ替える

演奏データを変えることなく、録音されている曲のレジストレーションのみを変えることもできます。操作方法は、前述の『4 レジストレーションなどのデータだけを記録する』と同じです。

7 再生する

PLAYボタンを押すだけで、自動的にレジストレーションなどのデータを読み込み、再生することができます。

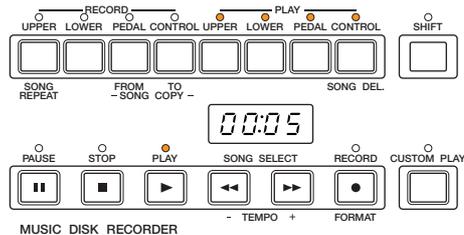
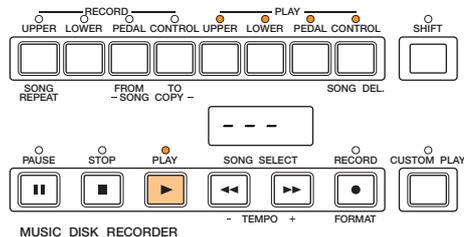
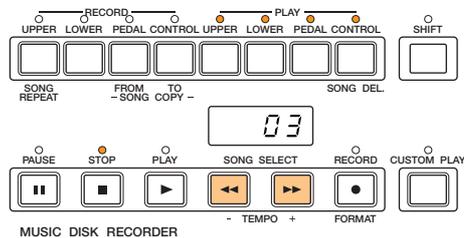
(1)再生するには

- 1 SONG SELECTボタンを使って、再生させたいソングナンバーを選択します。また、LCDディスプレイ上にもソングナンバー/ネームが表示されますので、DATA CONTROLボタンを使ってソングを選ぶこともできます。

＜ソングネーム＞
03: SONG 3

- 2 PLAYボタンを押します。プレイランプが点灯し、デジタルディスプレイ上に小さなバーが走り、MDRがその曲のレジストレーションを読み込んでいることを示します。

- 3 レジストレーションデータの読み込みが終了すると、再生が自動的に始まります。デジタルディスプレイ上には、時間の経過を表す数字が表示されます。曲の最後まで行くと自動的にストップしますが、STOPボタンを使って曲の途中で再生を中止することもできます。



リードボイス/キーボードパーカッションをパート録音していた場合

リード/キーボードパーカッションを分離して録音した場合は、リードとキーボードパーカッションのプレイボタンがオンになります。EL-400では分離録音したパートが自動的にオンになります。

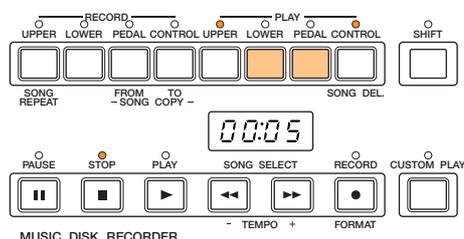


NOTE
MDRは、録音したときの状態をそのまま再現しますが、EL-87/90などで作成されたデータを再生する場合は、リードはオフ、キーボードパーカッションはオンになります。(リードパートをオンにするには、SHIFTボタンを押しながらプレイ側のUPPERボタンを押します。)

(2)パート再生するには

MDRでは、演奏データの特定のパートだけを再生することもできます。特定の練習をする場合などに便利です。

- 1 まず、再生したいソングナンバーを選択します。
- 2 プレイ側の消したいパートのボタンを押して、そのパートのランプをオフにします。また、パート再生させたいパートのランプが点灯していることを確認します。



3 PLAYボタンを押します。
MDRがレジストレーションなどのデータを読み込んだところで、再生が始まります。

4 再生されているパートにあわせて演奏します。
曲の最後まできたら、自動的にストップの状態に戻ります。

(3)リピート再生するには

特定の曲だけを繰り返し再生したり、ディスクに録音されている全部の曲を繰り返し再生することができます。

1 まず再生したいソングナンバーを選択します。
ディスクの全曲をリピート再生したい場合には、再生したい最初の曲を選択します。

2 SHIFTボタンを押しながら、SONG REPEAT(ソングリピート)ボタンを押します。
MDRのデジタルディスプレイ上には、"ALL"(オール：全曲)の表示が現れます。

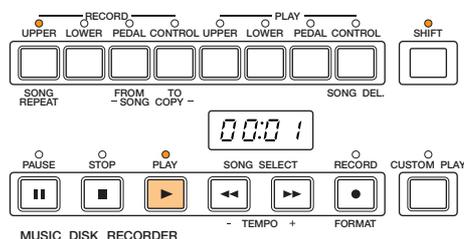
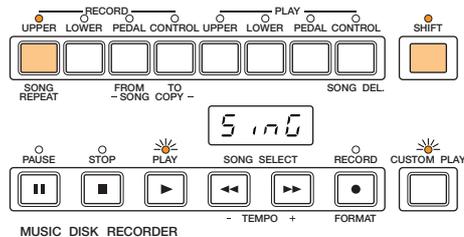
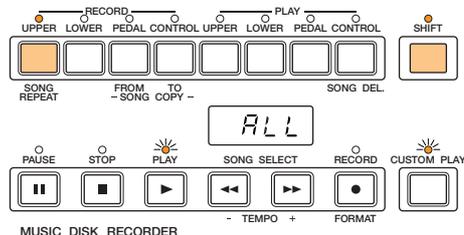
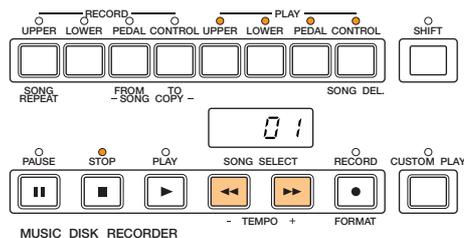
3 選択した曲から全曲リピート再生したい場合
PLAYボタンを押します。
これで、全曲のリピート再生がスタートします。

特定の曲1曲だけをリピート再生したい場合

1. もう一度SHIFTボタンを押しながら、SONG REPEATボタンを押します。
MDRのデジタルディスプレイが、"SinG"(SINGLE：1曲)の表示に変わり、1曲だけの繰り返しを選んだことを示します。

2. PLAYボタンを押します。
これで、1曲だけのリピート再生がスタートします。

STOPボタンを押すと、リピート再生はストップします。



XGについて

EL-400では、MDRを使って市販のXGソングデータを再生することができます。また、EL-400でつくったソングをXGデータに変えるXG簡易変換機能もあります。

XGソングデータの再生

再生専用の機能です。XGソングのパートをミュート(消音)させて、そのミュートさせたパートを弾くことにより、特定のパートの練習をすることもできます。

1. XGソングデータのディスクをMDRのディスク挿入口に差し込みます。

以下のようなディスプレイが表示されます。

ソングネーム表示画面



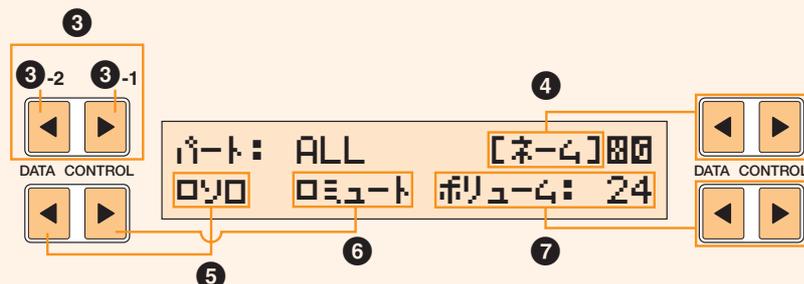
XGソングは[XG]のページに表示されます。同一ディスクに、EL-400のデータとXGソングを入れることもできますが、ディスク内のページはそれぞれ異なります。

2. ①のDATA CONTROLボタンを押して再生したいソングを選びます。

3. MDRのPLAYボタンを押して再生を開始します。

4. ②のDATA CONTROLボタンを押してパート表示画面に切り換えます。

パート表示画面



③のボタンを使ってパートを選択し、選んだパートをソロ⑤/ミュート⑥したり、パートごとのボリューム⑦を調節したりします。



NOTE

EL-400が対応しているXGソングデータは、SMFフォーマット0または1です。

① ソングを選択します。

② パート表示画面に切り換えます。

LCDディスプレイ右上に[XG]のページが追加されます。

③ パート選択(1-16、ALL[オール])

③-1 次のパートを選択します。

③-2 前のパートを選択します。

④ ソングネーム表示画面に切り換えます。

⑤ ソロ:ボックスを に設定すると、選んでいるパートがソロ状態になります。他のパートはすべてミュートされた状態になります。

⑥ ミュート:ボックスを に設定すると、選んでいるパートがミュート(音が鳴らない)状態になります。

⑦ ボリューム:XGソングのパートごとのボリュームを0~24の範囲で調節します。ALLを選択した場合は、ソング全体のボリュームを調節します。

XG簡易変換機能

XG簡易変換機能は、EL-400で演奏したデータ(録音したソング)をXG機器で再生したり、コンピューターで使用できるように変換する機能です。音源システムの違いにより実際の演奏とは聞こえかたが異なります。

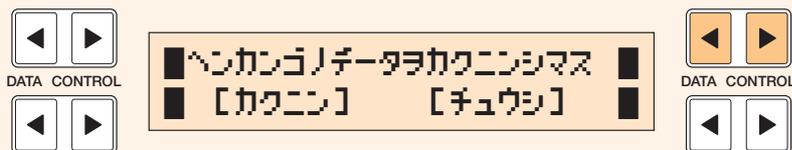
変換される内容：

音色番号(ユーザーボイス除く) 音量、フィート、パン、ビブラート、スライド、イニシャルタッチ、ピッチベンド、エフェクト(トレモロ、ディレイ) リバース(レングス除く) サステイン、リズムパターン(アカンパニメント除く) エクスプレッション、レジストレーション、レジストレーションシフト(ネクストソング除く)

EL-400のソングデータをXGソングに変換するには

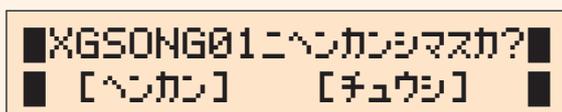
1. ソングデータの入ったディスクをMDRのディスク挿入口に差し込みます。
2. XGに変換したいソングのナンバーを選択します。
3. 右上のDATA CONTROLボタンを押しながらMDRのRECORDボタンを押します。

以下のような確認のメッセージが表示されます。



4. [カクニン]を選択します。

ソングの再生が始まります。最後まで再生すると、以下のようなメッセージが表示されます。



5. [ヘンカン]を選択します。

XGの変換が終了し、元の画面に戻ります。

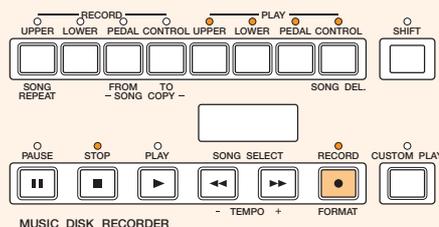


(ディスク内にXGソングが新たに作成された場合は、画面右上に[XG]ページが追加され)変換後のソングは、[XG]ページに保存されます。変換元のソングはそのまま残ります。



NOTE

変換する場合は、前もってメモリー残量が十分あることをご確認ください。



NOTE

この場合XG音源を使って再生します。



NOTE

[チュウシ]を選択すると作業を中止し、元の画面に戻ります。



NOTE

XGソングに変換した場合、音が元のデータと異なって聞こえることがあります。



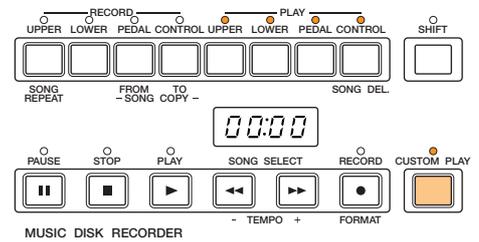
NOTE

変換したソングはデリートすることはできません。

8 その他の機能

(1) カスタムプレイ

レジストレーションやほかのデータを読み込まないで再生したい場合は、PLAYボタンの代わりにCUSTOM PLAY(カスタムプレイ)ボタンを押します。すぐに再生がスタートします。



NOTE

SHIFTボタンを押しながらCUSTOM PLAYボタンを押すか、次のリード&オートインクリメントを実行すると、キーボードパーカッションのアサイン、ユーザーリズム/リズムシーケンス/ユーザー音色のデータの設定を除いたレジストレーションデータを読み出して、再生がスタートします。レジストレーションだけを呼び出すときに使用すると便利です。

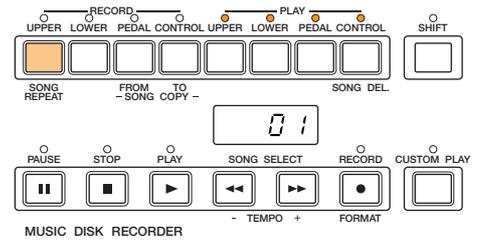
(2) リード&オートインクリメント

レジストレーションだけを呼び出すには、SHIFTボタン + CUSTOM PLAY ボタンの方法のほかに、リード&オートインクリメント機能を使う方法もあります。

リード&オートインクリメント機能について

MDRのストップ状態で、レコード側のUPPERボタンを押すと、MDRはレジストレーションデータを読み出して、その後自動的に次のソングナンバーを選択します。

SHIFTボタン + CUSTOM PLAY ボタンの方法よりも、次のソングナンバーまで自動的に選択できるので便利です。

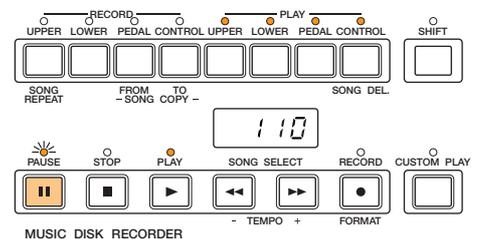


NOTE

レジストレーションデータが入っていないソングの場合は、この機能は動きません。

(3) ポーズ(一時停止)

再生中にPAUSE(ポーズ)ボタンを押すと、ソングを一時停止します。PAUSEボタンをもう一度押すと、一時停止したところから再生がスタートします。



(4) 早送り/巻戻し

再生中に、カセットテープレコーダーのように、早送りと巻戻しができます。

MDRパネル上の▶▶で早送り、◀◀で巻戻しとなります。このボタンを押すと再生は中断され、デジタルディスプレイの数字表示も早送り/巻戻しに従って変化します。

ボタンを押えるのをやめても、再生は中断されたままです。中断したところから再生を再開する場合は、PLAYボタンを押してください。

NOTE

巻き戻しの場合、位置を確認するために少し時間がかかります。

NOTE

早送り/巻戻しのスピードは、再生スピードの5倍の速さです。

(5)再生テンポの変更

再生するソングのテンポを変えることができます。

SHIFTボタンを押しながら、TEMPO(テンポ)+またはTEMPO-を押します。1回押すごとに少しずつ変化していきますが、ピッチが変わるわけではありません。

TEMPO+を押すとテンポが速くなり、TEMPO-を押すとテンポが遅くなります。

(MDRによる再生の場合は、エレクトーンのリズムセクションのテンポダイヤルではコントロールできません。)

オリジナルのテンポに戻すには、SHIFTボタンを押しながら、+と-両方のTEMPOボタンを同時に押します。



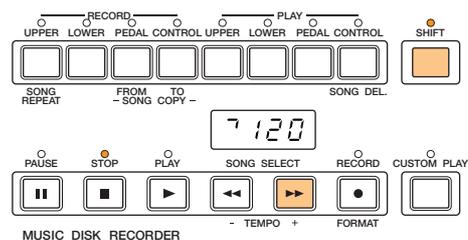
テンポを速くした場合



オリジナルテンポ

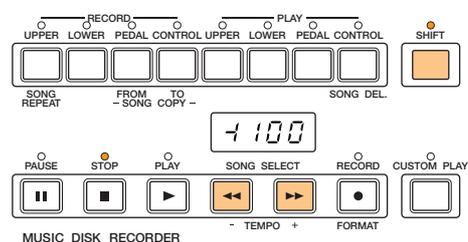


テンポを遅くした場合



NOTE

テンポが変わったら、その変化の程度がMDRのデジタルディスプレイにパーセントで表示されます。オリジナルのテンポは100(パーセント)で表示され、100より大きい数値の場合はテンポが速くなったことを、100より小さな数値の場合はテンポが遅くなったことを表します。



NOTE

1つのソングでテンポの変更をした場合、ほかのソングナンバーのソングも変更したテンポになります。テンポを変えた場合は、ほかのソングに移る前に必ずテンポの設定を元の位置(100)に戻してください。エレクトーンの電源を切るか、ディスクを入れなおすと、元の状態に戻ります。

(6)ソングコピー

1つのソングナンバーのデータを、別のソングナンバーにコピーする機能です。1つのディスク内でも、異なったディスク間でもコピーすることができます。

同一ディスク内でソングコピーをするには

- 1 まずコピーしたいソングナンバーを選択します。
- 2 SHIFTボタンを押しながら、SONG COPY: FROM(ソングコピー：フロム)ボタンを押します。
コピーしたいソングナンバーが、デジタルディスプレイの左側に表示されます。

- 3 次に、コピー先のソングナンバーを指定するために、SHIFTボタンを押しながら、SONG COPY: TO(ソングコピー：トゥー)ボタンを押します。

MDRは、自動的にコピー先のソングナンバー(未使用のソングナンバー)を探し出し、そのナンバーをデジタルディスプレイの右側に表示します。RECORDボタンの上のランプが点滅を始め、ソングコピーが待機状態になったことを示します。もし、すべてのソングナンバーがすでに使用されている場合は、デジタルディスプレイに"FULL"(フル)と表示されます。この場合には、コピーを中止するか、ソングデリート機能で不要なソングナンバーのデータを削除してから、もう一度実行してください。(ソングデリート機能については、92ページをご参照ください。)

- 4 表示されたナンバーではなく、別のソングナンバーにコピーしたい場合は、コピー先のソングナンバーをSONG SELECTボタンで選択します。

この場合、MDRでは未使用のソングナンバーしか選択できません。

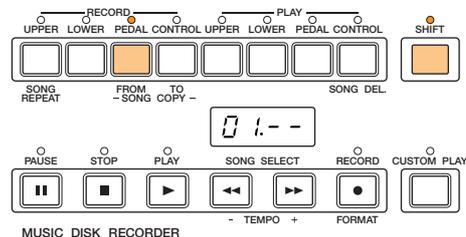
- 5 コピー先の指定が終わったら、RECORDボタンを押してソングコピーを行いません。

RECORDボタンのランプが点滅から点灯状態になり、ソングコピーが開始されたことを表します。デジタルディスプレイ上にはコピーするソングの(データ)サイズが数値で表示され、コピーが進むにつれて数値が減少していき、最後に"000"が表示されてコピーが終了します。



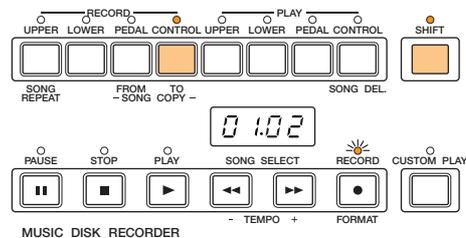
NOTE

ソングコピーができるのはエレクトーンのデータだけです。XGソングデータではできません。



NOTE

選択したソングナンバーにデータが入っていない場合は、MDRは自動的に次のデータが入っているソングナンバーを選び出して表示します。



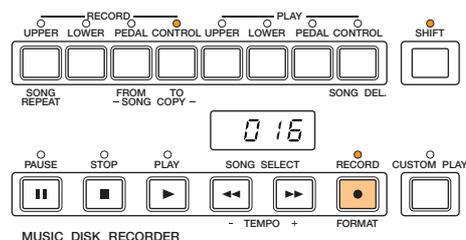
NOTE

空きメモリーが足りなくなった場合も、"FULL"と表示されます。



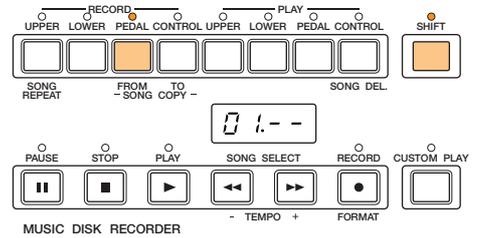
NOTE

コピーを中止したい場合は、STOPボタンを押します。



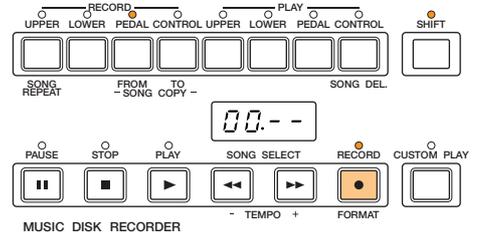
異なったディスク間でソングコピーをするには

- 1 コピー元のソングが入っているディスクをディスク挿入口に差し込みます。
- 2 SHIFTボタンを押しながら、SONG COPY:FROMボタンを押します。コピーするソングナンバーが、デジタルディスプレイの左側に表示されます。
- 3 コピーしたいソングナンバーを選択します。
- 4 RECORDボタンを押します。デジタルディスプレイは右のように"00.-"で点灯します。またRECORDボタンのLEDは点灯したままになります。
- 5 イジェクトボタンを押して、コピー元のディスクを抜きます。
- 6 コピー先のディスクをディスク挿入口に差し込みます。
- 7 SHIFTボタンを押しながら、SONG COPY:TOボタンを押します。デジタルディスプレイの右側に、コピー先のディスクのソングナンバーが表示されます。MDRは自動的にコピー先の未使用のソングナンバーを探し出し、表示します。
- 8 コピーしたいソングナンバーを選択します。
- 9 RECORDボタンを押します。デジタルディスプレイにはコピーするソングの(データ)サイズが数値で表示され、コピーが進むにつれて数値が減少します。最後に"0000"が表示されて、コピーが終了します。



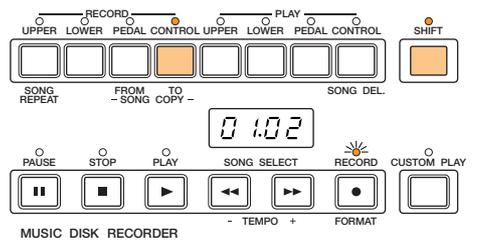
NOTE

この場合、LCDディスプレイのDATA CONTROLボタンを使ってソングナンバーを選択することもできます。



NOTE

このとき、RECORDボタンのランプは点灯したままです。通常、RECORDボタンのランプが点灯中はディスクを抜いたりしてはいけませんが、ここでは抜いても問題ありません。



NOTE

コピー元のソングと区別するために、コピーしたソングのネームの最後には*がつきます。

(7)ソングデリート

1つのソングナンバーに入っているデータをデリート(削除)する機能です。

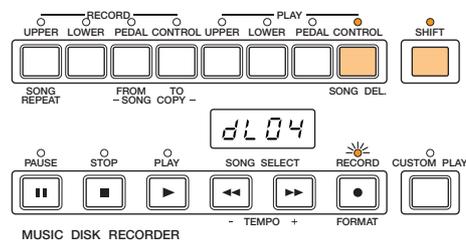
- 1 まずデリートしたいソングナンバーを選択します。
- 2 SHIFTボタンを押しながら、SONG DEL.(SONG DELETE : ソングデリート)ボタンを押します。
デジタルディスプレイのソングナンバー表示の左側に"d L"(DELETE:デリート)が表示され、RECORDボタンのランプが点滅を始め、デリートが待機状態になったことを表します。
もし、この時点でデリートしたいソングナンバーを変更したい場合は、SONG SELECTボタンを使って変更することができます。

- 3 RECORDボタンを押して、デリートを実行します。
RECORDボタンが点滅から点灯の状態になり、ソングデリートが実行されます。

(8)ディスクコピー

1つのディスクの内容を別のディスクにコピーすることができます。フロッピーディスクの万一の事故に備えて、大切なデータはバックアップとして予備のディスクに保存しておかれることをおすすめします。

- 1 コピー元のディスクと、コピー先にするフォーマット済みのディスクを用意します。
- 2 SHIFTを押しながら、RECORDパート側のLOWERを押します。
デジタルディスプレイに"ln 1"(Insert Disk 1 : インサートディスク1)が表示され、ディスクコピー機能が待機状態になったことを示します。



デリートを中止したい場合は、STOPボタンを押してください。



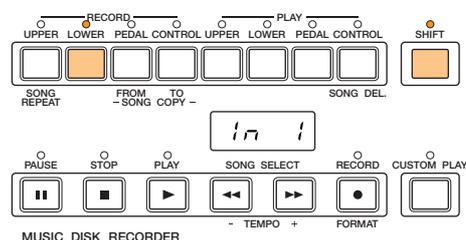
XGソングはデリートすることはできません。



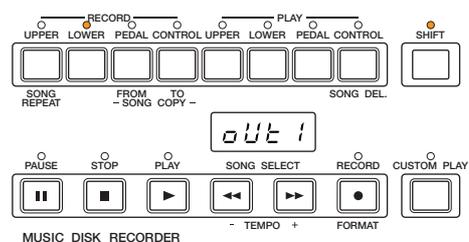
コピー元とコピー先のディスクは同じタイプのものであることが必要です。コピー元が2DDであれば、コピー先も2DDを用意してください。



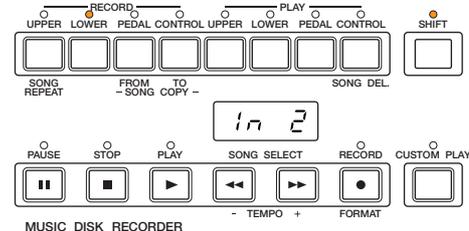
コピー元のディスクはライトプロテクト(74 ページ)をオンしておきます。ライトプロテクトをオフにしたままでコピー元のディスクを入れると、"Prot" が点滅し、プロテクトをオンにするよう促します。また、逆に、コピー先のディスクはライトプロテクトをオフしておきます。ライトプロテクトがオンになったままでコピー先のディスクをMDRに挿入すると、デジタルディスプレイに"Prot"(Protect : プロテクト)が表示されます。コピープロテクトのかかったディスクには、コピーできません。



- 3 コピー元のディスクを挿入します。
MDRがコピー元ディスクの読み取りを行いません。
"out 1"(アウトディスク1)が表示されます。

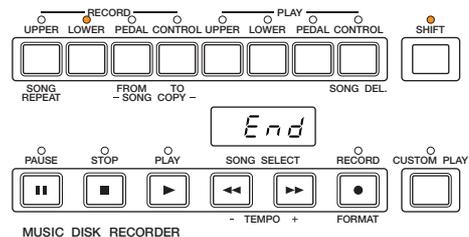
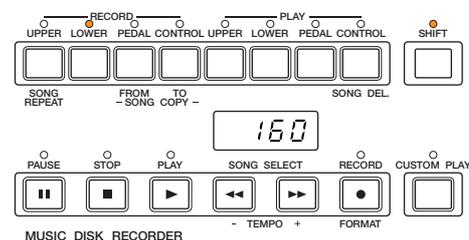


- 4 イジェクトボタンを押してコピー元ディスクを取り出します。
デジタルディスプレイに"ln 2"(Insert Disk 2 : インサートディスク2)が表示され、コピー先ディスクを挿入するように促します。



- 5 コピー先ディスクを挿入します。
数字の160がデジタルディスプレイに表示され、コピーの進行に伴って数字が減少していきます。

コピーが終了すると、デジタルディスプレイに"End"が2~3秒表示されます。



NOTE

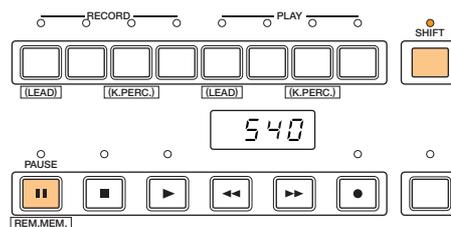
ディスクのコピー中にエラーが発生すると、デジタルディスプレイに"Fort"または"bAd"が表示されます。コピー先のディスクをフォーマットし直して、もう一度ディスクコピーを実行してください。



ディスクコピーの途中に、MDRの指示以外にディスクを抜き差ししないでください。
ディスクがこわれるだけでなく、MDRが故障する原因になります。

(9) メモリー残量の確認

SHIFTボタンを押しながら、PAUSEボタンを押すと、フロッピーディスクのメモリー残量の確認をすることができます。
デジタルディスプレイ上にメモリーの残量が数字で表示されます。
メモリー容量は、2DDディスクで約700、2HDディスクで約1400です。



(10) ボイスディスク/リズムパターンディスク

MDRでは、別売のボイスディスクやリズムパターンディスクを使って音色やリズムを拡張することができます。

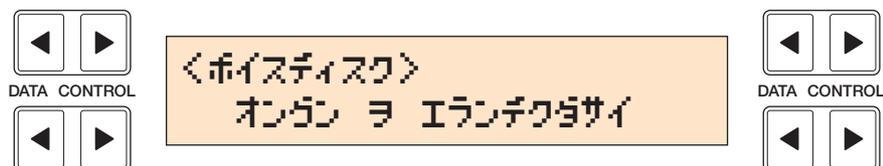
ボイスディスクの音色を読み込むには

- 1 ミュージックディスクレコーダー(MDR)に、ボイスディスクを挿入します。
LCDディスプレイ上に、以下のようなメッセージが表示されます。



NOTE

EL-500用のボイスディスクも使用できます。



- 2 パネル上のいずれかの音群の音色ボタンを押します。音色選択ディスプレイが表示されます。



NOTE

どの鍵盤の音色を選択しても構いませんが、その鍵盤のほかの音群のボリュームは0にしておいてください。音色チェックの邪魔になります。

- 3 DATA CONTROLボタンを使って、読み込みたい音色を選択します。

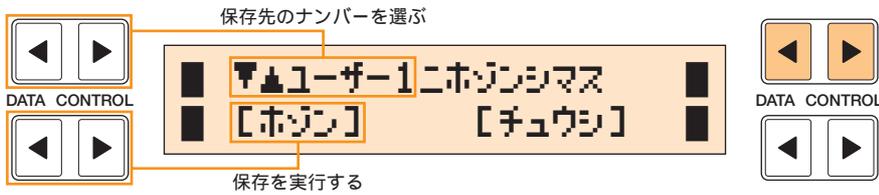


NOTE

各音色については、ボイスディスクに付属の音色リストをご参照ください。

- 4 鍵盤を弾きながら、選択した音色のチェックをしましょう。

- 5 ユーザーボイスに保存したい音色が決まったら、[ホゾン]を選択します。
次の画面が表示されます。



- 6 左上のDATA CONTROLボタンを使って、保存先のユーザーボイスナンバーを選びます。

- 7 [ホゾン]を選択します。
保存が実行され、選んだ音色が保存先のユーザーボイスナンバーに読み込まれます。音色選択ディスプレイに戻ります。



NOTE

[チュウシ]を選択すると作業を中止し、元の画面に戻ります。



NOTE

保存したユーザーボイスを選択する方法については23ページをご参照ください。

パターンディスクのパターンを読み込むには

- 1 ミュージックディスクレコーダー(MDR)に、パターンディスクを挿入します。
LCDディスプレイ上に、パターンディスクのパターンナンバーと名称が表示されます。

- 2 DATA CONTROLボタンを使って、読み込みたい音色を選択します。

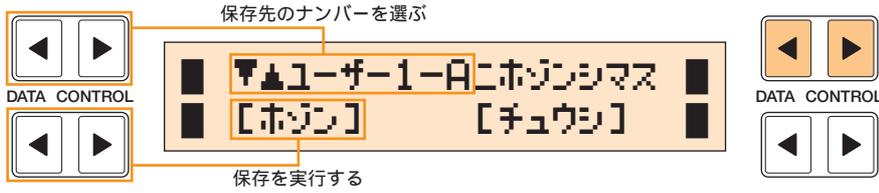


NOTE

各パターンについては、パターンディスクに付属のパターンリストをご参照ください。

- 3 リズムをスタートさせて、読み込むパターンをチェックします。

- 4 読み込みたいパターンが決まったら、[ホゾン]を選択します。
次の画面が表示されます。



- 5 左上のDATA CONTROLボタンを使って、保存先のユーザーナンバーを選びます。

- 6 [ホゾン]を選択します。
保存が実行され、選んだパターンが保存先のユーザーナンバーに読み込まれます。最初の画面(パターン選択)に戻ります。



NOTE

[チュウシ]を選択すると作業を中止し、元の画面に戻ります。



NOTE

保存したユーザーパターンを選択する方法については49ページをご参照ください。

(11)コピープロテクト

市販のエレクトーン用ディスクには、著作権保護や誤消去防止のために、コピープロテクトがかかっているものがあります。ほかのディスクに、このディスクのデータをセーブすることはできません。
コピープロテクトされたディスクをMDRに挿入すると、デジタルディスプレイに"PrXX"という表示が現れます。
XXはソングナンバー(01～40)です。

デジタルディスプレイ上のその他のメッセージ

LED 画面	メッセージの意味
<i>ins</i>	ディスクが挿入されていないので、ディスクを挿入してください。
<i>Prot</i>	(1)挿入したディスクのライトプロテクトタブが、オンの状態になっています。ライトプロテクトタブを、オフにしてください。 (2)コピープロテクトされた再生専用ディスクである場合に、録音やコピーやデリートを実行しようとする则表示されます。作業を中止してください。 (3)ディスクコピーの場合、コピー元のディスクのプロテクトをオンにしてください。
<i>Formt</i>	ディスクがフォーマットされていないので、フォーマットしてください。
<i>FULL</i>	(1)メモリー残量が無いので、録音やコピーができません。別のディスクを使用するか、不要なソングデータを削除してください。 (2)すべてのソングナンバーに、データが入っています。(1)と同様に対処してください。
<i>EPty</i>	すべてのソングナンバーにデータが入っていないので、ソングコピーができません。STOP ボタンを押して、操作を中止してください。
<i>out</i>	録音 / 再生中にフロッピーディスクを取り出したため、エラーが発生しました。STOP ボタンを押して操作を中断し、ディスクを入れなおしたあと、最初から操作をやりなおしてください。
<i>disc</i>	異なったディスクが挿入されました。正しいディスクを入れなおしてください。
<i>lots</i>	一度に余りに多くのデータを受けたため、録音できませんでした。STOP ボタンを押してから、もう一度録音してください。
<i>bad</i>	ディスク不良のため、使用できません。別のディスクをご使用ください。
<i>Error</i>	データの受信 / 通信中にエラーが発生しました。STOP ボタンを押してもう一度始めから操作してください。
<i>--XX</i>	既にデータが録音されているソングナンバーに録音しようとしています。STOP ボタンを押して録音を中止して、他のソングナンバーを選びなおしてください。 XX はソングナンバー(01 ~ 40)です。
<i>PrXX</i>	コピープロテクトされたディスクを MDR に挿入すると、表示されます。保存したり、書き込んだりすることはできません。 XX はソングナンバー(01 ~ 40)です。
<i>oooo</i>	ボイスディスク、パターンディスク、レジストレーションメニューディスクの場合、互換性の無いディスクが挿入されたことを表します。正しいディスクを入れなおしてください。
<i>_XX*</i>	XG ソングファイルのとき、ソングナンバーの前にアンダーバーが表示されます。 *XX はソングナンバー(01 ~ 40)です。
<i>2hd</i> (または <i>2dd</i>)	ディスクコピーのとき、異なったタイプのディスクを入れる则表示されます。コピー元とコピー先のディスクは同じタイプをご使用ください。

フットスイッチ/ニーレバー/ エクスプレッションペダル

FOOTSWITCH, KNEE LEVER AND EXPRESSION PEDAL

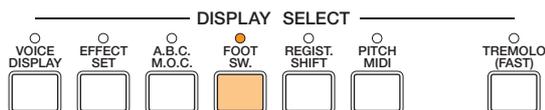
フットスイッチやニーレバー、エクスプレッションペダルを使用すると、演奏中に演奏を妨げずに、いろいろなエフェクトや機能をオン/オフすることができます。

1 フットスイッチ

EL-400には、エクスプレッションペダルの左右にひとつずつフットスイッチがあります。右フットスイッチは、レジストレーションシフトをコントロールすることができます。(右フットスイッチの設定については、レジストレーションシフト=68ページをご参照ください。)

左フットスイッチは、グライド、トレモロ、そしてリズムのコントロールに使用します。左フットスイッチの設定は、LCDディスプレイのフットスイッチ画面で行ないます。

DISPLAY SELECT(ディスプレイセレクト)セクションのFOOT SW.(FOOT SWITCH: フットスイッチ)ボタンを押します。



LCDディスプレイに以下の画面が表示されます。

フットスイッチ画面

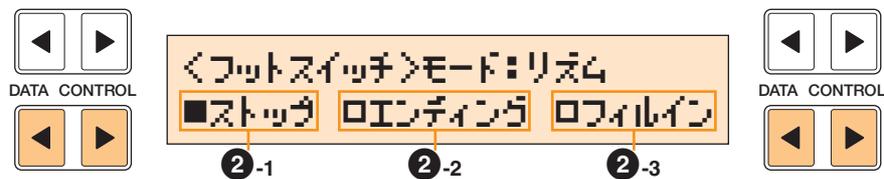


① オフ

オフに設定すると左フットスイッチを押しても、何も効果がかかりません。

② リズム

左フットスイッチにリズムのコントロールをアサインします。リズムを選択すると、LCDディスプレイの下段にリズムコントロールの種類が表示されます。



②-1 ストップ

パネルのスタートボタンを押さずに、フットスイッチでリズム(シーケンス)をスタート/ストップさせることができます。

②-2 エンディング

この機能を選択し、演奏中にフットスイッチを押すと、エンディングが入り、リズムがストップします。

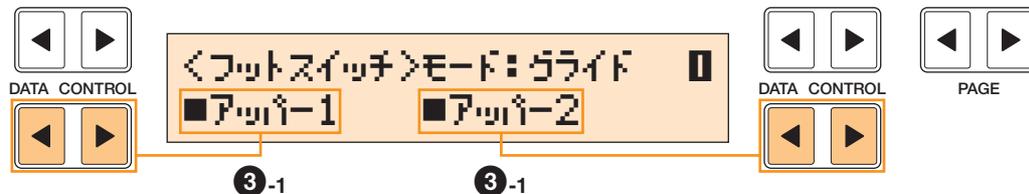
②-3 フィルイン

この機能を選択すると、演奏中に、フットスイッチでリズムにフィルインをかけることができます。

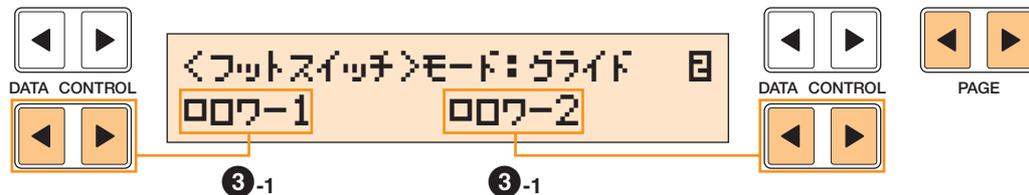
③ グライド

左フットスイッチでグライド効果をコントロールします。フットスイッチを押すと、上鍵盤/下鍵盤の音群ごとに音色のピッチを半音下げます。フットスイッチから足を離すと、ゆるやかに元の音程に戻ります。グライドを選択すると、LCDディスプレイの下段にグライドをアサインする音群の種類が表示されます。また、右上にページ番号が表示されます。グライドの画面は3ページで構成されています。

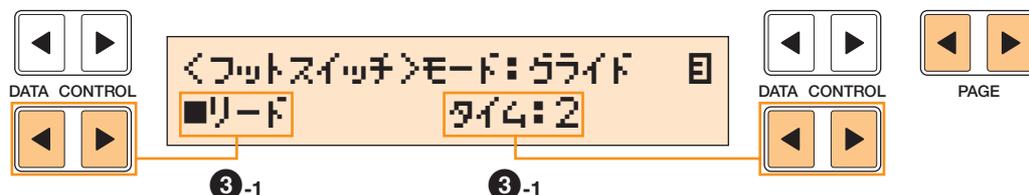
フットスイッチ画面(グライド1ページ目)



フットスイッチ画面(グライド2ページ目)



フットスイッチ画面(グライド3ページ目)



③-1 アッパー1/2、ロワー1/2、リード

グライドをかけたい音群を選択します。

③-2 タイム

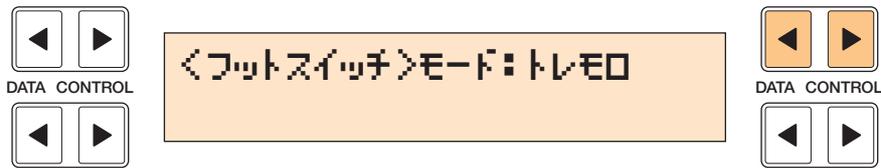
グライドをかけた時、音程が戻る速さを設定します。高い設定にするほど、音程の戻りは遅くなります。



グライドをかけている間は、ピブラートはかかりません。

④ トレモロ

左フットスイッチで、トレモロ/コーラスの切り替えをコントロールします。このコントロール機能は、パネル上のDISPLAY SELECTセクションのTREMOLO(FAST)ボタンと同じ働きをします。(この機能を使うためには、あらかじめ、それぞれの音群で、トレモロが正しく設定されていることが必要です。詳しくは、41ページをご参照ください。)

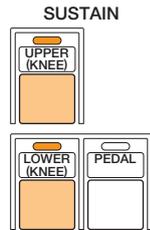


2 ニーレバー

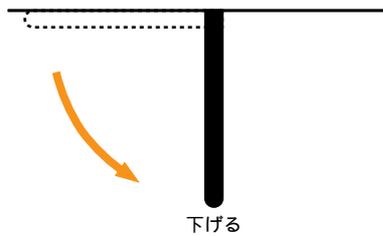
鍵盤下にあるニーレバーは、上鍵盤と下鍵盤のサステイン、メロディオンコード、リードスライド効果のオン/オフをコントロールします。

(1) サステイン/ニーレバーコントロール

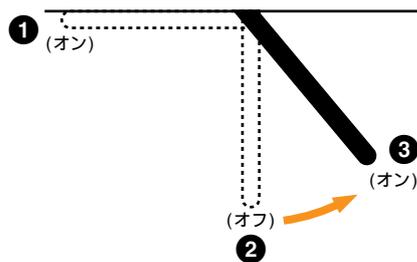
- 1 パネル左端の上鍵盤または下鍵盤のサステインボタンをオンにします。



- 2 レバーを垂直に下げます。



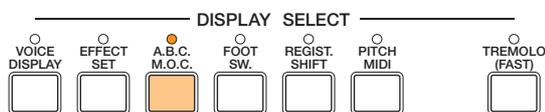
- 3 演奏中にサステインをきかせたいところで、右足でニーレバーを右に押し
ます。
押している間だけ、サステインがかかります。



- ① ニーレバーがたたんである場合：
パネルのサステインボタンがオンになっていると、サステインがかかります。
- ② ニーレバーが垂直の場合：
パネルのサステインボタンがオンになっていても、サステインはかかりません。
- ③ ニーレバーが右に押されている場合：
パネルのサステインボタンがオンになっていると、サステインがかかります。

(2) メロディオンコード/ニーレバーコントロール

- 1 DISPLAY SELECTセクションのA.B.C./M.O.C.ボタンを押します。
A.B.C.画面が表示されます。続けて、PAGEボタンで2ページ目を表示させます。



- 2 メロディオンコードのモードを選択し、KNEE(ニー)のオンを選択します。



- 3 演奏中にメロディオンコードをきかせたいところで、右足でニーレバーを右に押します。
押している間だけ、メロディオンコードがかかります。



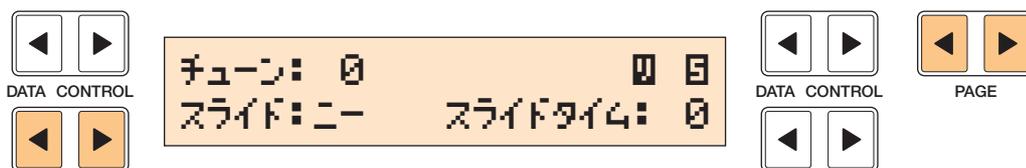
NOTE

この画面でKNEEがONになっていると、ニーレバーを押さない限りメロディオンコードはかかりません。ご注意ください。

(3) リードスライド/ニーレバーコントロール

- 1 LCDディスプレイ上に、リードボイスコンディション画面の1ページを表示させます。

- 2 PAGEボタンで5ページ目を選択します。



- 3 スライドタイムを設定した上で、ニーを選択します。

- 4 演奏中にスライドをきかせたいところで、右足でニーレバーを右に押します。
押している間だけ、リード音色にスライドがかかります。



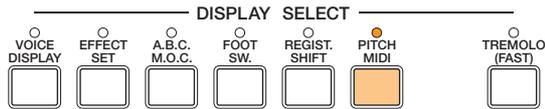
NOTE

このページでスライドがニーになっていると、ニーレバーを押さない限りスライドはかかりません。ご注意ください。

3 エクスプレッションペダル

エクスプレッションペダルは、演奏中に音の強弱をコントロールするために使いますが(11ページ)、機能のさせかたを選ぶことができます。

- 1 DISPLAY SELECTセクションのPITCH/MIDIボタンを押します。
LCDディスプレイには、最初のページであるトランスポーズ/ピッチ画面が表示されます。

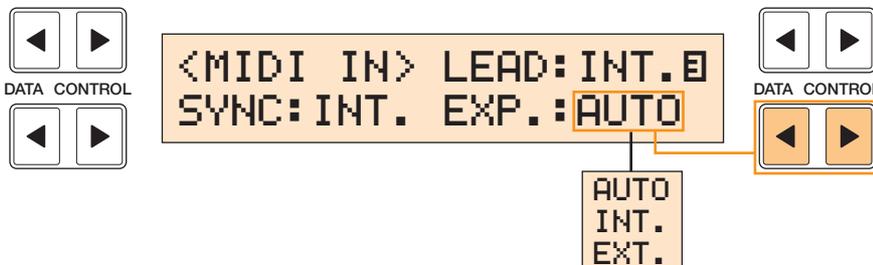


- 2 ディスプレイ右横のPAGEボタンを使って、3ページ目を選択します。
LCDディスプレイ上にはMIDI IN画面が表示されます。



EXP.(エクスプレッション)

エクスプレッションペダル機能をコントロールします。



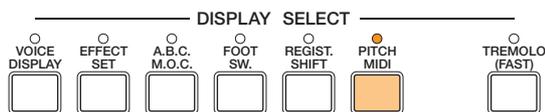
通常はAUTO(オート)の設定です。

INT.を選択すると、MDRの再生中やMIDIの再生中に、エクスプレッションペダルを使って音量を調整することができます。

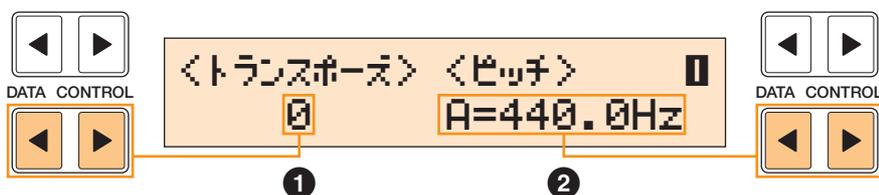
EXT.を選択すると、ほかのエレクトーンのエクスプレッションペダルで音量をコントロールすることができます。

トランスポーズを使って移調したり、ピッチコントロールを使って音程を細かく調整したりすることができます。

- 1 DISPLAY SELECT(ディスプレイセレクト)セクションのPITCH/MIDIボタンを押します。LCDディスプレイには、最初のページであるトランスポーズ/ピッチ画面が表示されます。



トランスポーズ/ピッチ画面



① トランスポーズ

1オクターブの範囲で、半音ずつ移調することができます。

設定範囲：-6 ~ +6

② ピッチ

ピッチを微調整できます。変化幅は、半音の約4分の1程度です。

設定範囲：438.8Hz ~ 444.5Hz



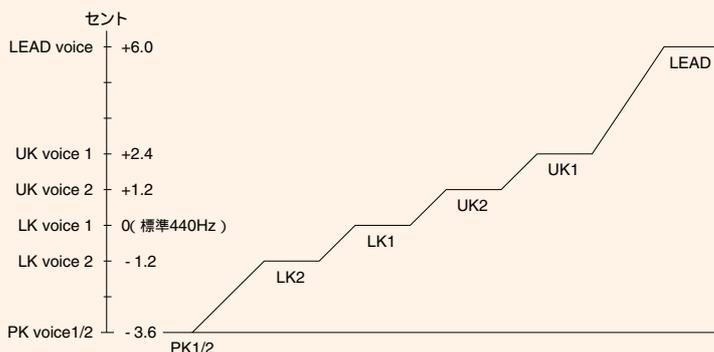
ピッチの初期設定の440.0Hzは、A3の音の周波数です。



ピッチ情報は、MDRで記録することはできません。

ピッチについて

各ボイスは平均律で調整されています。



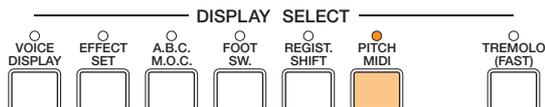
他の楽器とピッチを合わせる場合は、下鍵盤のクラリネットなどを使用します。

MIDIコントロール機能を使って、外部機器をコントロールしたり、または、外部機器でエレクトーンをコントロールしたりすることができます。

あらかじめ、MIDIケーブルでEL-400と外部MIDI機器を接続します。接続については、108ページをご参照ください。

MIDI機能を使用するには

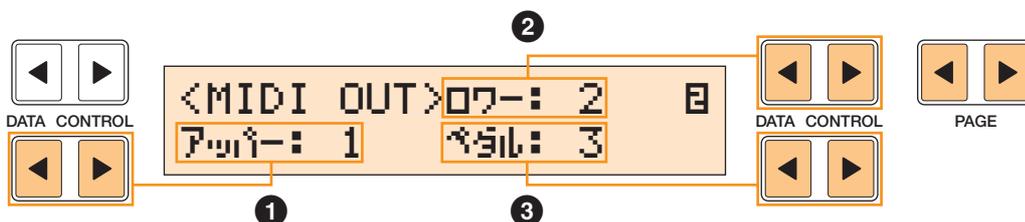
- 1 DISPLAY SELECT(ディスプレイセレクト)セクションのEXP.PITCH/MIDIボタンを押します。



LCDディスプレイには、最初のページであるトランスポーズ/ピッチ画面が表示されます。2ページ目と3ページ目がMIDIに関するページです。

- 2 PAGEボタンを使って、2ページ目のMIDI OUT画面や3ページ目のMIDI IN画面を選択します。

MIDI OUT画面



MIDIの送信チャンネルを変えることができます。アッパー(上鍵盤)、ロー(下鍵盤)、ペダル鍵盤ごとにそれぞれチャンネル1～16のいずれかのチャンネルを設定することができます。ここで設定したチャンネルで各鍵盤の演奏情報を送信することができます。

① アッパー

上鍵盤の送信チャンネルをチャンネル1～16の中から設定します。

② ロー

下鍵盤の送信チャンネルをチャンネル1～16の中から設定します。

③ ペダル

ペダル鍵盤の送信チャンネルをチャンネル1～16の中から設定します。

外部MIDI機器の受信チャンネルは、各鍵盤に設定したチャンネルに合わせてください。

受信の場合

ほかのMIDI機器を演奏してエレクトーンを鳴らすときは、接続するMIDI機器の送信チャンネルをエレクトーンを受信チャンネルに合わせてください。

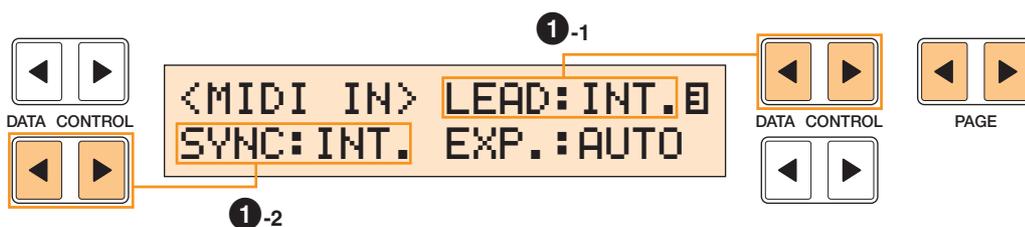
エレクトーンを受信チャンネルは、以下のチャンネルに固定されています：

アップー(上鍵盤) = 1

ロワー(下鍵盤) = 2

ペダル鍵盤 = 3

MIDI IN画面



1 インターナル/エクスターナル切り替え

表示された各項目のコントロールをエレクトーン(INT.)で行なうか、外部機器(EXT.)で行なうかの切り替えです。

1-1 LEAD(リード)

通常はINT.(インターナル)の設定で、上鍵盤の情報としてエレクトーンで発音されますが(トゥーロワーの場合は下鍵盤の情報として)、EXT.(エクスターナル)を選択すると、LEAD(リード)ボイスはMIDIチャンネル4の外部MIDI機器の演奏情報を受けて発音します。

1-2 SYNC.(シンクロ)

リズムを同期させるためのタイミング決定を、どの機器で行なうかを設定します。通常はINT.の設定で、エレクトーン内部のタイミング信号が外部機器のリズムをコントロールします。エレクトーンのリズムスタートボタンで、外部の接続機器をスタートさせることができます。

EXT.を選択すると、接続した外部機器からのタイミング信号でEL-400のリズムがコントロールされます。

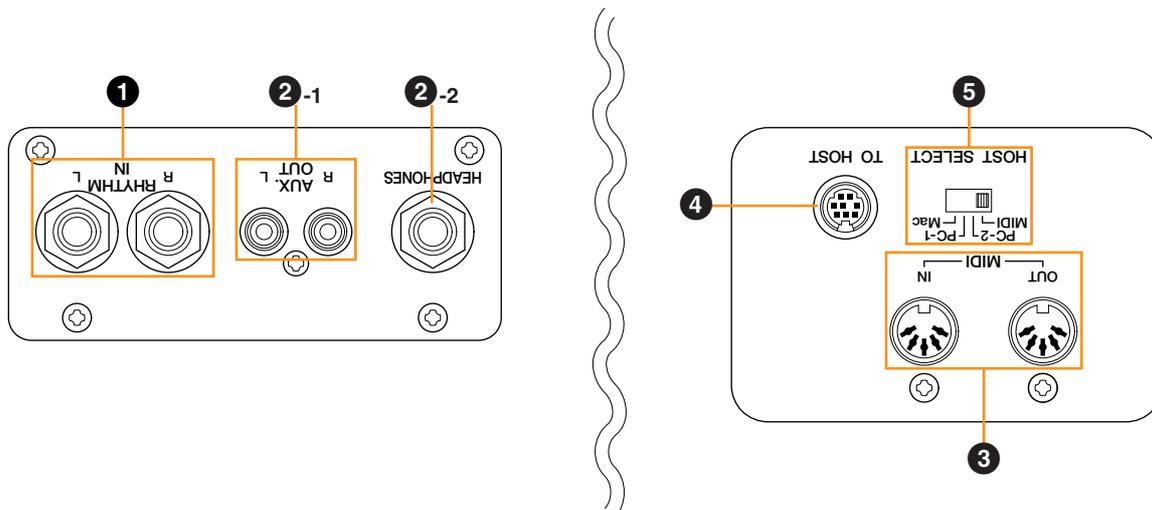


アカンパニメントパターンをMIDIでコントロールすることはできません。



LCDディスプレイの右下にあるEXP.(エクスプレッション)については、103ページをご参照ください。

EL-400にはいろいろな入/出力端子があります。鍵盤の下側の左側には入/出力端子が、右側にはMIDI端子があります。



① 入力端子

RHYTHM IN(リズム入力端子：フォーン L/R)

外部リズムマシンの信号をステレオ入力する端子です。エレクトーンの音と一緒にエレクトーンのスピーカーから出力され、エクスプレッションペダルでコントロールすることができます。

② 出力端子

②-1 AUX. OUT(ライン出力端子：RCAピン L/R)

エレクトーンの音声信号をステレオなどにステレオ出力する端子です。

②-2 HEADPHONES(ヘッドフォン端子)

ヘッドフォン専用の接続端子です。

③ MIDI端子

他のMIDI(Musical Instrument Digital Interface)規格の機器とデータのやり取りをしたり、EL-400でその機器をコントロールする場合に使用します。専用のMIDIケーブルが必要です(109ページ)。

④ TO HOST(トゥーホスト)端子

コンピューターのシリアルポートと、直接、MIDI接続することができます。

⑤ HOST SELECT(ホストセレクト)

MIDIケーブルを使用してコンピューターと接続する場合は、MIDIを選び、TO HOST端子を使ってコンピューターと接続する場合は、コンピューターの種類に合わせてPC-2、PC-1、Macのいずれかを選びます。(108ページ)



NOTE

TO HOST端子を使ったコンピューターとの接続については、次ページをご参照ください。

MIDIについて

EL-400の鍵盤の右下には、MIDK (ミディ) 端子やTO HOST(トゥーホスト)端子が付いています。

MIDK (ミディ)とはMusical Instrument Digital Interfaceの略で、電子楽器同士をつないで音楽情報や演奏データの交換をするための世界共通の規格です。たとえばEL-400をXG音源として使用したり、EL-400の上鍵盤で演奏したメロディを別のシンセサイザーで発音させたり、EL-400のリズムをスタートさせて、リズムマシンやコンピューターを同じテンポで演奏したりすることもできます。

MIDK (ミディ)機能を使用するためには、データのやり取りをするためのMIDI機器と接続するためのMIDIケーブルが必要です。MIDI端子の代わりに、TO HOST端子を使ってコンピューターと接続する場合は、シリアルケーブルが必要です。

また、MIDI機器間でデータのやり取りを行なうためには、両方のMIDI機器の送信/受信チャンネルを合わせる必要があります。ただし、EL-400の受信チャンネルはほぼ固定になっています。したがって、外部MIDI機器でEL-400をMIDIコントロールする場合は、外部MIDI機器のチャンネルをEL-400に合わせることになります。なお、EL-400の送信チャンネルは、鍵盤ごとにチャンネル1～16の中から設定することができます。MIDIチャンネルの設定については105ページをご参照ください。



NOTE

MIDIメッセージについては、110ページをご参照ください。

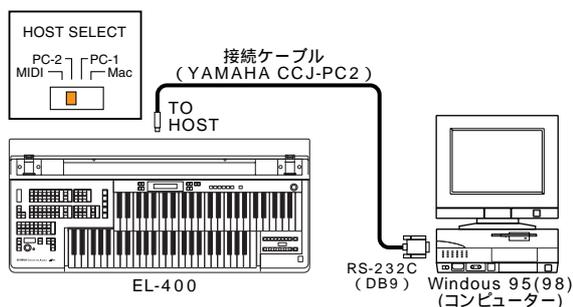
MIDIの接続

TO HOST端子を使った接続例

EL-400のTO HOST端子とコンピューターのシリアルポートを、シリアルケーブルを使って図のように接続します。また、お使いのコンピューターの種類に合わせて、HOST SELECTを切り替えます。

この接続で、MIDI IN/OUT端子を使用しなくてもEL-400とコンピューター間で直接MIDI信号を送受信することができます。

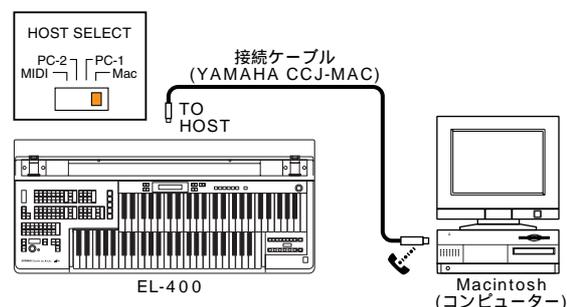
Windows 95/98をご使用の場合



NOTE

TO HOST端子を使用する場合は、MIDI端子は使用できません。

Macintoshをご使用の場合



NOTE

DOS/Vシリーズを使って、この接続で実際にMIDI信号をやり取りするためには、お使いのコンピューターに合ったMIDIドライバーが必要になります。MIDIドライバーについては、巻末のエレクトーンインフォメーションへお問い合わせください。(なお、MIDIドライバーは、インターネットのヤマハXGホームページ<<http://www.yamaha.co.jp/xg/>>でダウンロードして、直接入手することもできます。)



NOTE

PC-9801、PC-9821シリーズなどでWindows 3.1以前のバージョンをご使用の場合は、HOST SELECTをPC-1にセットしてご利用ください。

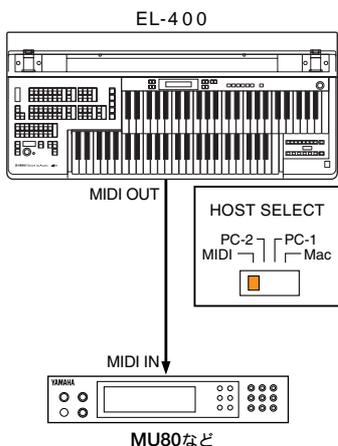


NOTE

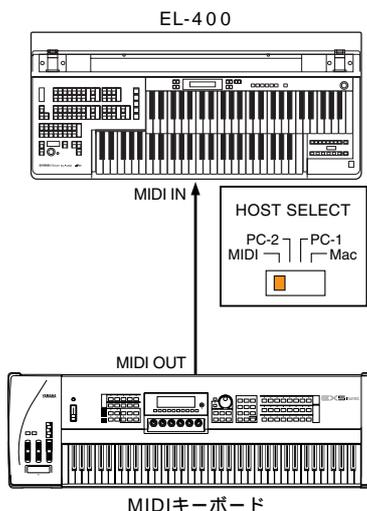
USB端子のみのコンピューターとの接続はUSBインターフェースが必要になります。

MIDI端子を使った接続例

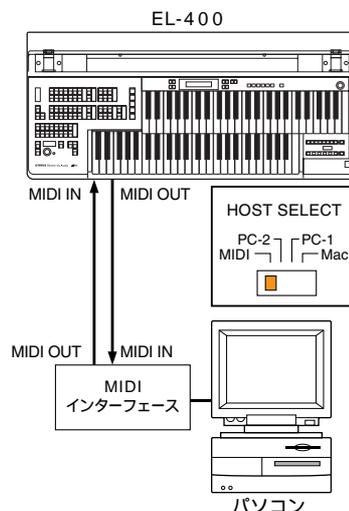
EL-400側から外部MIDI機器をコントロール



外部MIDI機器側からEL-400をコントロール



EL-400とコンピューター間でMIDIをやりとり



1 EL-400側から外部MIDI機器をコントロールする

MIDIキーボードまたはMIDI音源を接続した場合

EL-400を演奏すると、接続先の機器もその機器の音色で同時に鳴らすことができます。音に厚みを出すときなど便利です。(ただし、外部MIDI機器の受信チャンネルがEL-400の送信チャンネルと一致している必要があります。)

この他にもいろいろな演奏の動作や状態を「メッセージ」と呼ばれるデジタルデータ(数値に置き換えたデータ)として送信することができます。接続先がメッセージを受けてどう対応するかは、接続先のMIDI機能によって決まります。

EL-400の演奏をコンピューター(シーケンサー)に記録することができます。(お使いのコンピューターにあったシーケンスソフトが必要になります。)

2 外部MIDI機器側からEL-400をコントロールする

MIDIキーボードに接続した場合

外部のMIDIキーボードで演奏すると、EL-400もEL-400の音色で同時に鳴らすことができます。(ただし、外部MIDI機器の送信チャンネルがEL-400の受信チャンネルと一致している必要があります。1チャンネルの場合は上鍵盤が、2チャンネルの場合は下鍵盤が、3チャンネルの場合はペダル鍵盤が指定した音域で演奏されます。)

外部MIDIキーボードの演奏により、EL-400をキーボードパーカッションの音で鳴らすことができます。(ただし、外部MIDI機器の送信チャンネルが15チャンネルである必要があります。)

コンピューター(シーケンサー)で再生したMIDIデータをEL-400の音色で鳴らすことができます。EL-400は、XG音源として使用することができますから、コンピューターを使った音楽制作にも便利です。XG音源として使用する方法については、113ページをご参照ください。



(内蔵の)MDRを同時に使用することはできません。

EL-400のMIDI機能

MIDIのメッセージはチャンネルメッセージとシステムメッセージの2つに大別することができます。チャンネルメッセージは、おもに鍵盤で弾いたノート(音符)や演奏表現(エクスプレッションペダルやボリュームなど)に関するデータで、特定のMIDIチャンネルごとにそれらの情報を送受信することができます。また、システムメッセージは、複数の楽器をリンクさせて1つのMIDIシステムとして機能させるために使われるデータです。ここでは、EL-400でも扱うことができるいくつかのMIDI情報をご紹介します。

チャンネルメッセージ

キー情報

演奏に関わる最も重要な情報で、EL-400の鍵盤を弾いたときにこれらのメッセージが送信されます。また、他のキーボードやシーケンサーなどからこれらの情報を送信してEL-400を演奏させることができます。

ノートオン： このキーを押した、ということを示す情報です。弾いた音の高さを表すために半音ごとに割り当てられた0～127のノートナンバーが内部的には用いられています。演奏時にノートナンバーを意識する必要はありませんが、EL-400のC3の鍵盤を弾いたときにノートナンバー60が送信されるようになっています。

ベロシティ： 鍵盤を弾いたときのタッチの強弱を示す情報です。

ノートオフ： 鍵盤を離れた、ということを示す情報です。

EL-400のキー情報や上鍵盤、下鍵盤に対応するノートナンバーについてはMIDIインプリメンテーションチャート(124ページ)やMIDIデータフォーマット(114ページ)をご参照ください。

プログラムチェンジ

音色を切り替えるための情報です。コンピューターやシーケンサーなどからこれらのメッセージを送信して、EL-400のレジストレーションを切り替えることができます。

コントロールチェンジ

エクスプレッションペダルなどの操作を屯えたり、エフェクトやボリュームなど、演奏表現を高めるために使われる情報です。各機能はコントロールナンバーによって区別され、それぞれのコントロール値を一般的に0～127の可変範囲で送信することができます。



EL-400のレジストレーションとプログラムチェンジナンバーの対応についてはMIDIインプリメンテーションチャート(124ページ)やMIDIデータフォーマット(114ページ)をご参照ください。



EL-400で扱えるコントロールチェンジについてはMIDIインプリメンテーションチャート(124ページ)やMIDIデータフォーマット(114ページ)をご参照ください。

システムメッセージ

システムエクスクルーシブメッセージ

エクスクルーシブメッセージとは、おもに機器固有のシステムや音色関係のデータをやり取りするために使われる情報です。EL-400では、エクスクルーシブメッセージを使って、レジストレーションデータをバルクダンプ(まとめて送受信)することにより、それらのデータをパソコンを使って管理することができます。いろいろなソング用に作ったレジストレーションデータを複数のファイルとして、ハードディスクなどの大容量のメディア上に保存しておき、必要に応じてパソコンからEL-400上に送信することができます。

レジストレーションデータの送受信例

それでは、以下の例を使ってレジストレーションデータを実際に送受信してみましょう。

この例では、まずシステムエクスクルーシブメッセージを使って、EL-400のレジストレーションデータを一度にすべてパソコン(シーケンサー)に送信する操作を行ないます。

シリアルケーブル(またはMIDI専用ケーブル)を使って、パソコン(シーケンサー)とEL-400をMIDI接続します。(108ページをご参照ください。)



お使いのパソコンに対応したMIDIインターフェース、エクスクルーシブメッセージの送受信に対応しているシーケンスソフトが必要となります。

レジストレーションデータをEL-400からパソコンへ送信する

前準備(レジストレーションの登録)

- 1 はじめにEL-400本体で、上鍵盤を弾いたときにSTRINGS(ストリングス)の音が出るようにセットしておきます。
UPPER KEYBOARD VOICE 1の[STRINGS]ボタンを押したあと、LCDディスプレイに表示されたストリングス1を選択してください。
- 2 この状態をレジストレーションボタン1に登録します。
M./TO DISK(メモリー)ボタンを押しながらナンバーボタンの1を押します。
その他のレジストレーションボタンの内容は、この例では意識する必要はありません。好きなパネル状態を登録してください。

レジストレーションデータの送信

- 3 パソコン(シーケンサー)からシステムエクスクルーシブメッセージを使って、全RAM送信要求データ"F0,43,70,70,10,F7"(16進)を送信します。
EL-400が全RAM送信要求データを受信すると、すべてのレジストレーションボタンに登録されているデータを自動的にパソコン側に送信します。
パソコンで受信したレジストレーションデータを1つのファイルとして保存します。パソコンを使って自由に管理することができます。



シーケンサーの容量によっては、レジストレーションを分けて送信する必要があります。分けて送信する場合(117ページ)送信要求コードをご参照ください。
たとえば
F0,43,70,70,10,F7
を
F0,43,70,70,17,F7
に変えると、キーボードパーカッションアサインのデータを送信します。

レジストレーションデータをパソコンからEL-400へ送信し、 レジストレーションボタンを切り替える

先ほどの操作で保存したファイルをパソコンからEL-400に送信する操作を行いません。また、レジストレーションボタンを選択し、上鍵盤の音をリモートコントロールで鳴らしてみます。

レジストレーションデータの受信

1 パソコン(シーケンサー)からシステムエクスクルーシブメッセージを使って、全RAM受信要求データ"F0,43,70,70,20,F7"(16進)を送信し、続いて先ほどファイルとして保存したレジストレーションデータを送信します。

EL-400は全RAM受信要求データを受信したあと、エクスクルーシブメッセージが受信できる状態になります。その後、送られてくるすべてのレジストレーションデータを受信し、各レジストレーションボタンにセットします。この操作で、パソコンで管理しているレジストレーションデータをEL-400に戻すことができます。

レジストレーションボタンの選択

パソコンからプログラムチェンジを送信することにより、EL-400のレジストレーションボタンを切り替えることができます。

2 パソコンからプログラムチェンジ"CF,00"(16進)をEL-400に送信します。
EL-400はプログラムチェンジを受信し、自動的にレジストレーションボタンの[1] が選択されたときと同じパネル状態になります。

ノートオンの送信

3 パソコンからノートオン"90,30,7F"(16進)をEL-400に送信します。
EL-400はノートオンを受信し、上鍵盤C2の音程を鳴らします。前準備(レジストレーションの登録)でセットしておいた、ストリングスのボイスで発音します。
続いてノートオフ"90,30,00"(16進)をEL-400に送信します。

レジストレーションデータの記録/再生はMDRを利用した方がより簡単にできますが、パソコンによる管理を行なう場合、ハードディスクを使用することによって、複数のフロッピーディスクのレジストレーションデータをまとめて保存しておくことができるメリットがあります。

EL-400をXG音源として使用する

EL-400はXG規格に対応していますので、コンピューターミュージック用の音源として活用することができます。外部シーケンサーを使ってオリジナルのXGデータを作成したり、XGデータを再生したりすることができます。

EL-400の音源部は、電源を入れたときには、いつもELモードと呼ばれるエレクトーン演奏用の状態にセットされています。

パソコン(シーケンサー)からレジストレーションデータをEL-400に送信するときと同じ要領で、システムエクスクルーシブメッセージをEL-400に送信し、音源部をXGモードと呼ばれる状態にセットすれば、XG音源としての利用が可能となります。

1 パソコン(シーケンサー)からシステムエクスクルーシブメッセージを使って、XGシステムオン"F0, 43, 1N, 4C, 00, 00, 7E, 00, F7"(16進数)を送信します。

*N=デバイスナンバー(EL-400では"0")

EL-400がXGシステムオンを受信すると、音源がXGモードにセットされ、NRPN、バンクセレクトなど、XGに定義されたすべてのMIDIメッセージを受信することができる状態になります。



EL-400のMDRを使って市販のXG曲集を再生したり、EL-400で録音した曲をXGデータに変換することもできます。XG曲集の再生や変換については87ページをご参照ください。



パソコン(シーケンサー)を使ってXGデータを作成する場合は、XGシステムオンのメッセージを曲データの最初に書き込んでおくとう便利です。つくったデータをパソコン(シーケンサー)でスタートさせるだけで、自動的にEL-400をXGモードに切り替えることができます。



市販のXG曲集の場合、曲頭にXGシステムオンのメッセージが書き込まれていますので、単にXGデータを再生するだけで、EL-400は自動的にXGモードに切り替わります。

MIDIデータフォーマット

1. チャンネルメッセージ

1.1 E Lモード

コード	ファンクション	送信	受信	備考
8n,nn,00-7F	ノートオフ	x x x x x x	1ch 2ch 3ch (4ch)* 5-14ch 15ch	上鍵盤 下鍵盤 ペダル鍵盤 リード XG キーボードパーカッション
9n,nn,00 9n,nn,01-7F	ノートオフ ノートオン	(1ch)* (2ch)* (3ch)* x x x	1ch 2ch 3ch (4ch)* 5-14ch 15ch	上鍵盤 下鍵盤 ペダル鍵盤(ノートオンの送信ベロシティ=50H) リード XG キーボードパーカッション
Bn,00,00-7F Bn,20,00-7F	バンクセレクト	x	5-14ch	XG
Bn,01,00-7F	モジュレーション	x	5-14ch	XG
Bn,04,00-7F	セカンドエクスプレッション	x x	16ch (4ch)*	コントロール リード
Bn,05,00-7F	ポルタメントタイム	x	5-14ch	XG
Bn,06,00-7F Bn,26,00-7F	データエントリー	x	5-14ch	XG
Bn,07,00-7F	ボリューム	x	5-14ch	XG
Bn,0A,00-7F	パン	x	5-14ch	XG
Bn,0B,00-7F	エクスプレッション	16ch	16ch 5-14ch	コントロール XG
Bn,40,00-7F	ホールド	x	5-14ch	XG
Bn,41,00-7F	ポルタメント	x	5-14ch	XG
Bn,42,00-7F	ソステヌート	x	5-14ch	XG
Bn,43,00-7F	ソフトペダル	x	5-14ch	XG
Bn,47,00-7F	レゾナンス	x	5-14ch	XG
Bn,48,00-7F	リリースタイム	x	5-14ch	XG
Bn,49,00-7F	アタックタイム	x	5-14ch	XG
Bn,4A,00-7F	ブライツネス	x	5-14ch	XG
Bn,54,00-7F	ポルタメントコントロール	x	5-14ch	XG
Bn,5B,00-7F	リバースェンドレベル	x	5-14ch	XG
Bn,5D,00-7F	コーラスェンドレベル	x	5-14ch	XG
Bn,5E,00-7F	バリエーションエフェクトェンドレベル	x	5-14ch	XG
Bn,60,00-7F Bn,61,00-7F	データインクリメント データデクリメント	x	5-14ch	XG
Bn,62,00-7F Bn,63,00-7F	NRPN LSB NRPN MSB	x	5-14ch	XG
Bn,64,00-7F Bn,65,00-7F	RPN LSB RPN MSB	x	5-14ch	XG
Bn,78,00 Bn,79,00 Bn,7B,00 Bn,7C,00 Bn,7D,00 Bn,7E,00 Bn,7F,00	オールサウンドオフ リセットオールコントローラ オールノートオフ オムニオフ オムニオン モノ ポリ	x	5-14ch	XG

コード	ファンクション	送信	受信	備考
Cn,nn	プログラムチェンジ	x	1ch	上鍵盤
		x	2ch	下鍵盤
		x	3ch	ペダル鍵盤
		x	5-14ch	XG
		16ch	16ch	コントロール
Dn,00-7F	アフタータッチ	(1ch)*	1ch	上鍵盤
		(2ch)*	2ch	下鍵盤
		x	3ch	ペダル鍵盤
			(4ch)*	リード
			5-14ch	XG
En,00-7F,00-7F	ピッチベンド	x	5-14ch	XG

*MIDI設定で変更。

1.2 XGモード

コード	ファンクション	送信	受信	備考
8n,nn,00-7F	ノートオフ	x	1-16ch	
9n,nn,00	ノートオフ	(1ch)		上鍵盤
9n,nn,01-7F	ノートオン	(2ch)* (3ch)*		下鍵盤 ペダル鍵盤(ノートオンの送信ベロシティ=50H)
			1-16ch	
Bn,00,00-7F	バンクセレクト	x	1-16ch	
Bn,20,00-7F				
Bn,01,00-7F	モジュレーション	x	1-16ch	
Bn,04,00-7F	セカンドエクスプレッション	x	x	コントロール
		x	x	リード
Bn,05,00-7F	ポルタメントタイム	x	1-16ch	
Bn,06,00-7F	データエントリー	x	1-16ch	
Bn,26,00-7F				
Bn,07,00-7F	ボリューム	x	1-16ch	
Bn,0A,00-7F	パン	x	1-16ch	
Bn,0B,00-7F	エクスプレッション	16ch	1-16ch	コントロール
Bn,40,00-7F	ホールド	x	1-16ch	
Bn,41,00-7F	ポルタメント	x	1-16ch	
Bn,42,00-7F	ソステヌート	x	1-16ch	
Bn,43,00-7F	ソフトペダル	x	1-16ch	
Bn,47,00-7F	レゾナンス	x	1-16ch	
Bn,48,00-7F	リリースタイム	x	1-16ch	
Bn,49,00-7F	アタックタイム	x	1-16ch	
Bn,4A,00-7F	ブライツネス	x	1-16ch	
Bn,54,00-7F	ポルタメントコントロール	x	1-16ch	
Bn,5B,00-7F	リバーブセンドレベル	x	1-16ch	
Bn,5D,00-7F	コーラスセンドレベル	x	1-16ch	
Bn,5E,00-7F	バリエーションエフェクトセンドレベル	x	1-16ch	
Bn,60,00-7F	データインクリメント	x	1-16ch	
Bn,61,00-7F	データデクリメント			
Bn,62,00-7F	NRPN LSB	x	1-16ch	
Bn,63,00-7F	NRPN MSB			
Bn,64,00-7F	RPN LSB	x	1-16ch	
Bn,65,00-7F	RPN MSB			

コード	ファンクション	送信	受信	備考
Bn,78,00	オールサウンドオフ	x	1-16ch	
Bn,79,00	リセットオールコントローラ			
Bn,7B,00	オールノートオフ			
Bn,7C,00	オムニオフ			
Bn,7D,00	オムニオン			
Bn,7E,00	モノ			
Bn,7F,00	ポリ			
Cn,00-7F	プログラムチェンジ	16ch 1-16ch	コントロール	
Dn,00-7F	アフタータッチ	(1ch)* (2ch)* x	1-16ch	上鍵盤 下鍵盤 ペダル鍵盤
En,00-7F,00-7F	ピッチベンド	x	1-16ch	

*MIDI設定で変更。

2. リアルタイムメッセージ

コード	ファンクション	送信	受信	備考
F8	クロック		*	
FA	スタート			
FC	ストップ			
FE	アクティブセンス			
FF	リセット	x	x	

*外部同期モードのみ。

3. エクスクルーシブメッセージ

3.1 フォーマット

ユニバーサルリアルタイムメッセージ

コード	メッセージ	送信	受信
F0,7F,7F,04,01,SS,TT,F7 XN	XGマスターボリューム	x	

ユニバーサルノンリアルタイムメッセージ

コード	メッセージ	送信	受信
F0,7E,7F,09,01,F7 XN	GM ON	x	

XGネイティブ

コード	メッセージ	送信	受信
F0,43,1N,4C,AH,AM,AL,..data,..F7	XGパラメーターチェンジ	x	
F0,43,0N,4C,BH,BL,AH,AM,AL,..data,..cc,F7	XGバルクダンプ	x	
F0,43,1N,27,30,00,00,MM,LL,cc,F7	XGマスターチューニング	x	
F0,43,1N,4C,00,00,7E,00,F7	XGシステム ON	x	

エレクtoon/シングルキーボード共通メッセージ

コード	メッセージ	送信	受信
F0,43,73,01,02,F7 03	内部同期モード要求 外部同期モード要求	x x	

エレクtoonエクスクルーシブ

コード	メッセージ	送信	受信
F0,43,70,70,00,...データ...F7 78 ID	バルクダンブデータ	x	
F0,43,70,70,00,F7	モデルIDデータ		x
F0,43,70,70,nn(*1),F7 78 ID	データ送信要求	x x x	
F0,43,70,70,nn(*2),F7 78 ID	データ受信要求	x x x	
F0,43,70,70,01,...データ...F7 78 ID	音色パラメーター送信要求	x x x	
F0,43,70,70,02,...データ...F7 78 ID	音色パラメーター受信要求	x x x	
F0,43,70,70,30,F7	モデルID送信要求	x	
F0,43,70,70,38,7F,F7 00	バルクダンブアクノリッジ バルクダンブアンアクノリッジ	x	x x
F0,43,70,70,40,nn(*3),7F,F7 00	スイッチON スイッチOFF		
F0,43,70,70,40,50,TL,TH,F7	テンボ		
F0,43,70,78,41,cd,dd,F7(*4)	パネルスイッチイベント		
F0,43,70,78,42,...データ...F7	カレントレジストレーションデータ		
F0,43,70,78,44...データ...(*5),F7	EL MIDIパラメーター		
F0,43,70,70,70,nn(*6),F7	外部MDR	x	
F0,43,70,70,73,F7	EL ON	x	
F0,43,70,70,78,SC,NC,F7	バーシグナル		

X : don't care N : Device Number(EL-400では' 0 'のみ) ID=4A

* 1 送信要求コード

nn	データ
10	全RAMデータ
11	レジストレーションデータ
12	リズムシーケンスデータ
14,15	ユーザーパターンデータ
16	ユーザーボイス
17	キーボードパーカッションアサイン

* 2 受信要求コード

nn	データ
20	全RAMデータ
21	レジストレーションデータ
22	リズムシーケンスデータ
24,25	ユーザーパターンデータ
26	ユーザーボイス
27	キーボードパーカッションアサイン

* 3 スイッチ

nn	スイッチ	送信	受信
45	レフトフットスイッチ		
47	ニーレバー		
48	フィルイン1		
4B	イントロ/エンディング		



*4 スイッチコード一覧

セレクター

コード	スイッチ	送信	送信値	受信	受信値	備考
02	アッパーボイス1セレクター		[00-0D]		[00-0D]	スイッチナンバー
03	ローボイス1セレクター		[00-0D]		[00-0D]	スイッチナンバー
04	アッパーボイス2セレクター		[00-01]		[00-0D]	スイッチナンバー
05	ローボイス2セレクター		[00-01]		[00-0D]	スイッチナンバー
06	リードボイスセレクター		[00-04]		[00-04]	スイッチナンバー
07	ペダルボイス1セレクター		[00-04]		[00-04]	スイッチナンバー
08	ペダルボイス2セレクター		[00-04]		[00-04]	スイッチナンバー
0B	リズムセレクター		[00-0B]		[00-0B]	スイッチナンバー
0F	レジストレーションメモリ	×			[00-0F]	

ボリューム

コード	スイッチ	送信	送信値	受信	受信値	備考
12	アッパーボイス1ボリューム		[00-7F]		[00-7F]	ボリュームデータ 00:MAX,7F:MIN
13	ローボイス1ボリューム		[00-7F]		[00-7F]	ボリュームデータ 00:MAX,7F:MIN
14	アッパーボイス2ボリューム		[00-7F]		[00-7F]	ボリュームデータ 00:MAX,7F:MIN
15	ローボイス2ボリューム		[00-7F]		[00-7F]	ボリュームデータ 00:MAX,7F:MIN
16	リードボイスボリューム		[00-7F]		[00-7F]	ボリュームデータ 00:MAX,7F:MIN
17	ペダルボイス1ボリューム		[00-7F]		[00-7F]	ボリュームデータ 00:MAX,7F:MIN
18	ペダルボイス2ボリューム		[00-7F]		[00-7F]	ボリュームデータ 00:MAX,7F:MIN
1A	リズムボリューム		[00-7F]		[00-7F]	ボリュームデータ 00:MAX,7F:MIN
1B	リバーブボリューム		[00-7F]		[00-7F]	デプスデータ 00:MAX,7F:MIN

トゥーロー

コード	スイッチ	送信	送信値	受信	受信値	備考
36	リードボイストゥーロー		[00-01]		[00-01]	00:OFF,01:ON
37	ペダルボイス1トゥーロー		[00-01]		[00-01]	00:OFF,01:ON
38	ペダルボイス2トゥーロー		[00-01]		[00-01]	00:OFF,01:ON

ブリリアンス

コード	スイッチ	送信	送信値	受信	受信値	備考
42	アッパーボイス1ブリリアンス		[00-06]		[00-06]	00:ブリリアント,06:メロー
43	ローボイス1ブリリアンス		[00-06]		[00-06]	00:ブリリアント,06:メロー
44	アッパーボイス2ブリリアンス		[00-06]		[00-06]	00:ブリリアント,06:メロー
45	ローボイス2ブリリアンス		[00-06]		[00-06]	00:ブリリアント,06:メロー
46	リードボイスブリリアンス		[00-06]		[00-06]	00:ブリリアント,06:メロー
47	ペダルボイス1ブリリアンス		[00-06]		[00-06]	00:ブリリアント,06:メロー
48	アッパーボイス2ブリリアンス		[00-06]		[00-06]	00:ブリリアント,06:メロー

サステイン

コード	スイッチ	送信	送信値	受信	受信値	備考
50	アッパーサステイン		[00-01]		[00-01]	00:OFF,01:ON
51	ローサステイン		[00-01]		[00-01]	00:OFF,01:ON
52	ペダルサステイン		[00-01]		[00-01]	00:OFF,01:ON

キーボードパーカッション

コード	スイッチ	送信	送信値	受信	受信値	備考
5B	ローキーボードパーカッション		[00-01]		[00-01]	00:OFF,01:ON
5C	ペダルキーボードパーカッション		[00-01]		[00-01]	00:OFF,01:ON

ディスエーブル

コード	スイッチ	送信	送信値	受信	受信値	備考
5F	ディスエーブル		[00-01]		[00-01]	00:OFF,01:ON

トレモロ

コード	スイッチ	送信	送信値	受信	受信値	備考
60	トレモロ		[00-01]		[00-01]	00:SLOW,01:FAST

リズムシーケンス

コード	スイッチ	送信	送信値	受信	受信値	備考
61	シーケンス1		[00-01]		[00-01]	00:OFF,01:ON
62	シーケンス2		[00-01]		[00-01]	00:OFF,01:ON
63	シーケンス3		[00-01]		[00-01]	00:OFF,01:ON
64	シーケンス4		[00-01]		[00-01]	00:OFF,01:ON

* 5 EL MIDIパラメーター

音群パラメーター
オーケストラ音群パラメーター

Address		Size	Data	パラメーター	データ	送信	送信値	受信	受信値	備考
00	00-04, 06, 07	00-0D	2	00-7F	音色アサインナンバーH				[00-7F]	
					音色アサインナンバーL				[00-0F]	[00-7F]
00	00-04, 06, 07	10	1	00-0D	音色セレクトナンバー		x	[00-0D]	[00-0D]	
00	00-04, 06, 07	11	1	00-7F	ボリューム	00:MIN 7F:MAX	x	[00-7F]	[00-7F]	
00	00-04, 06, 07	12	1	00-7F	リバーブセンドレベル	00:MIN 7F:MAX		[00-7F]	[00-7F]	
00	00-04, 06, 07	13	1	00-7F	ブリリアンス	00:Brilliant 40:Center 7F:Mellow	x	[00] [15] [2B] [40] [55] [6B] [7F]	[00-0A] [0B-1F] [20-35] [36-4A] [4B-5F] [60-75] [76-7F]	
00	00-04, 06, 07	14	1	00-04	フィート	00:Preset 01:16Feet 02:8Fee 03:4Feet 04:2Feet		[00] [01] [02] [03] [04]	[00][05-7F] [01] [02] [03] [04]	
00	00-04, 06, 07	15	1	00-7F	パン	00:Right 40:Center 7F:Left		[0B] [1D] [2B] [40] [55] [63] [75]	[00-11] [12-25] [26-31] [32-4E] [4F-5A] [5B-6E] [6F-7F]	
00	00-04, 06, 07	16	1	00-7F	イニシャルタッチセンス	00:浅い 7F:深い		[00-7F]	[00-7F]	
00	00-04, 06, 07	17	1	00-7F	アフタータッチセンス	00:浅い 7F:深い		[00-7F]	[00-7F]	
00	00-04, 06, 07	19	1	00-01	ユーザービブラート	00:PRESET 01:USER		[00] [01]	[00] [01-7F]	
00	00-04, 06, 07	1A	1	02-1A	ビブラートディレイ	00:Short 7F:Long		[02-1A]	[00-7F]	
00	00-04, 06, 07	1B	1	00-54	ビブラートデプス	00:MIN 7F:MAX		[00-54]	[00-7F]	
00	00-04, 06, 07	1C	1	3C-6C	ビブラートスピード	00:Slow 7F:Fast		[3C-6C]	[00-7F]	
00	00-04, 06, 07	1E	1	00-7F	タッチビブラートON/OFF	00:OFF 01:ON		[00] [7F]	[00] [01-7F]	
00	04, 06, 07	1F	1	00-01	TO LOWER	00:OFF 01:ON	x	[00] [01]	[00] [01-7F]	
00	04	20	1	00-02	スライド	00:OFF 01:ON 02:KneeControl		[00] [01] [02]	[00] [01] [02]	
00	04	21	1	02-7F	スライドスピード	02:Slow 7F:Fast		[02-7F]	[00-7F]	
00	04	22	1	00-24	ディチューン	00:Normal 24:TuneUP		[00-24]	[00-7F]	
00	00-07 00, 01, 04, 06, 07	23	1	00-01	セカンドエクスプレッション	00:OFF 01:ON	x	[00] [01]	[00] [01-7F]	
00	00-04	24	1	00-01	グライド	00:OFF 01:ON		[00] [01]	[00] [01-7F]	

音群エフェクトパラメーター

Address			Size	Data	パラメーター	データ	送信	送信値	受信	受信値	備考
00-01	00-04, 06, 07	3F	1	00-05	エフェクトセレクト	00:Preset 01:OFF 02:Tremolo 03:Symphonic 04:Delay 05:Flanger 06:Distortion		[00] [01] [02] [03] [04] [05] [06]		[00][07-F] [01] [02] [03] [04] [05] [06]	
00-01	00-04, 06, 07	40-42	1	00-7F	リバーブパラメーター		x	[00-7F]		[00-7F]	
00-01	00-04, 06, 07	48-4A	1	00-7F	トレモロパラメーター		x	[00-7F]		[00-7F]	
00-01	00-04, 06, 07	50	1	00-7F	シンフォニックパラメーター			[00-7F]		[00-7F]	
00-01	00-04, 06, 07	58-5B	1,2	00-7F	ディレイパラメーター			[00-7F]		[00-7F]	
00-01	00-04, 06, 07	60-62	1	00-7F	フランジャーパラメーター			[00-7F]		[00-7F]	
00-01	00-04, 06, 07	68-69	1	00-7F	ディストーションパラメーター			[00-7F]		[00-7F]	

鍵盤パラメーター

サステインパラメーター

Address			Size	Data	パラメーター	データ	送信	送信値	受信	受信値	備考
02	00-02	00	1	00-01	サステインON/OFF	00:OFF 01:ON	x	[00] [01]		[00] [01-7F]	
02	00-02	01	1	00-0C	サステインレンジ	00:Short 0C:Long		[15-3D]		[00-7F]	

キーボードパーカッションパラメーター

Address			Size	Data	パラメーター	データ	送信	送信値	受信	受信値	備考
02	01-02	10	1	00-01	キーボードパーカッション	00:OFF 01:ON	x	[00] [01]		[00] [01-7F]	
02	01-02	11	1	00-08	キーボードパーカッションモード	00:Preset 01-08:UserAssign1-8		[00] [01-08]		[00] [01-08]	

鍵盤エフェクトパラメーター

Address			Size	Data	パラメーター	データ	送信	送信値	受信	受信値	備考
02	00-02	40-42	1		リバーブパラメーター		x	[00-7F]		[00-7F]	
02	00-02	48-4A	1		トレモロパラメーター		x	[00-7F]		[00-7F]	
02	00-02	50	1		シンフォニックパラメーター		x	[00-7F]		[00-7F]	
02	00-02	58-5B	1,2		ディレイパラメーター		x	[00-7F]		[00-7F]	
02	00-02	60-62	1		フランジャーパラメーター		x	[00-7F]		[00-7F]	
02	00-02	68-69	1		ディストーションパラメーター		x	[00-7F]		[00-7F]	

リズム

リズムパラメーター

Address			Size	Data	パラメーター	データ	送信	送信値	受信	受信値	備考
03	00	00-0B	1	00-65 67-98	パターンアサインナンバー	パターンナンバー		[00-62]		[00-62]	
03	00	10	1	00-0B	パターンセレクトナンバー	セレクトのスイッチ番号	x	[00-0B]		[00-0B]	
03	00	11	1	00-7F	ボリューム	00:MIN 7F:MAX	x	[00-7F]		[00-7F]	
03	00	12	1	00-7F	リバーブセンドレベル	00:MIN 7F:MAX		[00-7F]		[00-7F]	
03	00	14	1	00-01	オートバリエーション	00:OFF 01:ON		[00] [01]		[00] [01-7F]	
03	00	15	1	00-7F	リズムバランス	00:Cymbal 40:Center 7F:Drums		[00-7F]		[00-7F]	
03	00	16	1	00-01	セカンドエクスプレッション テンポコントロール	00:OFF 01:ON	x	[00] [01]		[00] [01-7F]	
03	00	17	1	00-03	フットスイッチリズムモード	00:OFF 01:RhythmStop 02:Ending 03:FillIn		[00] [01] [02] [03]		[00][04-7F] [01] [02] [03]	

リズムシーケンスパラメーター

Address			Size	Data	パラメーター	データ	送信	送信値	受信	受信値	備考
03	01	00-03	1	00-01	リズムシーケンス	00:OFF 01:ON	x	[00] [01]		[00] [01-7F]	

アカンパニメントパラメーター

Address			Size	Data	パラメーター	データ	送信	送信値	受信	受信値	備考
03	02	10	1	00-03	パターンセレクトナンバー	00:Type1 01:Type2 02:Type3 03:Type4		[00] [01] [02] [03]		[00] [01] [02] [03]	
03	02	11	1	00-01	ボリュームミュート	00:OFF 01:MUTE		[00] [01]		[00] [01-7F]	
03	02	12	1	00-7F	ボリューム	00:MIN 7F:MAX		[00-7F]		[00-7F]	
03	02	13	1	00-7F	リバーブセンドレベル	00:MIN 7F:MAX		[00-7F]		[00-7F]	

A.B.C.設定パラメーター

Address			Size	Data	パラメーター	データ	送信	送信値	受信	受信値	備考
03	03	00	1	00-03	A.B.C.モード	00:OFF 01:SingleFinger 02:Fingerd 03:CustomABC		[00] [01] [02] [03]		[00][04-7F] [01] [02] [03]	
03	03	01	1	00-01	LKメモリ	00:OFF 01:ON		[00] [01]		[00] [01-7F]	
03	03	02	1	00-01	PKメモリ	00:OFF 01:ON		[00] [01]		[00] [01-7F]	

M.O.C.設定パラメーター

Address			Size	Data	パラメーター	データ	送信	送信値	受信	受信値	備考
03	04	00	1	00-03	M.O.C.モード	00:OFF 01:Close2Note 02:Close3Note 03:PassBOpen		[00] [01] [02] [03]		[00][04-7F] [01] [02] [03]	
03	04	01	1	00-01	M.O.C.ニークontrol	00:OFF 01:ON		[00] [01]		[00] [01-7F]	

全体
全体パラメーター

Address			Size	Data	パラメーター	データ	送信	送信値	受信	受信値	備考
04	00	00	1	00-01	ディスエーブル	00:OFF 01:ON	x	[00] [01]		[00] [01-7F]	
04	00	01	1	00-01	フルトカブラーアタックモード	00:EachKey 01:FirstNewKey	x	[00] [01]		[00] [01-7F]	
04	00	02	1	3A-46	トランスボース	3A:KeyDown 40:Normal 46:KeyUp		[3A] [40] [46]		[3A] [40] [46]	
04	00	03	1	00-0B	セカンドエクスプレッション変化幅	01:100¢ 0C:1200¢	x	[01-0C]		[01-0C]	
04	00	04	1	00-03	フットスイッチモード	00:OFF 01:Rhythm 02:Glide 03:Tremolo		[00] [01] [02] [03]		[00][04-7F] [01] [02] [03]	
04	00	05	1	3C-4F	ピッチ	3C:PitchDown 40:Normal 4F:PitchUp		[3C-4F]		[3C-4F]	
04	00	06	1	00-04	グライドスピード	01:Slow 05:Fast		[04-1C]		[00-7F]	
04	00	07	1	34-4C	マニュアルバランス	34:Upper 40:Center 4C:Lower		[34-4C]		[00-7F]	
04	00	09	1	00-01	LIT	00:Mode1 01:Mode2	x	[00] [01]	x	[00] [01]	
04	00	0A	1	00-01	EXPRESSION INT/EXT	00:Internal 01:External	x	[00] [01]		[00][02-7F] [01]	

全体エフェクトパラメーター

Address			Size	Data	パラメーター	データ	送信	送信値	受信	受信値	備考
04	00	40-42	1		リバーブパラメーター			[00-7F]		[00-7F]	
04	00	48-4A	1		トレモロパラメーター			[00-7F]		[00-7F]	
04	00	50	1		シンフォニックパラメーター		x	[00-7F]		[00-7F]	
04	00	58-5B	1,2		ディレイパラメーター		x	[00-7F]		[00-7F]	
04	00	60-62	1		フランジャーパラメーター		x	[00-7F]		[00-7F]	
04	00	68-69	1		ディストーションパラメーター		x	[00-7F]		[00-7F]	

* 6 外部MDR

nn	コマンド	送信	受信
01	プレイスタート	x	
02	プレイストップ	x	
03	レコードスタート	x	
04	レコードストップ	x	
09	リズムポインターリセット	x	

MIDIインプリメンテーションチャート

YAMAHA [Electone-EL mode] / Model: EL-400

Date:28. Mar.2000
Version: 1.00

ファンクション		送信	受信	備考
ベーシック チャンネル	電源ON時 設定可能	1, 2, 3, 16チャンネル ¹ 1-16	1-3, 5-16チャンネル ² 4チャンネル	
モード	電源ON時 メッセージ 代用	モード3 × *****	モード3 × ×	
ノートナンバー	音域	36-96 ³ *****	0-127 ⁴	
ベロシティ	ノートオン ノートオフ	○ 9nH, v=1-127 ○ 9nH, v=0	○ 9nH, v=1-127 ○ 9nH, v=0, 8nH	EL-400のペダルベロシティ 送信は80固定
アフタータッチ	キー別 チャンネル別	× ○	× ○	EL-400のペダル鍵盤は 送信しない
ピッチベンダー		×	○ ⁶	
コントロールチェンジ	0, 32 1, 5, 7, 10 4 6, 38 11 96, 97 64-67 71-74 84, 91, 93, 94 98-99, 100-101 120, 121	× × × × ○ ⁷ × × × × × × ×	○ ⁶ ○ ⁶ ○ ⁷ ○ ⁶ ○ ^{6,7} ○ ⁶ ○ ⁶ ○ ⁶ ○ ⁶ ○ ⁶ ○ ⁶ ○ ⁶	バンクセレクト セカンドエクスプレッションペダル データエントリー エクスプレッションペダル データエントリー-SW サウンドコントローラー NRPN, RPN
プログラムチェンジ	設定可能	○ ⁹ *****	○ ¹⁰	
エクスクルーシブ		○	○	
コモン	ソングポジション ソングセレクト チューン	× × ×	× × ×	
リアルタイム	クロック コマンド	○ ○	○ ⁸ ○	(FAH, FCH)
その他	ローカルON/OFF オールノートオフ アクティブセンシング リセット	× × ○ ×	× ○(123-127) ⁶ ○ ×	
備考	¹ 1チャンネル:上鍵盤、2チャンネル:下鍵盤、3チャンネル:ペダル鍵盤、16チャンネル:コントロール ² 1チャンネル:上鍵盤、2チャンネル:下鍵盤、3チャンネル:ペダル鍵盤、4チャンネル:リードボイス1、5-14チャンネル:YG、15チャンネル:キーボード ³ 上鍵盤:48-96、下鍵盤:36-84、ペダル鍵盤:36-55 ⁴ 上鍵盤:下鍵盤、ペダル鍵盤、リードボイス:36-96、YG:0-127、パーカッション:3-127 ⁵ 上鍵盤:アッパーキーボードホリゾンタルタッチ、下鍵盤:ロワーキーボードホリゾンタルタッチ ⁶ XGのみ ⁷ コントロールのみ ⁸ エクスターナルモードのみ ⁹ コントロール:0-15、112-116 ¹⁰ 上鍵盤、下鍵盤、ペダル鍵盤、コントロール:0-15、112-116、YG:0-127			

モード1:オムニ・オン、ポリ
モード3:オムニ・オフ、ポリ

モード2:オムニ・オン、モノ
モード4:オムニ・オフ、モノ

○: あり
×: なし

ファンクション		送信 11	受信	備考
ベーシック チャンネル	電源ON時 設定可能	1, 2, 3, 16チャンネル 1-16	1-16チャンネル 1-16チャンネル	
モード	電源ON時 メッセージ 代用	モード3 × *****	モード3 × ×	
ノートナンバー	音域	36-96 *****	0-127	
ペロシティ	ノートオン ノートオフ	○ 9nH, v=1-127 ○ 9nH, v=0	○ 9nH, v=1-127 ○ 9nH, v=0, 8nH	EL-400のペダルペロシティ 送信は80固定
アフタータッチ	キー別 チャンネル別	× ○	× ○	
ピッチベンダー		×	○	
コントロールチェンジ	0, 32 1, 5, 7, 10 4 6, 38 11 96, 97 64-67 71-74 84, 91, 93, 94 98-99, 100-101 120, 121	× × × × ○ × × × × × × ×	○ ○ × ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	バンクセレクト セカンドエクスプレッションペダル(EL-400は送信しない) データエントリー エクスプレッションペダル データエントリーSW サウンドコントローラー NRPN, RPN
プログラムチェンジ	設定可能	○ 0-15, 112-116 *****	○	
エクスクルーシブ		○	○	
コモン	ソングポジション ソングセレクト チューン	× × ×	× × ×	
リアルタイム	クロック コマンド	○ ○	× ×	
その他	ローカルON/OFF オールノートオフ アクティブセンシング リセット	× × ○ ×	× ○(123-127) ○ ×	
備考	11 ELモードと同じ			

モード1:オムニ・オン、ポリ
モード3:オムニ・オフ、ポリ

モード2:オムニ・オン、モノ
モード4:オムニ・オフ、モノ

○: あり
×: なし



故障かな?と思ったら

現象	原因と対処
楽器全般	
時々ガリッとかポツンという雑音が入る。	近くで電気器具の電源をオン/オフしたり、電気ドリルなどを使用している場合は、雑音が入ることがあります。原因と思われる機器から、なるべく離れたコンセントを使ってください。また、原因不明の場合は、サービスセンターまでご相談ください。
ラジオやテレビ、無線などの電波が入る。	近くに大電力の放送局やアマチュア無線局があるためです。どうしても気になる場合は、サービスセンターまでご相談ください。
エレクトーンから雑音が出る。	エレクトーンの近くで携帯電話を使っている(または呼び出し音が鳴っている)ためです。エレクトーンの近くで携帯電話を使ったり、呼び出し音が鳴ったりすると、雑音が出る場合があります。エレクトーンの近くでは携帯電話の電源を切ってください。
ラジオやテレビなどに雑音が入ることがある。	エレクトーンのすぐ近くにラジオやテレビを置くと、雑音が入ることがあります。できるかぎり離してご使用ください。
音が周囲のものを共鳴させてびりつく。	エレクトーンの音は持続音が多いため、周囲の戸棚やガラスなどの家具類を共鳴させることがあります。気になる場合は、家具類の配置を一工夫するか、エレクトーンの音量を小さくしてください。
ディスプレイセレクトセクションのボタンの中で点灯しないものがある。	トレモロボタンを押すと点灯しますが、それ以外のボタンを押した場合は一時的に点滅するだけです。
ボリュームを最大にセットしても、音が小さすぎる。	マスターボリュームが最小近くになっています。時計回りに回してください。エクスプレッションペダルが踏み込まれていません。ペダルを踏み込んでください。
コントロールパネルなどが正常に働かない。 または、メモリーしていた情報が変わってしまう。	非常にまれなことでありますが、落雷などにより異常電圧が流れ、エレクトーンが正常に機能しなくなったり、メモリーしていた情報が変わったりすることがあります。このような場合は、いったん電源スイッチを切り、データコントロールボタンの左上端の[◀]を押しながら、電源スイッチをもう一度入れてください(パワーオンリセット)。それでも正常に働かない場合は、サービスセンターまでご相談ください。
ボタンを押しても、そのボタンのメニューが表示されない。	ボイスディスク、パターンディスクが入っているとメニューが変わりません。ディスクを出してから、あらためて目的のボタンを押してください。
音色/リズム	
選んだ音色によって、鍵盤位置による音量のばらつきがある。	一般に電子楽器は、音色を変えるという本質的な要素を持つため、音色による各鍵盤の音量ばらつきをなくすことは非常に困難です。エレクトーンはどの音色でも演奏上問題の無いように設計、調整されていますが、設置場所や聞く位置によって音量や音色が異なることがあります。どうしても気になる場合は、サービスセンターまでご相談ください。
ペダル鍵盤ではピッチが高く、上/下鍵盤の高音部ではピッチが低く感じられる。	特にピアノと比較した場合に感じることです。ピアノでは倍音構成が複雑なため、高音と低音の調律は実音での調律ができず、倍音を聞いて調律しています。エレクトーンの場合は逆に実音で調律していますから、ピアノとエレクトーンでは、高音と低音の調律自体が本質的に違うわけです。
割れるような感じや、ノイズが入るような感じのする音色がある。	おもに管楽器の音色で感じることです。これは実際の楽器音の特長を再現するため、意図的に組み込まれた音色効果です。プラスの振動やブレスノイズなど、よりリアルな特徴をそなえた音色が得られます。
複数の鍵盤を押さえたとき、鳴らない音がある。	上鍵盤または下鍵盤では、上/下鍵盤合わせて最大12音まで同時に発音するようになっています。この同時発音数を超えると、音が鳴らない場合が生じます。
ペダル鍵盤またはリードボイスを同時に2音押さえても、1音しか発音しない。	ペダル鍵盤またはリードボイスでは、それぞれ同時に1音しか発音しないようになっています。同時に2音以上押さえた場合は、高音が優先されます。

現象	原因と対処
音色/リズム	
上鍵盤の音量が下鍵盤の音量に比べて大きすぎる。(またはその逆)	マニュアルバランスがアッパーまたはロー側に寄りすぎています。VOICE DISPLAYボタンを押してLCDにボイスディスプレイを表示させ、マニュアルバランスを設定しなおしてください。
ボリュームをセットしても、ペダル鍵盤の音色が発音しない。	オートベースコードのシングルフィンガーまたはフィンガーコードがセットされています。リズムコンディション、または、A.B.C./M.O.C.メニューのA.B.C.モードをオフにしてください。 ペダルボタンのT0 LOWER(トゥロー)ボタンが2つともオンになっています。ボタンをオフにしてください。
ページボタンでボイス/リズムメニューを選んでいるときに、LCDディスプレイ上段の音色/リズム名とその下のボイス/リズムメニューの категория が異なる。	LCDディスプレイ上段には現在選択されている音色/リズム名が表示されます。ほかの音色/リズムを選択しなおすまで表示は変わりません。
下鍵盤またはペダル鍵盤を押さえるとリズム楽器の音が一緒に発音する。	キーボードパーカッションがオンになっています。 キーボードパーカッションを使用しないときはオフにしてください。
リズムドットボタンを押してユーザーリズムをスタートしたが、リズムが発音されない。	ユーザーリズムは、リズムパターンディスクで読み込んだリズムを呼び出すセクションなので、最初はブランクになっています。
エフェクト	
タッチコントロールが思ったよりきかない。	ボイスコンディションでのタッチトーンのレベル設定が低くなっています。ボイスコンディションのメニューを表示させ、タッチトーンのレベルを上げてください。
パネル左端のリバースボリュームを上げたが、かけたい音群にリバースがかからない。	かけたい音群のリバースが0に設定されています。まず、かけたい音群のボイスコンディション画面(ページ2)でリバースボリュームを上げてください。
ディスプレイセレクトのトレモロボタンを押したが、トレモロがかからない。	トレモロ効果を得るためには、まず、ボイスコンディション画面(ページ3)またはエフェクトセットページでトレモロ機能を選択する必要があります。
A.B.C./アカンパニメント	
A.B.C.のシングルフィンガーで下鍵盤の高い方を押さえても、音程が変わらない。	シングルフィンガーでは定められた1オクターブのなかの音が出るようになっています。同じコードまたは同じ音色であれば、下鍵盤のどの位置を押さえても同じ音程で和音が得られます。
イントロ/エンディングパターンに入っているとき、下鍵盤を弾いても発音しない。	アカンパニメントコードが自動的に選択演奏されるので、イントロ/エンディングパターンが演奏中は、その他の音は発音されないようになっています。
アカンパニメントを選んでリズムをスタートさせたが、アカンパニメントが鳴らない。	アカンパニメントのボリュームが0になっています。リズムコンディション画面で、アカンパニメントのボリュームを上げてください。
メロディオンコードによるハーモニーの音が発音しない。	上鍵盤でリードボイスだけが発音するようになっています。上鍵盤ボイスをセットしてください。

現象	原因と対処
レジストレーションメモリー	
レジストレーションに記憶されない機能がある。	次の機能は記録されないようになっています。 リズムのスタート、シンクロスタート、フィルイン、イントロ/エンディングなどの各スイッチ機能。ユーザーボイスの内容、ユーザーリズムの内容、レジストレーションシフト、MDRセレクトボタンなど。詳細については66ページをご参照ください。
トゥーディスクの操作をしたらエラー表示になりデータが移らない。	操作が不適切であるか、フロッピーディスクのライトプロテクトタブがオンになっています。操作方法などを確認してください。
基本レジストレーションを押すと“ピッ”と音がした。	EL-900/700/500で作ったレジストレーションをMDRで読み込み、シーケンスデータやリズムインストゥルメントが初期設定と違っている場合、基本レジストレーションボタンを押すと初期設定に戻し、“ピッ”と鳴らしてお知らせします。
MDR	
録音/再生ができない。	鍵盤ごとのレコード/プレイのパート選択ボタンがオフになっています。録音/再生したいパートのボタンを押してオンにしてください。
40ソングまでデータの録音/記録ができない。	ひとつのソングに記録したデータの量が多い場合、メモリー残量が足りなくなることがあります。メモリー残量をご確認ください。
演奏が終わる前に録音がストップしてしまった。	メモリー残量が足りない場合:別のディスクを使用してください。 既に録音してあるソングナンバーに録音する場合:録音する曲の長さが前の曲の長さになっています。前の曲をデリートしてから、録音しなおしてください。
録音開始時にリズムがスタートしなかったり、スタートさせたリズムがストップしてしまう。	録音開始時にリズムがスタートした場合、リズムをストップさせる仕様になっています。リズムを使用する場合は、デジタルディスプレイの表示が--からメモリー残量表示に切り替わった後でスタートさせてください。
再生されていたエレクトーンの音が鳴りっぱなしになった。	イジェクトボタンを押してディスクを取り出したためです。ストップボタンを押して再生をストップしてから、ディスクを取り出して、電源を切るようにしてください。

EL-400仕様

鍵盤		上鍵盤：49 鍵(C-C)、下鍵盤：49 鍵(C-C)、ペダル：20 鍵(C-G)
タッチトーン	イニシャルタッチ	アッパー、リード、ロワー、ペダル(外部 MIDI コントロールのみ)
	アフタータッチ	アッパー、リード、ロワー、ペダル(外部 MIDI コントロールのみ)
音色	音源	AWM・FM
	アッパーキーボードボイス 1、2 ロワーキーボードボイス 1、2	ストリングス 1、2、3、4、5、6、7、ピチカートストリングス、トレモロストリングス、シンセストリングス 1、2、3；プラス 1、2、3、4、5、シンセプラス 1、2、3；クラリネット 1、2、バスクラリネット、シンセクラリネット 1、2；サクソフォン 1、2、ソプラノサクソ、サクソアンサンブル 1、2、シンセサクソ、シンセリード 1、2、3、4、5；コーラス 1、2、3、4、5、ボーカル；オルガン 1、2、3、4、ジャズオルガン 1、2、3、4、ポップオルガン 1、2、シアターオルガン 1、2、アコーディオン、バンドネオン；ピアノ 1、2、ホンキートンクピアノ、エレクトリックピアノ 1、2、3、ハーブシコード、クラビ、クラビコード；ギター 1、2、3、12 弦ギター、バンジョー、マンドリン、シタール、三味線、エレクトリックギター 1、2、ミュートギター、ディストーションギター、ハーブ、スチールギター、琴、大正琴；ビブラフォン、グロッケン、チェレスタ、オルゴール、マリンバ、シロフォン、チャイム、シンセチャイム、スチールドラム；コズミック 1、2、3、4、5、6、7、8、9、10、11、12、13、14、15、16；トゥッティ 1、2、3、4、5、6、7；[アッパー]ハーモニカ 1、2；[ロワー]ホルン 1、2、3、4、ミュートホルン；ユーザー 1～16；[ドットボタン] 1、2；アッパー = 115 ボイス；ロワー = 118 ボイス；ボリューム、プリリアンス(LCD で設定)
	リードボイス	バイオリン 1、2、3、4、5、ピチカートバイオリン、チェロ、胡弓；フルート 1、2、ピッコロ、横笛、リコーダー、オカリナ、パンフルート、尺八、ホイッスル；オーボエ 1、2、イングリッシュホルン、バスーン 1、2；トランペット 1、2、3、4、5、6、ミュートトランペット、トロンボーン 1、2、ミュートトロンボーン、フリューゲルホルン、ユーフォニウム；ユーザー 1～16；[ドットボタン] 1、トゥーロワーボタン；[34 ボイス]；ボリューム、プリリアンス(LCD で設定)
	ペダルボイス 1、2	コントラバス 1、2、3、ピチカートベース、アップライトベース；エレキベース 1、2、3、4、シンセベース 1、2、3；オルガンベース 1、2、3、4；チューバ、ティンパニ、ティンパニロール；ユーザー 1～16；[ドットボタン] 1、トゥーロワーボタン；19 ボイス；ボリューム、プリリアンス(LCD で設定)
	ボイスディスプレイ	アッパー 1、2、リード、ロワー 1、2、ペダル 1、2；マニュアルバランス
エフェクト/ コンディション	リバーブ	[コントロール]タイプ：ルーム、ホール、チャーチ；レングス；デプス(アッパー 1、2；ロワー 1、2；リード 1、2；ペダル 1、2；アカンパニメント；パーカッション)
	サステイン	アッパー(ニー)、ロワー(ニー)、ペダル；[コントロール]レングス
	プリリアンス	アッパー 1、2、ロワー 1、2、リード、ペダル 1、2
	トレモロ/コーラス	アッパー 1、2、ロワー 1、2、リード、ペダル 1、2；[モード]トレモロ(ファースト)：スピード、コーラス(スロー/ストップ)
	シンフォニック/セレステ	アッパー 1、2、ロワー 1、2、リード、ペダル 1、2；[モード]シンフォニック/セレステ
	ビブラート	アッパー 1、2、ロワー 1、2、リード、ペダル 1、2；プリセット/ユーザー(ディレイ、デプス、スピード)、タッチビブラート(ペダル 1、2 を除く)
	ディレイ	アッパー 1、2、ロワー 1、2、リード、ペダル 1、2；[コントロール]タイム、フィードバック、バランス；[モード]モノ、ステレオ 1、2、3
	フランジャー	アッパー 1、2、ロワー 1、2、リード、ペダル 1、2；[コントロール]スピード、フィードバック、デプス
	ディストーション	アッパー 1、2、ロワー 1、2、リード、ペダル 1、2；[コントロール]レベル、ハイパス
	グライド	アッパー 1、2、ロワー 1、2、リード；[コントロール]タイム
エフェクト/ コンディション	リードスライド	オン/ニー/オフ；[コントロール]スライドタイム
	リードデチューン	チューン
	パン	アッパー 1、2、ロワー 1、2、リード、ペダル 1、2；7 ポジション
	フィート	アッパー 1、2、ロワー 1、2、リード、ペダル 1、2；プリセット /2'(ペダルボイスのみ)/4'/8'/16'

リズム	リズム	マーチ1、2、3、ポルカ1、2、カントリー1、2、ブロードウェイ、パロック；ワルツ1、2、3、4、5、ジャズワルツ1、2、3、ボレロ；スイング1、2、3、4、5、6、ジャズバラード、ディキシーランド1、2；パウンス1、2、3、レゲエ1、2；スローロック1、2、3；タンゴ1、2、3；チャチャ、ルンバ、ビギン、マンボ、サルサ；サンバ1、2、3、ボサノバ1、2、3；8ビート1、2、3、4、5、ダンスポップ1、2、3、4；16ビート1、2、3、4、5、ファンク1、2、3；ユーザー1、2、3、4、5、6、7、8(A-D)；[ドットボタン1、2；66リズム]；ボリューム
	バリエーション	フィルイン、イントロ/エンディング、タクト、オートバリエーション；オン/オフ
	コントロールその他	スタート、シンクロスタート、テンポ：パー/ビートディスプレイ；[コンディション]リバーブ、バランス、ボリューム
	リズムシーケンス	オン/オフ、シーケンス1～4
キーボードパーカッション		プリセット；ロー、ペダル オン/オフ、ユーザー：1～8；LKプリセットコピー、PKプリセットコピー、ユーザーコピー；[アサイン]インストゥルメント(120)、クリア
アカンパニメント	オートベースコード	[モード]オフ/シングルフィンガー/フィンガードコード/カスタムA.B.C.；メモリー：下鍵盤、ペダル鍵盤
	アカンパニメント	[タイプ]1、2、3、4、オフ；ボリューム；リバーブ
メロディオンコード		[モード]オフ、1、2、3；ニールバー；オン/オフ
基本レジストレーション		1～5
レジストレーションメモリー		M.(メモリー)/トゥーディスク、1～8、D.(ディスエーブル)ボタン、レジストレーションシフト
ミュージックディスクレコーダー		プレイ/レコード：アッパー、ロー、ペダル、コントロール、リード、キーボードパーカッション；ポーズ、ストップ、早送り、巻戻し、ソングセレクト、シフト、カスタムプレイ、テンポ；フォーマット、リード&オートインクリメント、ソングリピート、ソングデリート、ソングコピー：フロム/トゥー、ディスクコピー、パンチイン録音、XG再生(16パート；ソロ、ミュート、ボリューム)、XG簡易変換、ソングネーム表示、ボイスディスク/リズムパターンディスク、メモリー残量；デジタルディスプレイ、イジェクト
フットスイッチ コントロール	左フットスイッチ	モード：オフ、リズム(ストップ、エンディング、フィルイン)、グラインド(アッパー/ロー/リード；タイム)、トレモロ/コーラス
	右フットスイッチ	レジストレーションシフト：オフ、シフト、ジャンプ、ユーザー(80ポジション、カーソル、インサート、デリート；シフトエンド：ストップ、トップ、ネクストソング)
ニールバーコントロール		オン/オフ；サステイン(アッパー、ロー)、M.O.C.、リードスライド
トランスポーズ/ピッチ		トランスポーズ(-6～+6)、ピッチ(438.8Hz～444.5Hz)
LCDディスプレイ		20 x 2 キャラクター
表示言語		日本語/英語
コントロール		パワーオン/オフ、エクスペッションペダル(左/右フットスイッチ)、ピッチコントロール、トランスポーズ、マスターボリューム、ディスプレイセレクト、データコントロール、ページ、MIDI(アウトプット：アッパー、ロー、ペダル)；インターナル/エクスターナル：リード、シンクロ、エクスペッション
その他の装備		キーボードカバー/譜面板、MIDIイン/アウト端子、ヘッドフォンジャック、リズムイン端子(フォーン；L/R)、AUXアウト端子(RCA；L/R)、トゥーホスト端子、ホストセレクト
付属品		ELはじめてディスク(x1)、2HD 3.5"フロッピーディスク(x1)、和文シート、椅子、取扱説明書、ELはじめてガイド、保証書、愛用者カード
オプション		ボイスディスク、パターンディスク、HPE-170ステレオヘッドフォン、3.5"フロッピーディスク(2HD/2DD)
サウンドシステム	アンプ	70W(ステレオ)
	スピーカー	[2ウェイ]ウーファー 16cm x 2、ツイーター 5cm x 2、モニタースピーカー x 2
定格電圧・消費電力・周波数		100V、60W、50/60Hz
サイズ		[本体]間口 1,077mm、奥行き 460.5mm、高さ 947mm(キーカバーを立てた時 1,183mm) [椅子]間口 595mm、奥行き 295mm、高さ 580mm
質量		[本体]54.5kg、[椅子]7.0kg

*仕様および外観は、改良のため、予告無く変更することがあります。

索引

索引1(機能別)

ア

アカンパニメント	44, 53
アカンパニメントリバーブ	54
アサイン(キーボードパーカッション)	56
アッパー(MIDI OUT)	105
アッパーキーボードボイス	17
アフターT.(アフタータッチ)	30

イ

イジェクトボタン	73
一時停止(MDR)	88
イニシャルT(イニシャルタッチ)	29
インサート(レジストレーションシフト)	71
インターナル/エクスターナル(MIDI IN)	106
イントロ/エンディング	45

ウ

上鍵盤ボイス	17
--------	----

エ

エクスペッション	103
エクスペッションペダル	11, 103
エフェクト	28, 31
エフェクトイメージ(ディレイ)	36
エフェクトセット	33
演奏データ	78
エンディング	45

オ

オートバリエーション(リズム)	47
オートベースコード(A.B.C.)	51
音群	17
音群選択	34
音色	17

カ

カーソルコントロール(レジストレーションシフト)	70
カスタムA.B.C.	51
カスタムブレイ(MDR)	88
カスタムブレイボタン	88
カテゴリー(キーボードパーカッション)	58

キ

キーボードパーカッション	55
基本レジストレーション	11

ク

グライド(フットスイッチ)	99
クリア(キーボードパーカッション)	58

コ

コード	52
コーラス	34, 41
コピー/LKプリセット(キーボードパーカッション)	61
コピー/PKプリセット(キーボードパーカッション)	62
コピー/ユーザー(キーボードパーカッション)	62
コントロール(エフェクト)	28
コントロールデータ	78

サ

再生(MDR)	84
再生テンポ(MDR)	89
サステイン	40
サステイン/ニールパーコントロール	101

シ

下鍵盤プリセット	56
下鍵盤ボイス	17
シフト(レジストレーションシフト)	69
シフトエンド	70
シフトエンドマーク	70
シフトボタン	75
シャッター	74
ジャンプ(レジストレーションシフト)	69
受信(MIDI)	106
出力端子	107
シングルフィンガー	51
シンクロ(MIDI IN)	106
シンクロスタート	45
シンフォニック	31, 34

ス

スタート	45
ストップ(MDR)	77
ストップ(シフトエンド)	70
スピード(ビブラート)	32
スピード(フランジャー)	37
スピード(トレモロ)	43
スライド	33
スライドタイム	33

セ

セット(キーボードパーカッション)	58
セレステ	34

ソ

ソロ(XG)	86
ソングコピー	90
ソングセレクトボタン	75
ソングデリート	92
ソングリビートボタン	85

タ

タイプ(アカンパニメント)	54
タイプ(リバーブ)	39
タイム(ディレイ)	35
打楽器名(キーボードパーカッション)	58
タクト	45
タッチトーン	29
タッチビブラート	30

チ

チャーチ(リバーブ)	39
チューン	33

テ

データエディット(レジストレーションシフト)	71
データコントロールボタン	14
ディスエーブル(D.)ボタン	67, 72
ディスクコピー	92
ディストーション	31, 38
ディスプレイセレクト	20
ディレイ(エフェクト)	31, 35
ディレイ(ビブラート)	32
デジタルディスプレイ	75
デプス(ビブラート)	32
デプス(フランジャー)	37
デプス(リバーブ)	39
デリート(レジストレーションシフト)	71
テンポ(MDR)	89
テンポダイアル	46

ト

トゥーローワー	21
ドットボタン(ボイス)	21
ドットボタン(リズム)	48
トップ(シフトエンド)	70
トランスポーズ	104
トレモロ(エフェクト)	31, 34, 41
トレモロ(フットスイッチ)	100

ニ

ニールパー	101
ニールパー(メロディオンコード)	64
入力端子	107

ネ

ネクストソング(シフトエンド)	70
-----------------	----

ハ

バー/ビート	46
パート(XG)	86
パート再生	84
パート録音	79
ハイパス(ディストーション)	38
早送り(MDR)	88
バランス(ディレイ)	36
バランス(リズム)	47
パワーオンリセット	72
パワースイッチ	10
パン	30
パンチイン録音	81

ヒ

ピッチ	104
ビブラート	32
表示言語	16

フ

フィート	30
フィードバック(ディレイ)	35
フィードバック(フランジャー)	37
フィルイン	46
フィンガードコード	51
フォーマット	75
フォーマットボタン	75
付属端子	107
フットスイッチ(左)	98
フットスイッチ(右)	68
フットスイッチボタン	98
フランジャー	31, 37
プリセット(エフェクト)	31
プリセット(キーボードパーカッション)	55
プリセット(ビブラート)	32
プリリアンス	30
フロッピーディスク	73
フロッピーディスク挿入口	73

へ

ページボタン	14
ペダル(MIDI OUT)	105
ペダル鍵盤プリセット	56
ペダルボイス	17

ホ

ボーズ(MDR)	88
ボーズボタン	88
ホール(リバーブ)	39
ボイスコンディション	29
ボイスディスク	94
ボイスディスプレイ	17
ボイスディスプレイボタン	16, 20
ボイスメニュー	18, 23
ボジション(レジストレーションシフト)	70
ボリューム(XG)	86
ボリューム(アカンパニメント)	54
ボリューム(ボイスコンディション)	30
ボリューム(リズム)	47

マ

巻戻し(MDR)	88
マスターボリューム	11
マニュアルバランス	20

ミ

ミュージックディスクレコーダー(MDR)	73
ミュート(XG)	86

メ

メモリー(M./TO DISK)ボタン	66, 72
メモリー(下鍵盤/ペダル)	52
メモリー残量(MDR)	94
メロディオンコード/ニールバーコントロール	102
メロディオンコード(M.O.C.)	63

モ

モード(コーラス)	43
モード(ディレイ)	36
モード(メロディオンコード)	64

ユ

ユーザー(レジストレーションシフト)	70
ユーザー音色(ボイス)	23
ユーザーキーボードパーカッション	57
ユーザー切り替え(ビブラート)	32
ユーザーリズム	49
ユーズランブ	73

ラ

ライトプロテクトタブ	74
------------	----

リ

リード&オートインクリメント(MDR)	88
リードスライド/ニールバーコントロール	102
リードボイス	17
リズム	44
リズム(フットスイッチ)	99
リズムコンディション	47
リズムシーケンス	65
リズムパターンディスク	94
リズムメニュー	50
リトライ	77
リバーブ(ボイスコンディション)	30, 39
リバーブ(リズム)	47
リピート再生	85

ル

ルーム(リバーブ)	39
-----------	----

レ

レコードボタン	76
レジストレーションシフト	68
レジストレーションデータ	78
レジストレーションの記録	82
レジストレーションメモリー	66
レベル(ディストーション)	38
レンジス(リバーブ)	39

ロ

録音	76
ロワー キーボードボイス	17
ロワー(MIDI OUT)	105

資料

モード(コーラス)	43
モード(ディレイ)	36
モード(メロディオンコード)	64

索引2(パネル/LCDディスプレイ表記別)

A

A.B.C.	51
A.B.C./M.O.C.ボタン	51, 63
ACC.(アカンパニメント)リバーブ	54
AUX. OUT端子	107

B

BAL.(リズム)	47
BAR/BEAT	46
BASIC REGIST.	11

C

CUSTOM PLAYボタン	88
----------------------	----

D

D.(ディスエーブル)ボタン	67, 72
DATA CONTROLボタン	14
DELETE	71
DISPLAY SELECT	20

E

EFFECT SET	33
ENDING	45
EXP.(エクスプレッション)	103

F

FOOT SW.(フットスイッチ)ボタン	98
FORMATボタン	75

H

HEADPHONES端子	107
HOST SELECT	107

I

INSERT	71
--------------	----

K

KEYBOARD PERCUSSION	55
---------------------------	----

L

LCD Display	13
LCDディスプレイ	13
LEAD VOICE	17
LEAD(MIDI)	106
LEDメッセージ(MDR)	97
LK(下鍵盤)プリセット	56
LOWER KEYBOARD VOICE	17

M

M./TO DISK(メモリー)ボタン	66, 72
M.BAL(ボイス)	20
MASTER VOLUME	11
MDR	73
MIDI	105, 108
MIDI IN	106
MIDI OUT	105
MIDIコントロール	105
MIDI端子	107

P

PAGEボタン	14
PAUSEボタン	88
PEDAL VOICE	17
PITCH/MIDIボタン	103, 104, 105
PK(ペダル鍵盤)プリセット	56
PLAYボタン	76
POWERスイッチ	10

R

RECORDボタン	76
REGIST. SHIFTボタン	68
RETRY	77
REVERB	39
RHYTHM	44
RHYTHM IN端子	107

S

SEQ.ボタン	65
SHIFTボタン	75
SONG REPEATボタン	85
SONG SELECTボタン	75
START	45
STOP	77
SYNC.(MIDI IN)	106
SYNCHRO START	45

T

T.V(タッチピブラート)	30
TEMPOダイヤル/表示	46
TO HOST端子	107
TO LOWER	21
TREMOLO(FAST)ボタン	42

U

UPPER KEYBOARD VOICE	17
----------------------------	----

V

ボイスディスプレイ	17
VOICE DISPLAYボタン	16, 20

X

XG	4, 86
X G簡易変換機能	87



保証とアフターサービス

サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはお近くのヤマハ電気音響製品サービス拠点にご連絡ください。

保証書

このエレクトーンには保証書がついています。保証書は納入調整サービスの際に所定事項を記入して発行いたしますので、内容をご確認のうえ、大切に保管してください。

保証期間

お買い上げ日から1年間です。

保証期間中の修理

保証書記載内容に基づいて修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理

修理すれば使用できる場合は、ご希望により有料にて修理させていただきます。

下記の部品については、使用時間により劣化しやすいため、消耗に応じて部品の交換が必要となります。消耗部品の交換は、お買い上げ店またはヤマハ電気音響製品サービス拠点へご相談ください。

消耗部品の例

ボリュームコントロール、スイッチ、ランプ、リレー類、接続端子、鍵盤機構部品、鍵盤接点、フロッピーディスクドライブなど

補修用性能部品の最低保有期間

製品の機能を維持するために必要な部品の最低保有期間は、製造打切後8年です。

修理のご依頼

まず本書の「故障かな?と思ったら」をよくお読みのうえ、もう一度お調べください。

それでも異常があるときは、お買い上げの販売店、または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点へ修理をお申し付けください。

製品の状態は詳しく

修理をご依頼いただくときは、製品名、モデル名などとあわせて、故障の状態をできるだけ詳しくお知らせください。

ヤマハ電気音響製品サービス拠点 (修理受付および修理品お持込み窓口)

北海道サービスセンター	〒064-8543	札幌市中央区南10条西1丁目1-50 ヤマハセンター内	TEL.(011)512-6108
仙台サービスステーション	〒984-0015	仙台市若林区卸町5-7 仙台卸商共同配送センター3F	TEL.(022)236-0249
首都圏サービスセンター	〒211-0025	川崎市中原区木月1184	TEL.(044)434-3100
浜松サービスステーション	〒435-0016	浜松市和田町200 ヤマハ(株)和田工場内	TEL.(053)465-6711
名古屋サービスセンター	〒454-0058	名古屋市中川区玉川町2-1-2 ヤマハ(株)名古屋流通センター3F	TEL.(052)652-2230
大阪サービスセンター	〒565-0803	吹田市新芦屋下1-16 ヤマハ(株)千里丘センター内	TEL.(06)6877-5262
四国サービスステーション	〒760-0029	高松市丸亀町8-7 (株)ヤマハミュージック神戸 高松店内	TEL.(087)822-3045
広島サービスステーション	〒731-0113	広島市安佐南区西原6-14-14	TEL.(082)874-3787
九州サービスセンター	〒812-8508	福岡市博多区博多駅前2-11-4	TEL.(092)472-2134

[本社]

カスタマーサービス部 〒435-0016 浜松市和田町200 ヤマハ(株)和田工場内 TEL.(053)465-1158

所在地・電話番号などは変更されることがあります。

ヤマハ株式会社

北海道支店 〒064-8543 札幌市中央区南10条西1丁目1-50 ヤマハセンター
鍵盤営業課 TEL 011(512)6114

仙台支店 〒980-0804 仙台市青葉区大町2-2-10 住友生命仙台青葉通りビル
鍵盤営業課 TEL 022(222)6025

東京支店 〒108-8568 東京都港区高輪2-17-11
エレクトーン・クラビノーバ推進グループ TEL 03(5488)5463

名古屋支店 〒460-8588 名古屋市中区錦1-18-28
鍵盤営業課 TEL 052(201)5140

大阪支店 〒542-0081 大阪市中央区南船場3-12-9 心斎橋プラザビル東館
エレクトーン・クラビノーバ推進グループ TEL 06(6252)2390

九州支店 〒812-8508 福岡市博多区博多駅前2-11-4
鍵盤営業課 TEL 092(472)2153

PA・DMI事業部 〒430-8650 浜松市中沢町10-1
EKB 国内営業部営業第1グループ TEL 053(460)2191

*住所および電話番号は変更になる場合があります。

エレクトーンに関するあらゆる質問にお答えします。

エレクトーンインフォメーション

営業時間:月～金 10:00～12:00 13:00～17:00

フリーダイヤル  0120-186-808

インターネットホームページ
<http://www.yamaha.co.jp/>



この取扱説明書は
大豆油インクで印刷しています。



この取扱説明書は
エコマーク認定の
再生紙を使用しています。



この取扱説明書は
エコパルプ(ECF:無塩素系漂白パルプ)
を使用しています。